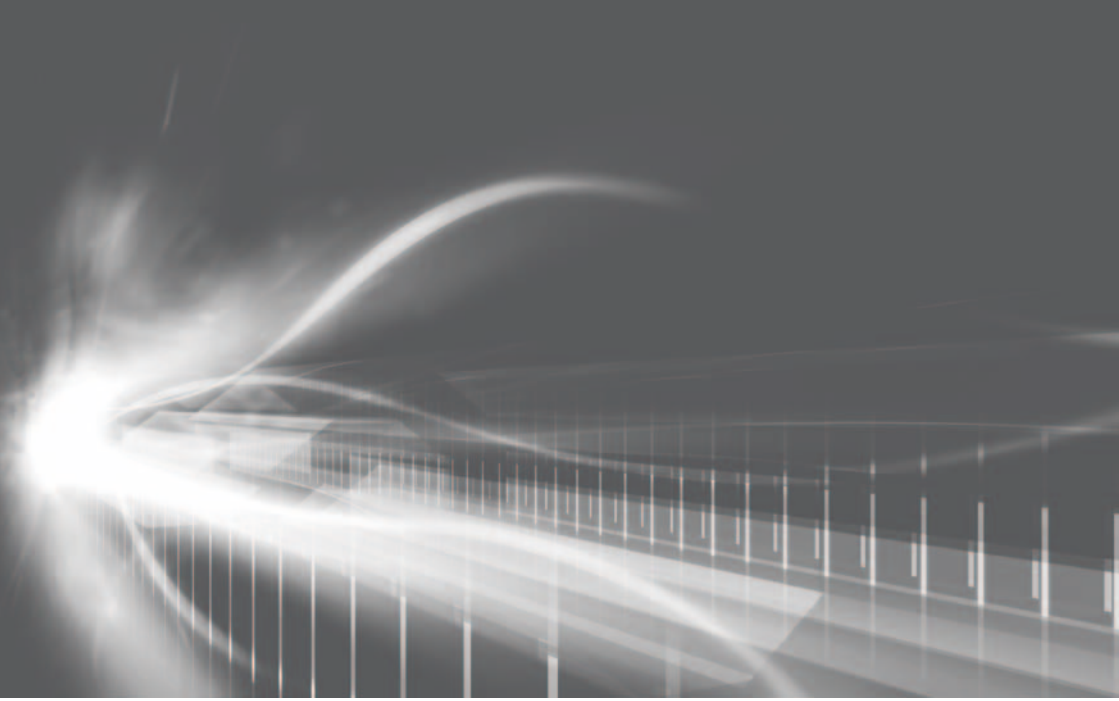


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

COROLLA AXIO

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 30
お子さまの安全のために 39
子供専用シート 40
チャイルドシートの取り付け 48
排気ガスに対する注意 54

1-2. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 55
ハイブリッドシステムの注意 59

1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 64

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 66
計器類 70
マルチインフォメーションディスプレイ 73

3 各部の操作

3-1. キー
キー 86

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 90
トランク 96
スマートエントリー＆スタートシステム 100

3-3. シートの調整
フロントシート 106
ヘッドレスト 107

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 109
インナーミラー 111
ドアミラー 112

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 116

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって.....120
荷物を積むときの注意.....130

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）.....131
パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）.....135
EV ドライブモード.....141
トランスミッション.....144
方向指示レバー.....146
パーキングブレーキ.....147

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ.....148
フォグランプスイッチ.....152
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....153
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....156

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方.....158

4-5. Toyota Safety Sense C
Toyota Safety Sense C.....161
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....166
LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）...174
オートマチックハイビーム....180
先行車発進告知機能.....184

4-6. 運転支援装置について
運転を補助する装置.....186

4-7. 運転のアドバイス
ハイブリッド車運転のアドバイス.....192
寒冷時の運転.....194

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
オートエアコン.....198
シートヒーター（フロントシート）.....206

5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧.....208
・パーソナルランプ.....209
・ルームランプ.....209

5-3. 収納装備
収納装備一覧.....211
・グローブボックス.....212
・助手席アッパーボックス.....212
・コンソールボックス.....213
・カップホルダー／ボトルホルダー.....214
・コインホルダー.....216
トランク内装備.....217

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 218
・サンバイザー.....218
・バニティミラー.....218
・アクセサリーソケット 219
・アシストグリップ.....220
・時計 221
・リヤアームレスト.....222
・ステアリングスイッチ 223

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....226
内装の手入れ.....229
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.....232
ガレージジャッキ 235
ウォッシャー液の補充 236
タイヤについて 237
タイヤ空気圧について 241
エアコンフィルターの交換....243
キーの電池交換.....245
ヒューズの点検・交換 248
電球（バルブ）の交換 251

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 266
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 267
発炎筒 268
車両を緊急停止するには..... 270
7-2. 緊急時の対処法
けん引について 272
警告灯がついたときは 279
警告メッセージが
表示されたときは..... 283
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）..... 297
パンクしたときは
（タイヤパンク応急
修理キット装着車）..... 308
ハイブリッドシステムが
始動しないときは..... 321
シフトレバーが
シフトできないときは..... 323
電子キーが正常に働かない
ときは（スマート
エントリー＆スタート
システム装着車）..... 324
補機バッテリーが
あがったときは 326
オーバーヒートしたときは... 331
スタックしたときは 335

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....338
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....344

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....348
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....352
アルファベット順さくいん.....354
五十音順さくいん.....355

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・電気モーターの回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション
・駆動用電池の状態

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense C

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

ハイブリッドシステムについて

カローラアクシオは電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせたハイブリッドシステムを採用しています。
カローラアクシオを安全・快適にお使いいただくために本書をしっかりとお読みください。

本書の見方

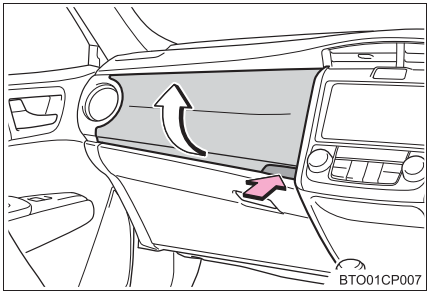
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

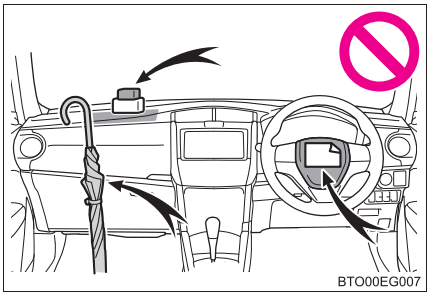
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

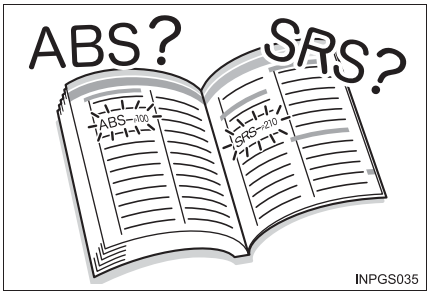


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

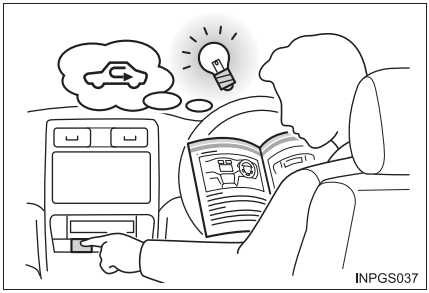
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....355
・アルファベット順
さくいん.....354



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

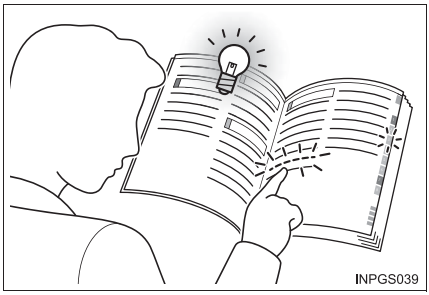


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....348
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....352

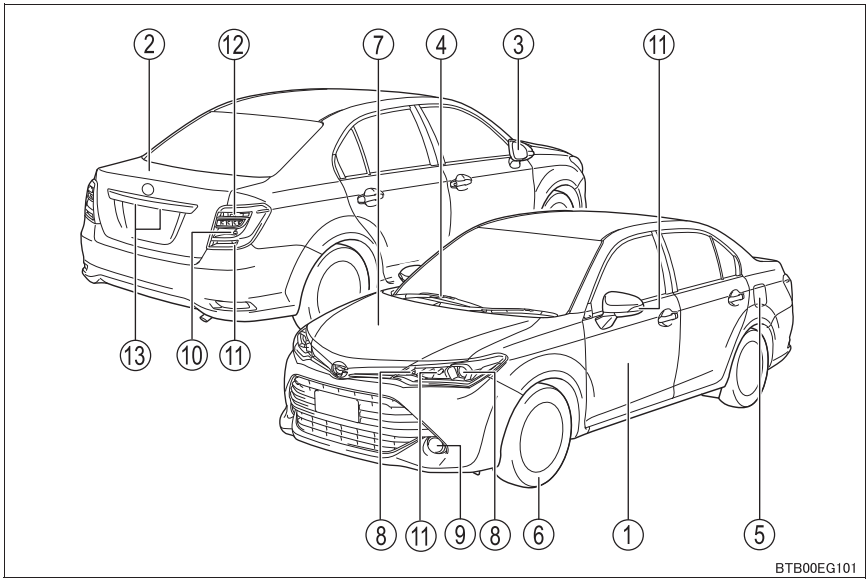
■ タイトルから探す

・目次.....2



イラスト目次

■ 外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。（→ P. 251）

① **ドア . . . . . P. 90**

施錠／解錠 . . . . . P. 90, 92

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 116

キーでの施錠／解錠★ . . . . . P. 91, 324

警告メッセージ . . . . . ., P. 283

② **トランク . . . . . P. 96**

車内から開ける . . . . . P. 96

車外から開ける . . . . . P. 96

キーで開ける★ . . . . . P. 97

警告メッセージ . . . . . ., P. 283

③ **ドアミラー . . . . . P. 112**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 112

ミラーの格納 . . . . . P. 112

曇りを取る（ミラーヒーター）★ . . . . . P. 114

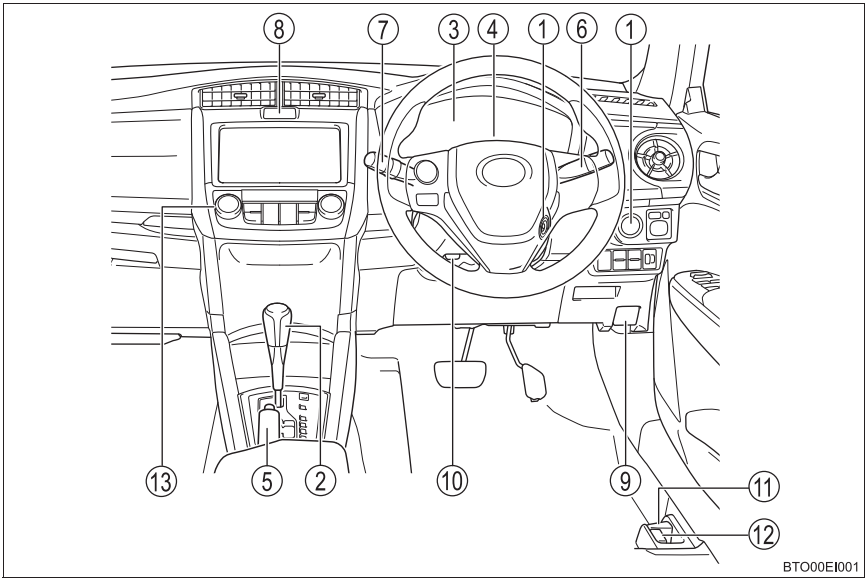
④ **ワイパー**.....P. 153, 156
冬季の注意.....P. 195
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★.....P. 200
⑤ **給油口**.....P. 158
給油方法.....P. 158
燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 158, 338
⑥ **タイヤ**.....P. 237
サイズ・空気圧.....P. 342
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 195
点検・ローテーション.....P. 237
パンク時の対処.....P. 297, 308
⑦ **ボンネット**.....P. 232
開け方.....P. 232
エンジンオイル.....P. 339
オーバーヒート時の対処.....P. 331

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 251, ワット数：P. 343）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯**.....P. 148
⑨ **フロントフォグランプ★**.....P. 152
⑩ **尾灯**.....P. 148
⑪ **方向指示灯**.....P. 146
⑫ **後退灯**
シフトポジションをRにする.....P. 144
⑬ **番号灯**.....P. 148

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



① **エンジンスイッチ★／パワースイッチ★ . . . . . P. 131, 135**

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . P. 131, 135

ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 270

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 321

警告メッセージ . . . . . P. 293

② **シフトレバー . . . . . P. 144**

シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 144

けん引時の注意 . . . . . P. 272

シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 323

③ **メーター . . . . . P. 70**

見方・明るさの調整 . . . . . P. 70

警告灯／表示灯 . . . . . P. 66

警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 279

④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 73**

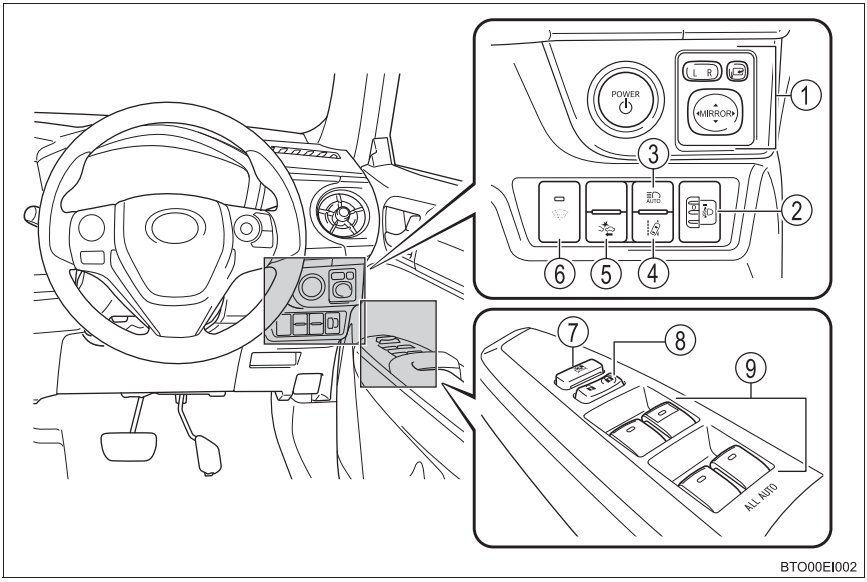
表示内容 . . . . . P. 73

警告メッセージ . . . . . P. 283

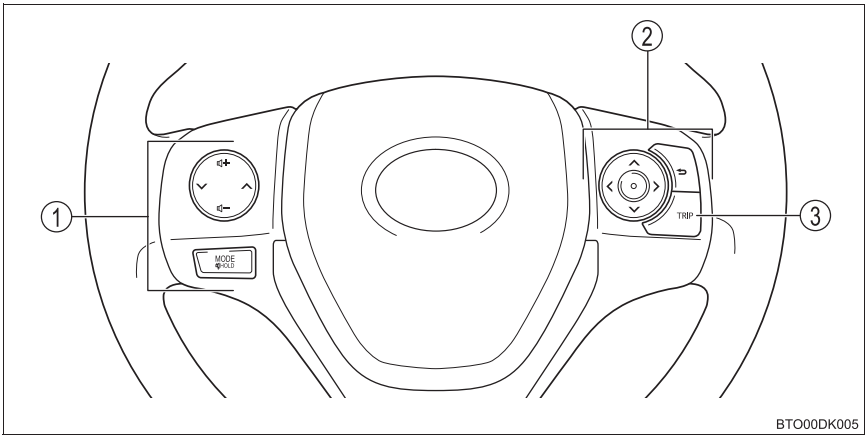
⑤ **パーキングブレーキ . . . . . P. 147**
かける・解除する . . . . . P. 147
冬季の注意 . . . . . P. 195
警告ブザー・警告メッセージ. . . . . P. 283
⑥ **方向指示レバー. . . . . P. 146**
ランプスイッチ. . . . . P. 148
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯. . . . . P. 148
フロントフォグランプ★ . . . . . P. 152
⑦ **ワイパー&ウォッシャースイッチ . . . . . P. 153, 156**
使い方. . . . . P. 153, 156
ウォッシャー液の補充. . . . . P. 236
⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . P. 267**
⑨ **ボンネット解除レバー. . . . . P. 232**
⑩ **ハンドル位置調整レバー . . . . . P. 109**
⑪ **トランクオープナー . . . . . P. 96**
⑫ **給油口オープナー . . . . . P. 158**
⑬ **オートエアコン. . . . . P. 198**
操作方法 . . . . . P. 198
リヤウインドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー）. . . . . P. 200

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類

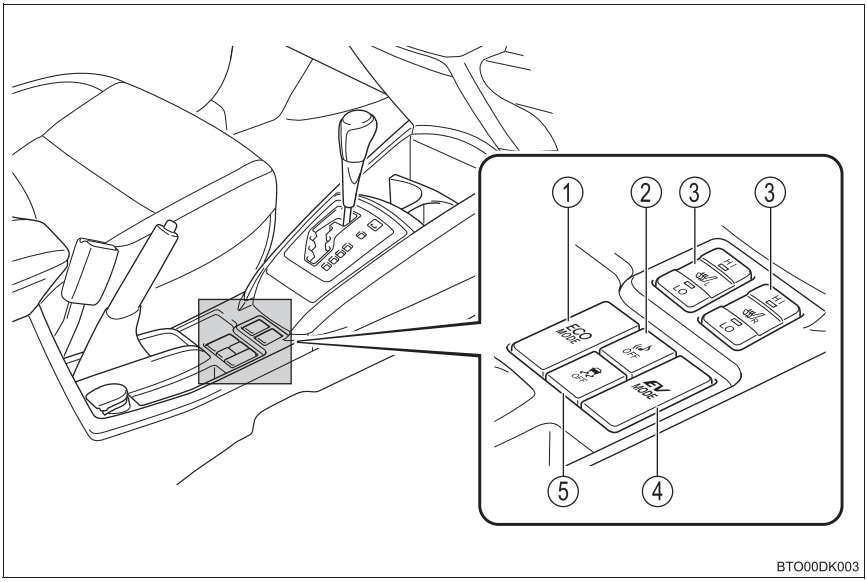


① ドアミラースイッチ . . . . . .P. 112
② 手動光軸調整ダイヤル★ . . . . . .P. 149
③ オートマチックハイビームスイッチ★ . . . . . .P. 180
④ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ★. . . . . .P. 174
⑤ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）スイッチ★ . . . . .P. 167
⑥ ウインドシールドデアイサースイッチ★. . . . . P. 200
⑦ ウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 116
⑧ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 92
⑨ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 116



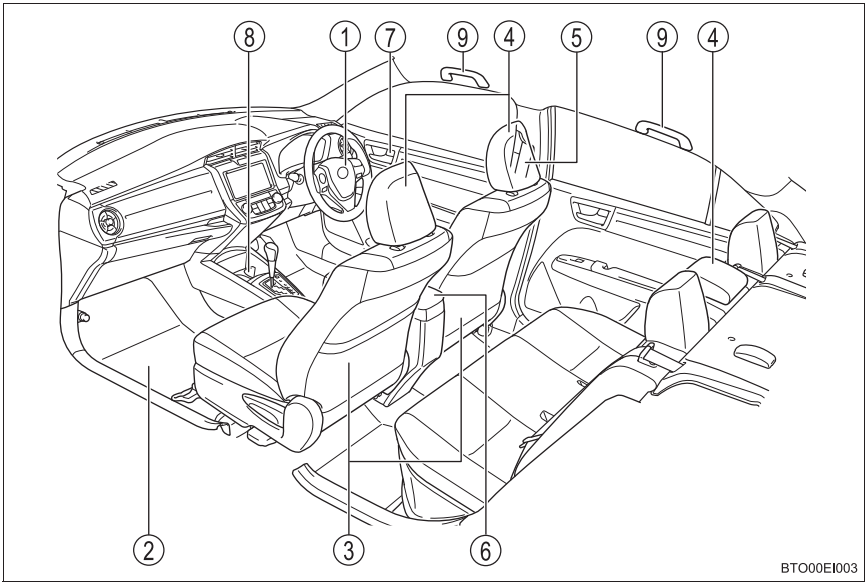
① オーディオ操作スイッチ★ . . . . . P. 223
② メーター操作スイッチ . . . . . P. 73
③ TRIP スイッチ . . . . . P. 71

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



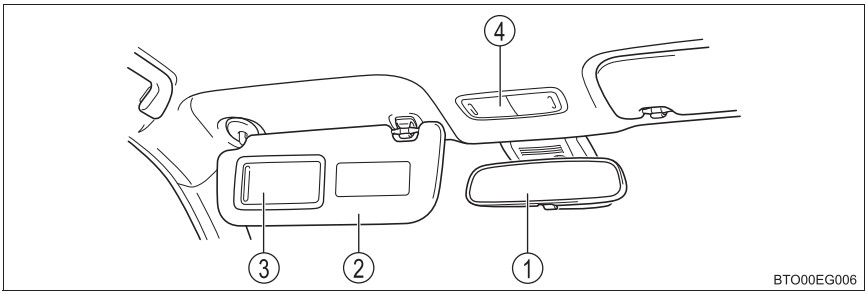
① エコモードスイッチ . . . . . .P. 145
② 車両接近通報装置 OFF スイッチ . . . . . P. 56
③ シートヒータースイッチ★. . . . . .P. 206
④ EV ドライブモードスイッチ . . . . . .P. 141
⑤ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 187

■ 室内



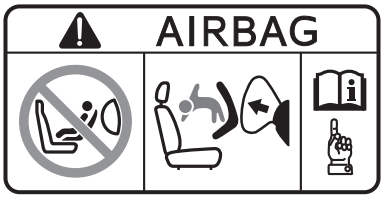
① SRS エアバッグ . . . . . P. 30
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 106
④ ヘッドレスト . . . . . P. 107
⑤ シートベルト . . . . . P. 26
⑥ コンソールボックス . . . . . P. 213
⑦ ロックレバー . . . . . P. 93
⑧ カップホルダー . . . . . P. 214
⑨ アシストグリップ . . . . . P. 220

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① インナーミラー . . . . . P. 111
② サンバイザー※ . . . . . P. 218
③ バニティミラー . . . . . P. 218
④ パーソナルライト . . . . . P. 209

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 53）



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために 24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....30
お子さまの安全のために 39
子供専用シート.....40
チャイルドシートの
取り付け.....48
排気ガスに対する注意 54
1-2. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 ..55
ハイブリッドシステムの注意 ..59
1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 64

運転する前に

点検整備

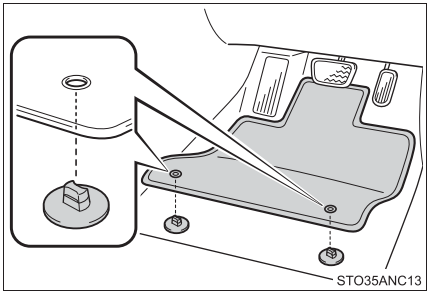
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

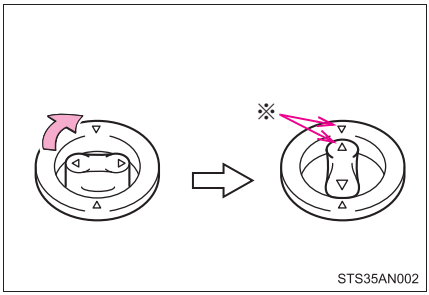
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

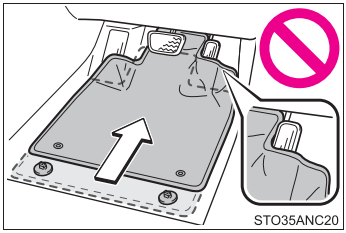
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

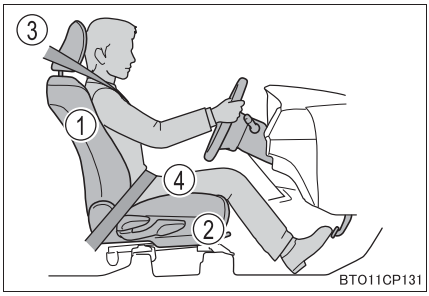
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する


STO35ANC20

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 106）

② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 106）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 107）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 40）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 111, 112）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

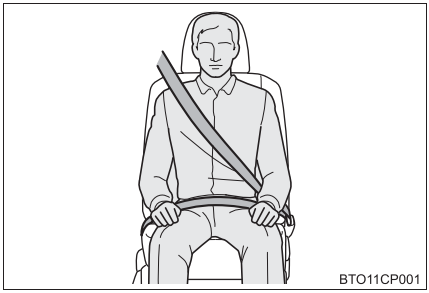
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

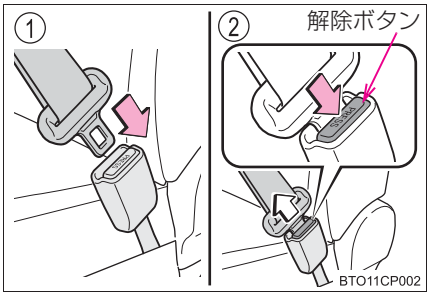
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする


BTO11CP001

着け方・はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

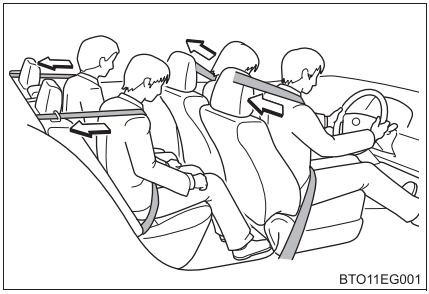


BTO11CP002

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。


BTO11EG001

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 40）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて

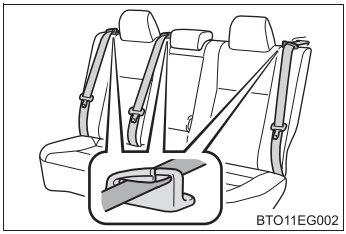
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

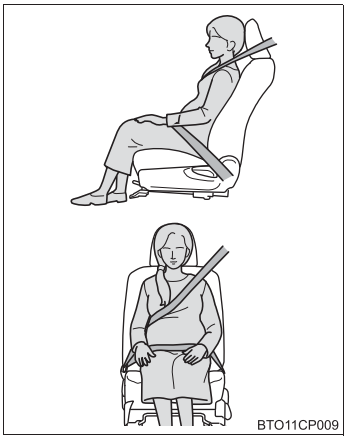
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤシートベルトを使用するときは、シートベルトが正しくガイドに通っているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。


BTO11EG002

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


BTO11CP009

警告

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

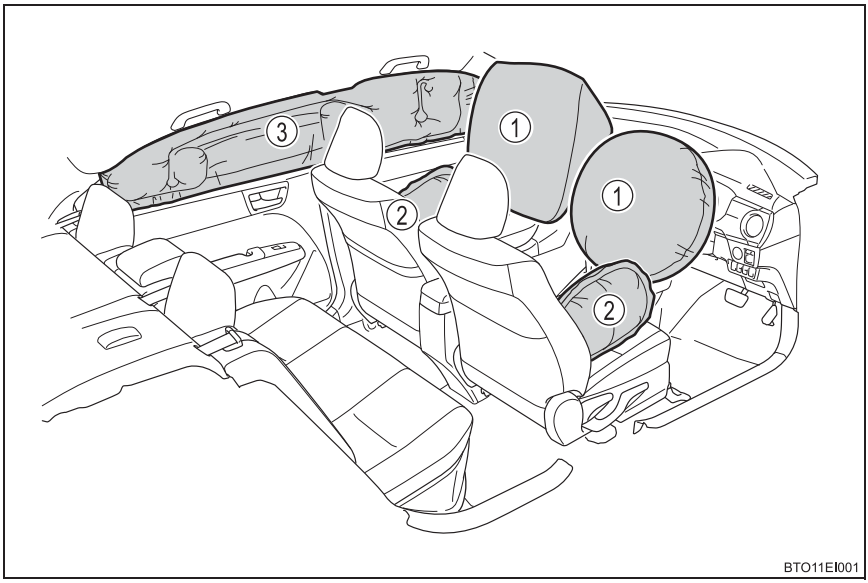
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

② SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

③ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

■SRS エアバッグについて

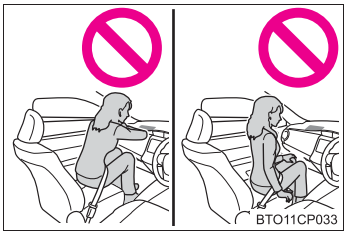
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

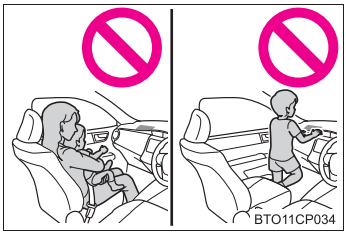
●お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 40）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

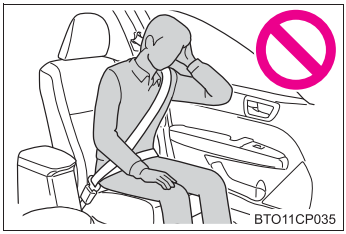


●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



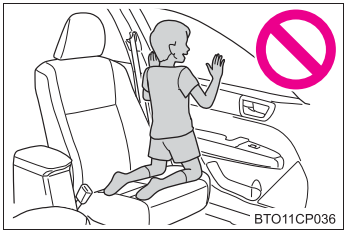
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



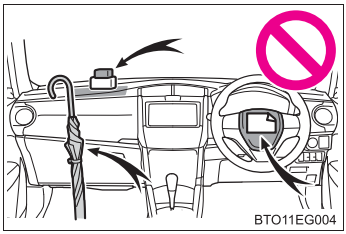
警告

■SRS エアバッグについて

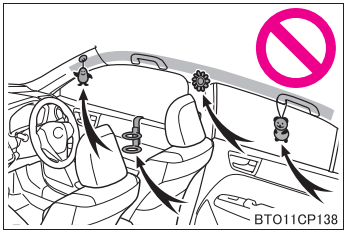
●助手席・リヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・助手席アッパーボックスのフタの上・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→ P. 314）



警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲・やけど・すり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

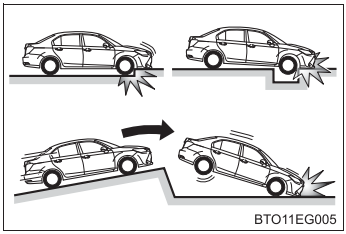
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロントSRSエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

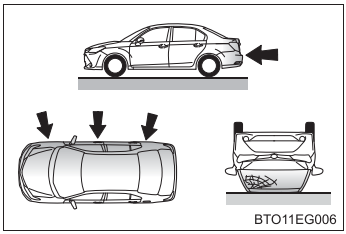
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRSエアバッグが作動しないとき（フロントSRSエアバッグ）

フロントSRSエアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロントSRSエアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

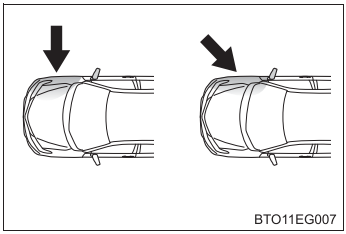


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

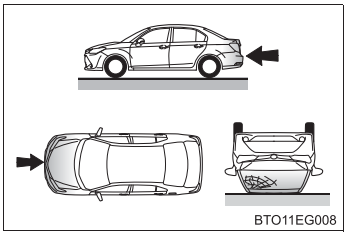


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

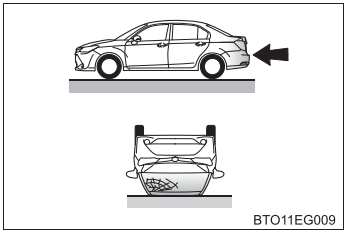
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

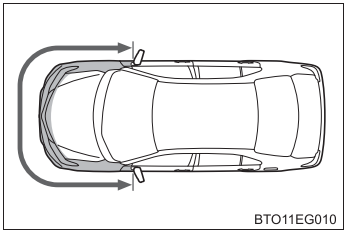


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

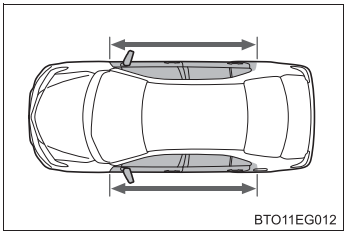
次のような場合には、修理・点検等が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

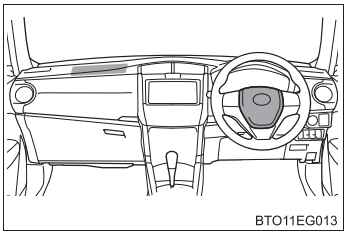
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



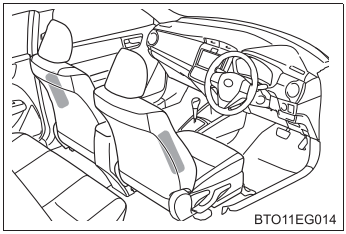
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



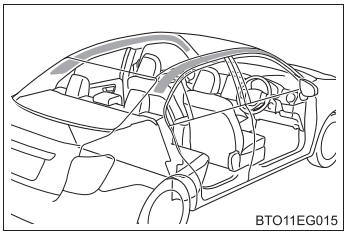
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 40）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 94）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 116）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。（→ P. 48）

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0：10kgまで
グループ0＋：13kgまで
グループⅠ：9～18kg
グループⅡ：15～25kg
グループⅢ：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

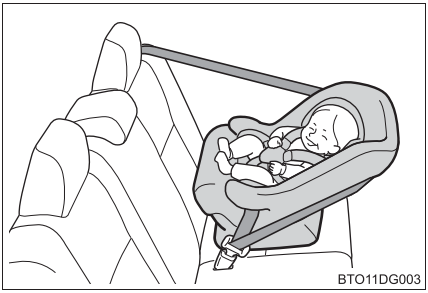
※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

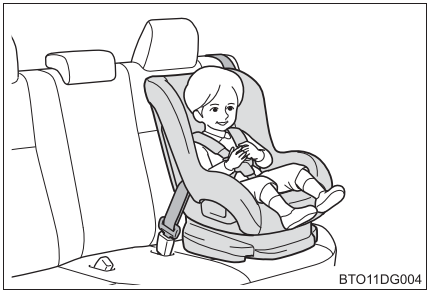
子供専用シートの種類

▶ ベビーシート



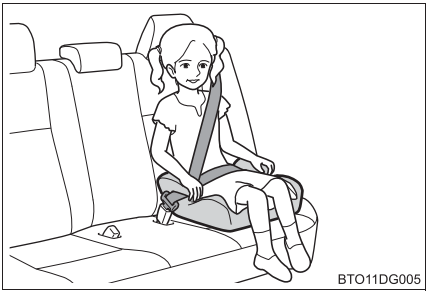
ECE R44 基準のグループ 0、0 ＋に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0 ＋、Ⅰに相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="3">着席位置（または他の位置）</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">リヤシート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>右席
左席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0（10kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>L1</td></tr>
<tr><td>0＋（13kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>L1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ（9 ～ 18kg）</td><td>うしろ向き
×</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">L1</td></tr>
<tr><td>前向き
L1</td></tr>
<tr><td>Ⅱ（15 ～ 25kg）</td><td>L2 ※</td><td>×</td><td>L2 ※</td></tr>
<tr><td>Ⅲ（22 ～ 36kg）</td><td>L2 ※</td><td>×</td><td>L2 ※</td></tr>
</table>

● 上記に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

L1： この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child baby」に適しています。

L2： この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 ジュニアシート」に適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

※ 子供専用シートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL ※
0＋（13kg まで）	E	ISO/R1	IL ※
	D	ISO/R2	IL ※
	C	ISO/R3	IL ※
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF ※ , IL ※
	B1	ISO/F2X	IUF ※ , IL ※
	A	ISO/F3	IUF ※ , IL ※
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上記に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A　から　G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：　この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO　G-Child　ISO leg」に適しています。

×：　ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※ リヤシート左右席に子供専用シートを取り付けたときは、リヤ中央席に座らないでください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0＋（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
Ⅰ（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 42）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→ P. 43）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 ＋」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0 ＋」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

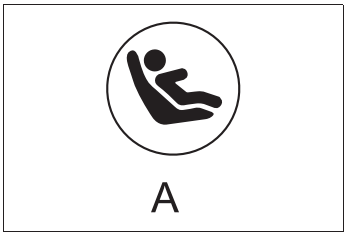
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

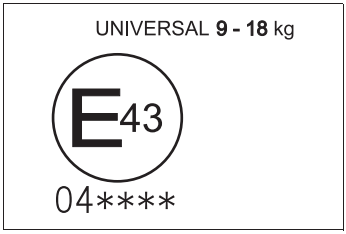
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



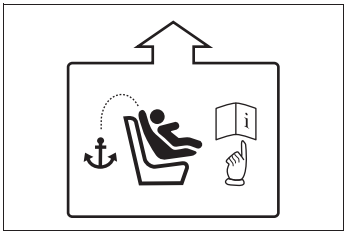
② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



③ トップテザー（→ P. 48）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



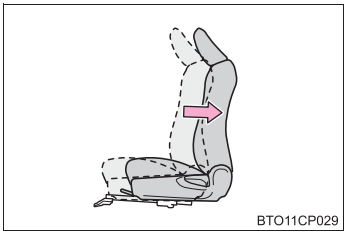
■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

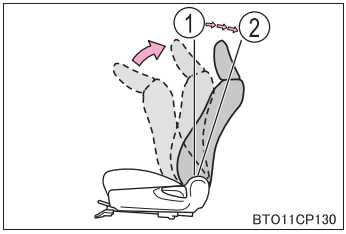
●シートをいちばんうしろにさげる



●背もたれをいったん前に倒し、1 段目の固定位置まで起こし、4 段目の固定位置まで調整する

① 1 段目

② 4 段目



■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

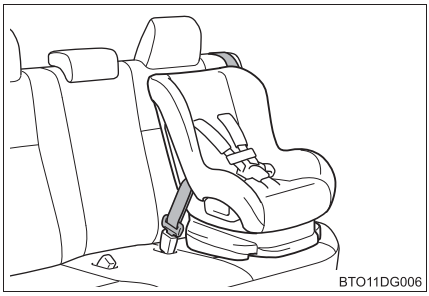
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

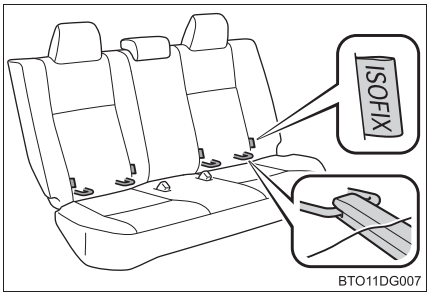
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
（→ P. 49）



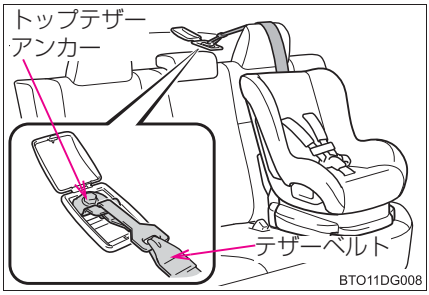
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→ P. 50）

リヤ外側席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



トップテザーアンカー（→ P. 50）

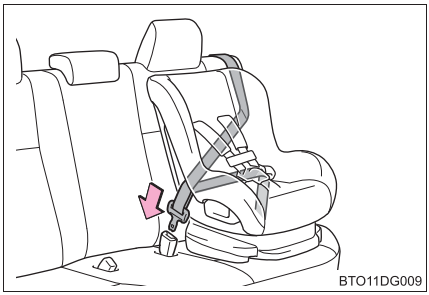
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤ外側席に装備されています。



シートベルトで固定する

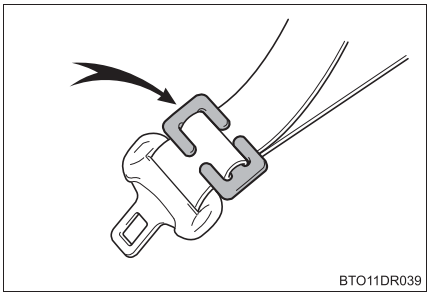
1 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。


BTO11DG009

2 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

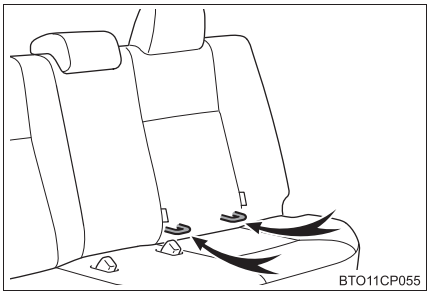

BTO11DR039

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

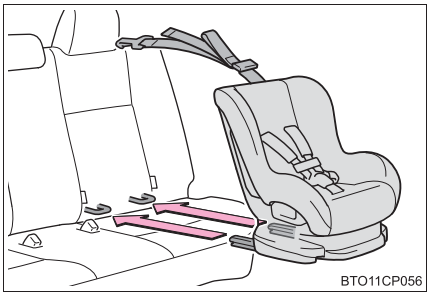
1 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



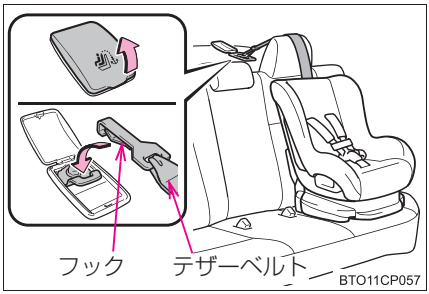
2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

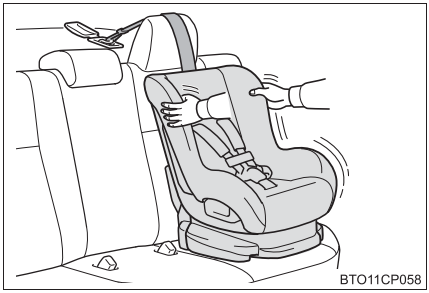


3 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

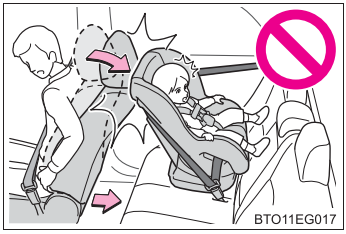
●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

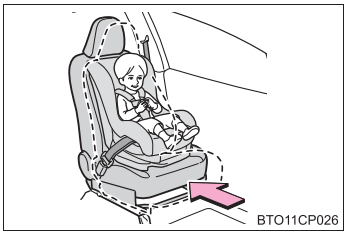
■チャイルドシートを取り付けるとき

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

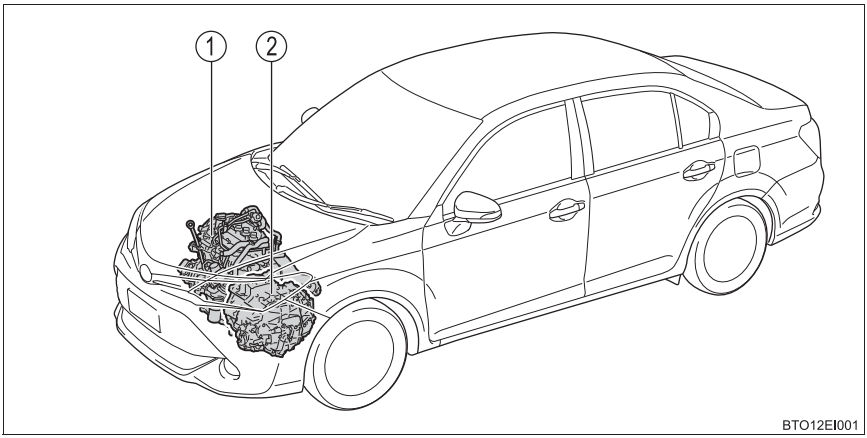
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという２つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。
シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 57）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

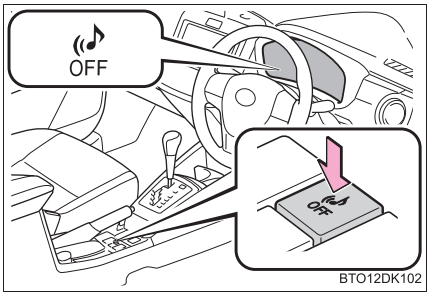
車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、READY インジケーターが点灯している状態で、スイッチを押す

メーター内の車両接近通報装置 OFF 表示灯（→ P. 68）が点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。ハイブリッドシステムを始動するごとに、車両接近通報装置は ON になります。



知識

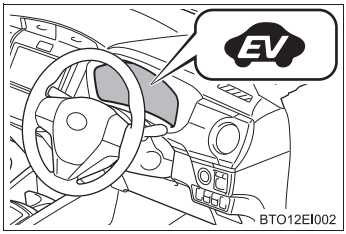
■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているとき、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 326

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音

●トランクを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●後席足元にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

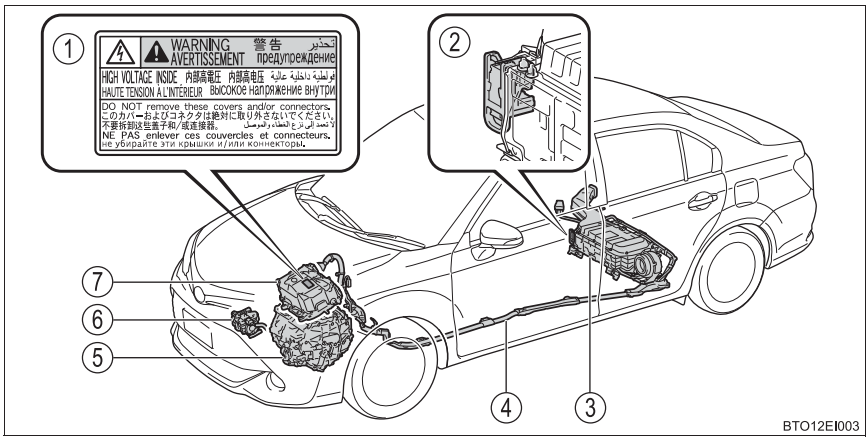
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

車両接近通報装置の音量を大きくするように変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 344）

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約520V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

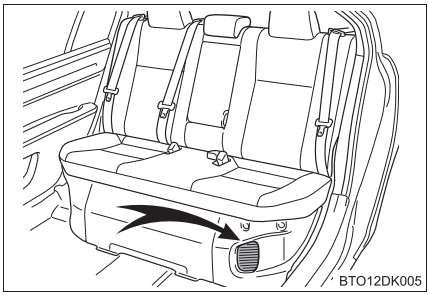


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② サービスプラグ
③ 駆動用電池
④ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑤ 電気モーター
⑥ エアコンコンプレッサー
⑦ パワーコントロールユニット

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート下（左側）部には駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。



緊急停止システム

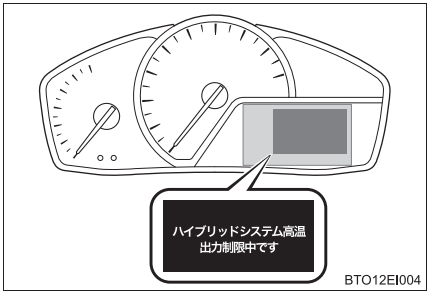
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 283）



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 280）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 5L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

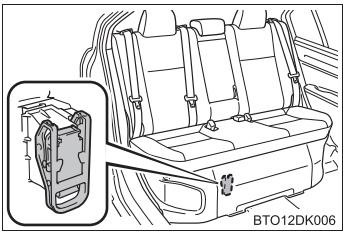
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪が接地した状態でけん引しない
駆動系部品が破損するおそれがあります。（→ P. 272）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。

●吸入口は、目づまりしないよう定期的に掃除機などで清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーシステム★

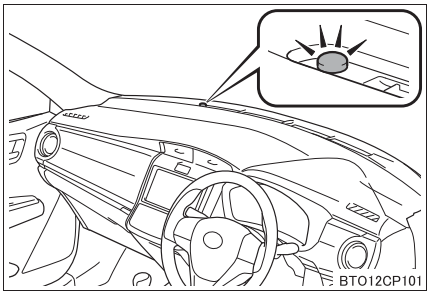
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムがを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メーターの見方

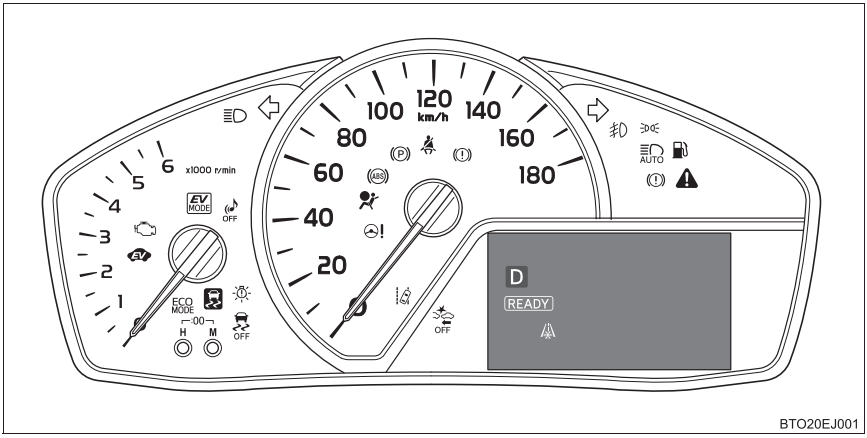
2

2.　計器の見方
警告灯／表示灯.....66
計器類.....70
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....73

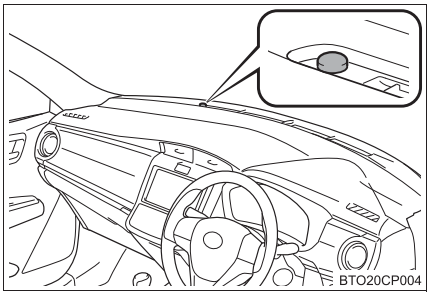
警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター



◆ ダッシュボード（イモビライザーシステム装着車）



警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

※

（黄色）
電子制御ブレーキ警告灯
（→ P. 279）

※

（赤色）
ブレーキ警告灯
（→ P. 279）

※

エンジン警告灯
（→ P. 279）

※

SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→ P. 279）

※

ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯（→ P. 279）

※

パワーステアリング警告灯
（→ P. 279）

パーキングブレーキ
未解除警告灯
（→ P. 279）

※

スリップ表示灯
（→ P. 280）

燃料残量警告灯
（→ P. 280）

シートベルト非着用警告灯
（→ P. 280）

※

（点滅）
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★
（→ P. 280）

※

LED ヘッドランプ警告灯★
（→ P. 280）

※

マスターウォーニング
（→ P. 281）

※ 作動確認のためにエンジンスイッチ★を “ON” または パワースイッチ★を ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 146）

尾灯表示灯（→ P. 148）

ハイビーム表示灯
（→ P. 148）

オートマチックハイビーム
表示灯★（→ P. 180）

※1、3

VSC OFF 表示灯
（→ P. 188）

LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯★
（→ P. 174）

フロントフォグランプ
表示灯★（→ P. 152）

EV ドライブモード表示灯
（→ P. 141）

※1、3

車両接近通報装置
OFF 表示灯（→ P. 56）

ECO MODE 表示灯
（→ P. 145）

※5

EV インジケーター
（→ P. 56）

※1

スリップ表示灯
（→ P. 187）
（点滅）

※2

READY インジケーター
（→ P. 131、135）

※2、4

低温表示灯（→ P. 70）

イモビライザーシステム
表示灯★（→ P. 64）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチ★を“ON”または　パワースイッチ★をON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます

※3 システムが OFF のときに点灯します。

※4 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※5 点灯を OFF に設定した場合は、作動確認のための点灯はしません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

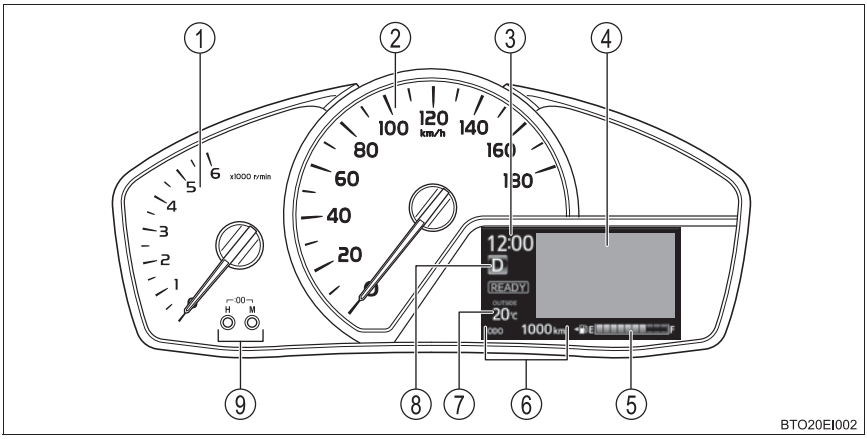
警告

■**安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチ★を“ON”または パワースイッチ★を ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類



① タコメーター

毎分のガソリンエンジンの回転数を示します。

② スピードメーター

車両の走行速度を示します。

③ 時計表示※

時刻を表示します。（→ P. 221）

④マルチインフォメーションディスプレイ

・ 走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 73）
・ システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。（→ P. 283）

⑤ 燃料計※

燃料残量を示します。

⑥ トリップインフォメーション

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑦ 外気温表示※

外気温度を -40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。外気温が約 3 ℃以下のときは、低温表示灯（→ P. 68）が点灯します。

⑧ シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。
（→ P. 144）

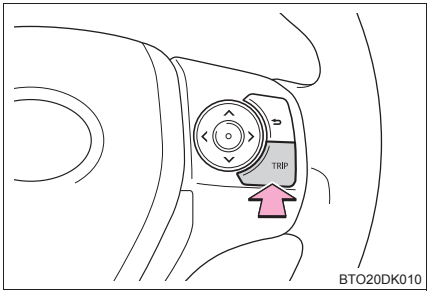
⑨ クロックセットボタン

→ P. 221

※ :シンプル画面を選択しているときは表示が移動します。（→ P. 76）

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



メーター照度調整

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 80）により、メーターの明るさを調整できます。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■メーター照度の切りかえについて

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。

■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

●“--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

●この車両には、水温計のかわりにマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージ（→ P. 283）が表示されます。「エンジン冷却水高温」または、「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」と警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 331）

●タコメーター（→ P. 70）の針がレッドゾーン（エンジン許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

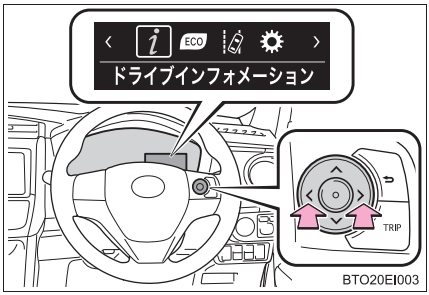
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。（→ P. 74）

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 75）

ECO

燃費の情報などを表示します。（→ P. 77）

LDA 操作支援★

LDA（→ P. 174）の作動状況を表示します。

設定

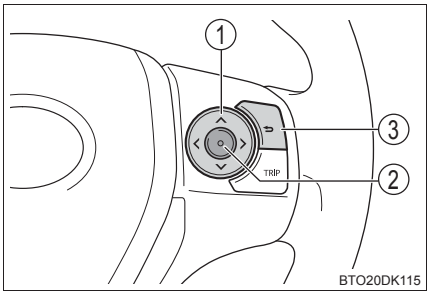
メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。（→ P. 79）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

ディスプレイに表示される項目を切りかえるには、ハンドルのメーター操作スイッチを操作します。



①選択スイッチ

項目や画面を選択／移動します。

②決定スイッチ

決定します。

③もどるスイッチ

ひとつ前の画面にもどります。

ドライブインフォメーション

選択スイッチの∧または、∨を押して、次の画面が選択できます。

■ ドライブインフォメーション

平均燃費、平均車速、走行時間、EV 走行比率・EV 走行距離はオドメーターとトリップメーターのどちらかを表示しているかによって、表示内容が異なります。

- オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの記録を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーター A・B それぞれの記録を表示します。

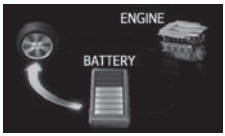
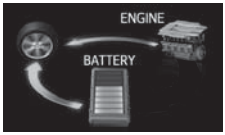
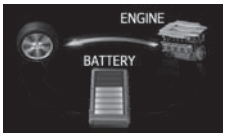
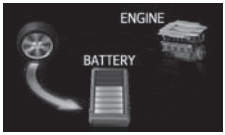
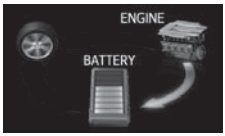
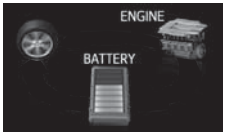
トリップメーターをリセットすると、記録もリセットされます。（→ P. 71）

表示	項目	内容
AVG	平均燃費※	平均燃費を表示します。
TOTAL	走行時間※	走行時間を表示します。
EV	EV 走行比率 ・EV 走行距離	EV 走行比率と距離（電気モーターのみで走行している割合と距離）を表示します。
	航続可能距離	現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。 ・表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。 ・燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。 **スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：** 給油の際はエンジンスイッチを“LOCK”にしてください。万一、エンジンスイッチを“LOCK”にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。 **スマートエントリー＆スタートシステム装着車：** 給油の際はパワースイッチを OFF にしてください。万一、パワースイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

※ :設定により平均車速を表示することもできます。（→ P. 80）

■ **エネルギーモニター画面**

ハイブリッドシステムの作動状況を確認できます。

電気のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	
駆動用電池に充電しているとき	 
エネルギーの流れがないとき	
駆動用電池の残量表示	少ない　多い

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ **デジタルスピードメーター画面**

デジタルスピードメーターを表示します。

■ **シンプル画面**

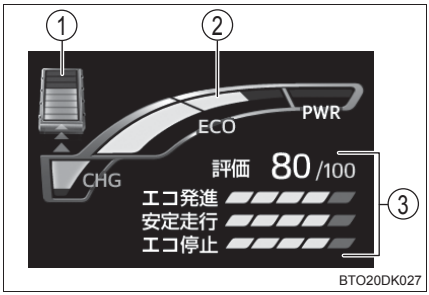
時計、外気温、燃料計を拡大した画面を表示します。

ECO

選択スイッチの∧または、∨を押して、次の画面が選択できます。

■ エコジャッジ

エコ運転の状況を判定し表示します。



① 駆動用電池残量表示

② ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。（→ P. 83）

③ エコ運転状況の表示

運転の状況を、エコ発進・安定走行・エコ停止の３パターンに分け、５段階で表示します。また、車両が停止するたびに点数を表示します。（発進するごとにリセットされ、積算は行いません）

■ エコウォレット

ガソリン価格を入力すると、走行距離に応じて消費したガソリンの金額を表示します。また、任意の燃費を入力すると、実際に走行した燃費との差が、お得金額として表示されます。

消費したガソリン価格の表示や燃費の比較をすることができます。

① 消費金額

消費金額を表示します。

オドメーターとトリップメーターのどちらかを表示しているかによって、表示が異なります。

- オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの金額を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの金額を表示します。トリップメーター A・B それぞれの金額を表示します。

トリップメーターをリセットすると、金額もリセットされます。（→ P. 71）

② 比較燃費

設定画面で、比較したい任意の燃費数値を入力します。（→ P. 81）

■ エコウォレット履歴

エコウォレットの履歴を表示します。

・エコウォレットで比較燃費を入力するとお得金額の履歴を表示し、入力しなければ消費金額の履歴を表示します。
今月、過去３ヶ月分と１年前の同月を表示し、比較することができます。

・グラフに加え数字も表示します。

■ 燃費履歴

月ごとの平均燃費を表示します。

今月、過去３ヶ月分と１年前の同月を表示し、比較することができます。

■ 燃費ランキング

過去の燃費のベスト３と現在の順位を表示します。

● オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの記録を表示します。

● トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーターＡ・Ｂそれぞれの記録を表示します。

・リセットを行うたびにランキングが追加されます。

順位は 100 位までを表示し、以降はランク外として表示されます。

ハイブリッドシステムを始動してからの走行距離が短い場合、燃費ランキングは更新されない場合があります。

■ ５分毎燃費／瞬間燃費

ハイブリッドシステムを始動してからの燃費履歴を５分刻みで表示します。瞬間燃費を同時に表示し、３０分前までの燃費と比較することができます。

◆ 履歴の消去

エコウォレット履歴・燃費履歴・燃費ランキングの履歴を消去することができます。

1 消去したい履歴画面を表示しているときに◎（決定スイッチ）を押し続けると、履歴リセット画面を表示します。

2 選択スイッチの＜または、＞を押して「はい」を選択し、◎（決定スイッチ）を押すと、履歴が消去されます。

◆ 燃費時間の切りかえ

燃費時間を5分刻み、または1分刻みで表示することができます。

1 5分毎燃費／瞬間燃費画面を表示しているときに◎（決定スイッチ）を押し続けると、燃費時間画面を表示します。

2 選択スイッチの＜または、＞で項目を選択し、◎（決定スイッチ）を押します。

設定

各装備の機能の ON ／ OFF や設定変更などができます。

■ 設定変更のしかた

1 選択スイッチの∧または、∨を操作して設定変更したい項目を選択し、決定スイッチを押す

一部の装備で機能の ON ／ OFF を選択する項目では、決定スイッチを押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。

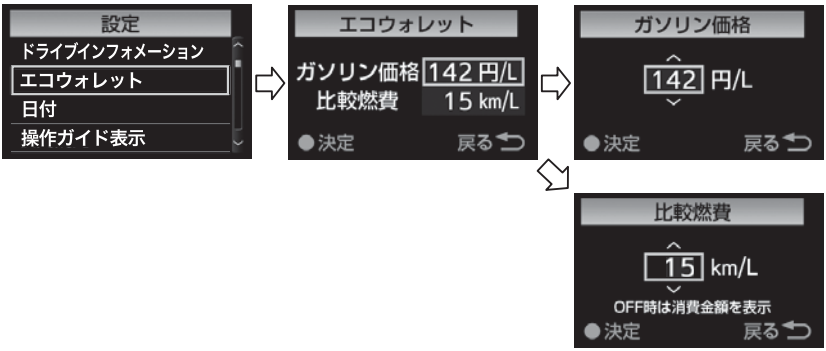
2 表示内容に従って選択スイッチの∧または、∨を操作し、設定内容を選択して決定スイッチを押す

項目	設定内容	設定結果
LDA★	高い	LDA 警報感度を調整できます。
	普通	
先行車発進★	告知設定	先行車発進の告知設定の ON ／ OFF 切りかえができます。
	ON	
	OFF	
	告知タイミング	先行車発進の告知タイミングを調整できます。
	早い	
	普通	
	遅い	
EV表示	ON	EV 表示（→ P. 56）を ON ／ OFF できます。
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	設定結果
調光	液晶 暗 ←→ 明 液晶以外 暗 ←→ 明	メーターの明るさを調整できます。
ドライブインフォメーション	1 行目 平均車速 平均燃費 走行時間 2 行目 平均車速 平均燃費 走行時間	ドライブインフォ画面の1行目と2行目の項目を「平均車速」・「平均燃費」・「走行時間」から選択できます。
エコウォレット	→ P. 81	ガソリン価格の設定・比較燃費の設定ができます。
日付	→ P. 81	日付の調整ができます。
操作ガイド表示	ON OFF	メニューアイコンの表示のON／OFF切りかえができます。
走行結果表示	ON OFF	走行結果表示の ON ／ OFF 切りかえができます。
初期化	はい いいえ	次の表示設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。 ・ 調光 ・ EV表示 ・ ドライブインフォメーション ・ エコウォレット ・ 操作ガイド表示 ・ 走行結果表示

◆ エコウォレット



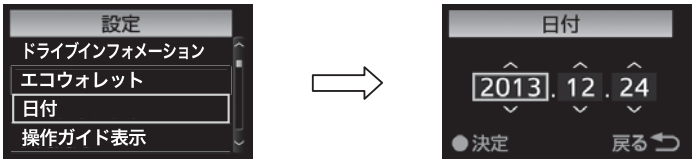
BTO20EI008

1 選択スイッチの∧または、∨で「エコウォレット」を選択し、◎（決定スイッチ）を押す。

2 選択スイッチの∧または、∨で「ガソリン価格」または、「比較燃費」を選択し、◎（決定スイッチ）を押す。

3 選択スイッチの∧（上昇）または、∨（下降）で数値を設定し、◎（決定スイッチ）を押す

◆ 日付



BTO20EI009

1 選択スイッチの∧または、∨で「日付」を選択し、◎（決定スイッチ）を押す。

2 選択スイッチの＜または、＞で年／月／日を選択し、∧（上昇）または、∨（下降）で数値を設定し、◎（決定スイッチ）を押す

知識

■駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の充電量はハイブリッドシステムによって自動制御されています。
そのため、回生ブレーキ機能による電気回収・ガソリンエンジンによる発電が行われても、駆動用電池の残量表示が最大（レベル 8）まで到達しないことがありますが、異常ではありません。

■航続可能距離ついて

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき（LDA 設定と調光設定を除く）

■エコジャッジについて

走行条件や環境によって評価点は変化します。そのため、燃費とリンクしない場合があります。

■エコウォレットについて

- 消費金額・お得金額は目安として利用してください。
- 給油のしかた・走行条件・環境などによって、実際に給油したときの金額と画面に表示される金額に差が出る場合があります。
- 消費金額・お得金額は、エコジャッジの評価点とはリンクしない場合があります。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うとき、次のデータはリセットされます。

- 時計
- 燃費ランキング（4 位以下）
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 平均車速
- EV 走行比率・EV 走行距離
- 走行時間

■液晶ディスプレイについて

→ P. 72

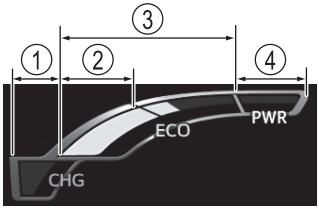
■ハイブリッドシステムインジケーターについて

① チャージエリア

エネルギーが回生※されている状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

また、充電中は、△△△が表示されます。

※：ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。



BTO20EI010

② ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア

全開走行など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

インジケーターをエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■燃費ランキングの割り込み表示について

トリップメーターをリセットするか、ハイブリッドシステムを停止したときに燃費がベスト３までに入っていた場合、燃費ランキング画面が割り込み表示し、ランクインした順位が３回点滅します。

■今回の走行結果表示について

ハイブリッドシステムを停止すると、ハイブリッドシステムを始動したときからの走行データを一覧で表示します。

ドアをロックすると画面は消えます。

BTO20EI011

■給油をしたときは

給油後にエンジンスイッチ★を“ON”またはパワースイッチ★を ON モードにすると、自動でガソリン価格入力画面（→ P. 81）が表示されます。

警告

■エコジャッジについて

エコジャッジは目安として利用してください。必ず交通状況に合わせ、周囲の安全に注意して運転してください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

- メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。
- ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

各部の操作 3

3-1. キー
キー.....86
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア.....90
トランク.....96
スマートエントリー＆
スタートシステム.....100
3-3. シートの調整
フロントシート.....106
ヘッドレスト.....107
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル.....109
インナーミラー.....111
ドアミラー.....112
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ.....116

キー

キーについて

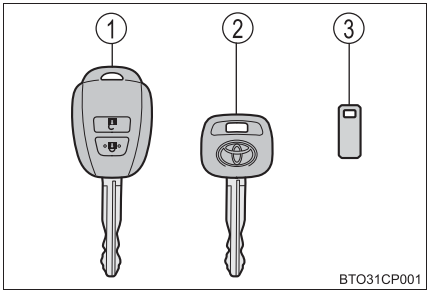
お客様へ次のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

① キー（ワイヤレス機能装着）
・ ワイヤレス機能の作動
（→ P. 86）

② キー（ワイヤレス機能非装着）

③ キーナンバープレート

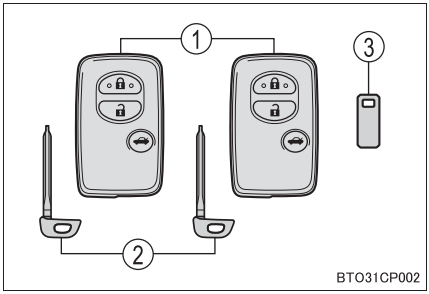


▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

① 電子キー
・ スマートエントリー＆
スタートシステムの作動
（→ P. 100）
・ ワイヤレス機能の作動
（→ P. 87）

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

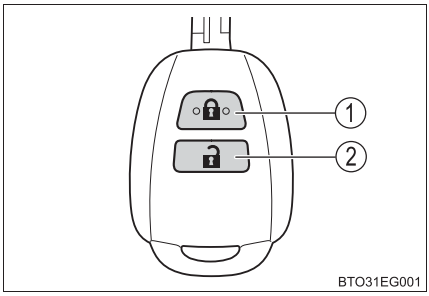


ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

① 全ドアを施錠する（→ P. 90）

② 全ドアを解錠する（→ P. 90）

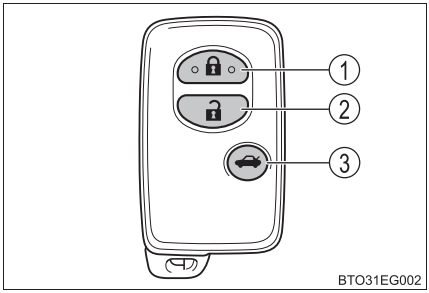


▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

① 全ドアを施錠する（→ P. 90）

② 全ドアを解錠する（→ P. 90）

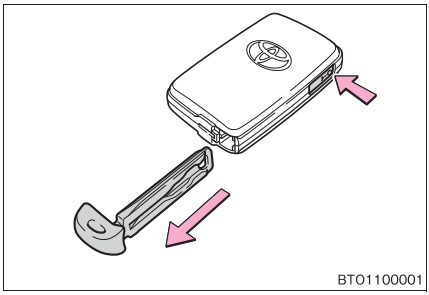
③ トランクを解錠する（→ P. 96）



メカニカルキーを使うには（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 324）



知識

■ **キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を紛失したとき**

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・ワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
（→ P. 295）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 245

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- ●電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

■キー取り扱いの注意

ワイヤレスキー・電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
  分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

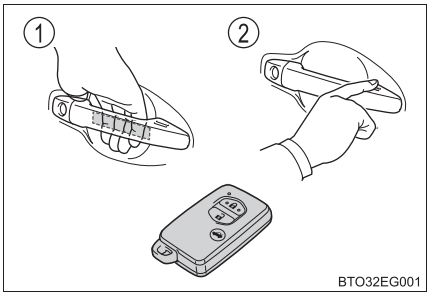
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム★

電子キーを携帯して操作します。



① フロント席ドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

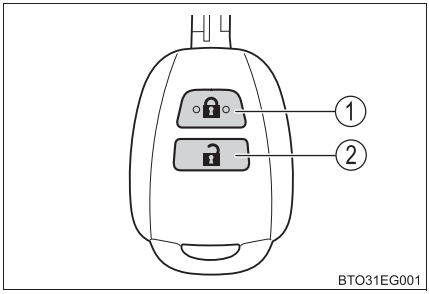
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② フロント席ドアハンドル上部のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

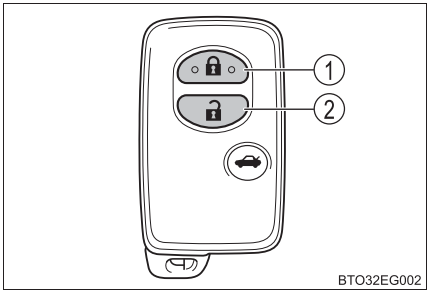
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

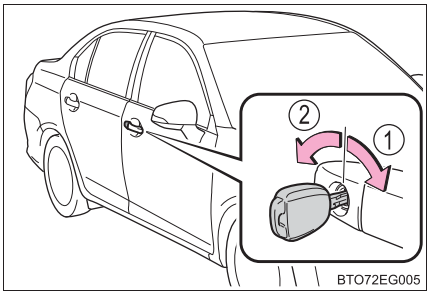


◆ キー（運転席）

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。（→ P. 324）

知識

■作動の合図

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■解錠操作のセキュリティ機能

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

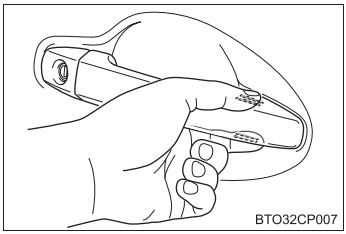
▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→ P. 102

■ **ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）**

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■ **半ドア警告ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）**

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

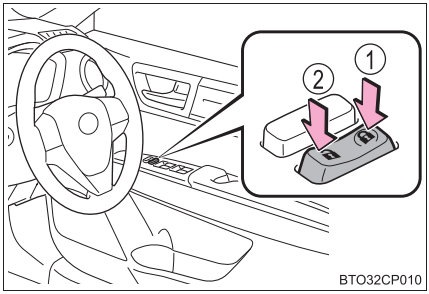
■ **スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき**

キーやメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 91, 324)
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 245)

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する

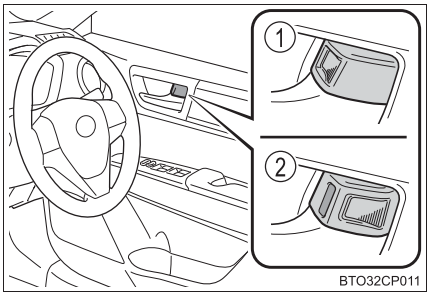


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

キーがエンジンスイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

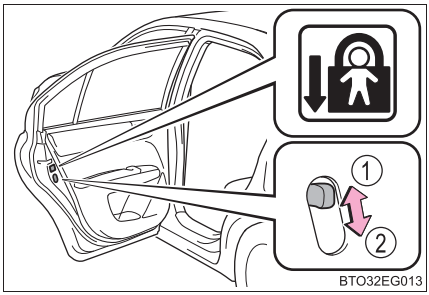
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■スマートエントリー＆スタートシステム（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）やワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

- ●ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき
- ●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ●無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ●複数のワイヤレスリモコンが近くにあるとき
- ●ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●近くでワイヤレスリモコンを使用しているとき
- ●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→P. 102

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない
ドアが開き車外に放り出されるおそれがあります。
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

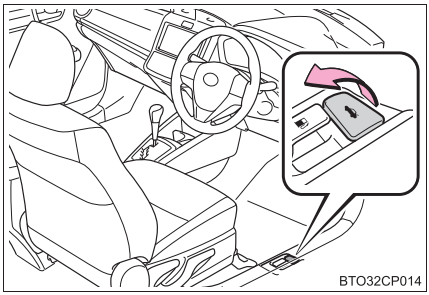
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム★、ワイヤレスリモコン★を使って開けることができます。

車内からトランクを開ける

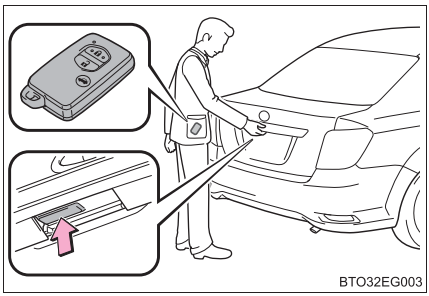
レバーを引いて、トランクのロックを解除する



車外からトランクを開ける

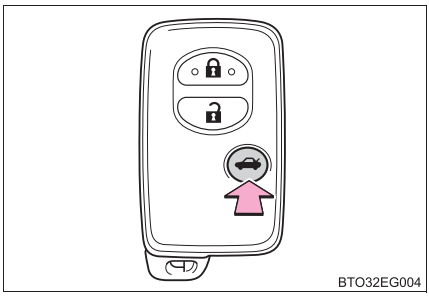
◆ スマートエントリー＆スタートシステム★

電子キーを携帯し、トランクオープンスイッチを押す



◆ ワイヤレスリモコン（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

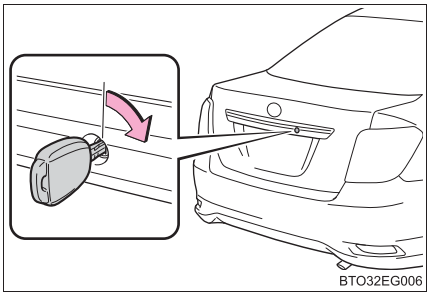
スイッチを長押しする



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

キーをまわし、トランクのロックを解除する



知識

■作動の合図（スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコン）

ブザーで知らせます

■トランクランプ

- トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。
- エンジンスイッチ★が“LOCK”、またはパワースイッチ★が OFF の場合、トランクランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 245）

■カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンでの解錠設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 345）

警告

■走行中の警告

●走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクリッドが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。
トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

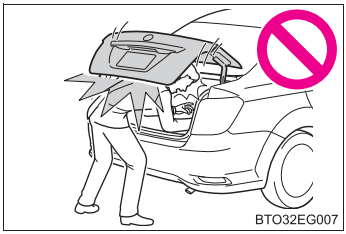
●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

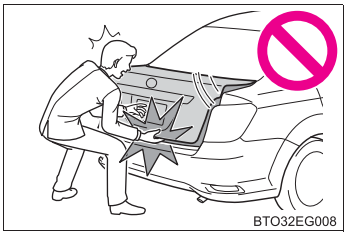
■ **トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認してください。


BTO32EG007

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。


BTO32EG008

- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けないでください。トランクリッドの重量が重くなり、開けたあとに突然閉じるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）

- ドアを解錠・施錠する（→ P. 90）
- トランクを解錠する（→ P. 96）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 135）

知識

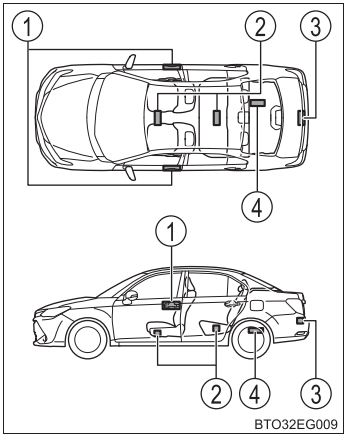
■アンテナの位置

① 車外アンテナ

② 車内アンテナ

③ トランク外アンテナ

④ トランク内アンテナ



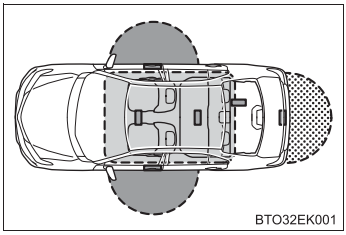
■作動範囲（電子キーの検知エリア）

：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。



：ハイブリッドシステム始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 293）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と1 回鳴る 車外から“ピー”と5 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
車外から“ピー”と5 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
	全ドアが施錠されている状態で、電子キーをトランク内に置いたままドランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出したあと、トランクを閉じる
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーをＰ以外の状態で、パワースイッチを OFF にせず運転席ドアが開いた	シフトレバーをＰにする

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■解錠後のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。
セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 324）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。

・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・トランクの解錠時に、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・ハイブリッドシステム始動時やモードの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋をつけてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック操作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（盗難に注意し保管してください）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、車外のブザーが吹鳴することがあります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

- 手袋をつけてドアハンドルを握った場合、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
  詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります：→ P. 101, 293）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの解錠・施錠：→ P. 324
- ハイブリッドシステムの始動：→ P. 324

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 344）

■販売店でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの解錠・施錠、トランクの解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠、トランクの解錠ができます。（→ P. 324）
- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 324
- ハイブリッドシステムの停止：→ P. 136

警告

■電波がおよぼす影響について

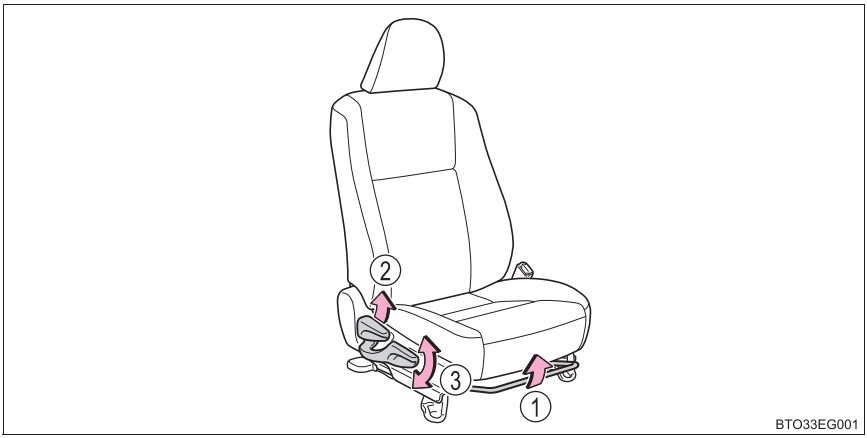
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 100）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた



① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整（運転席のみ）

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

●走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

ヘッドレスト

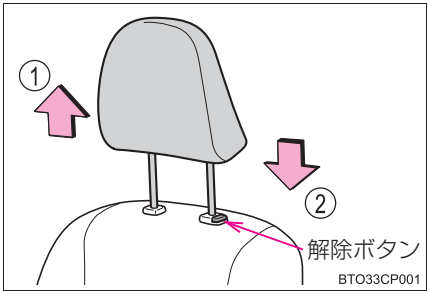
フロントシート

上下調整

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

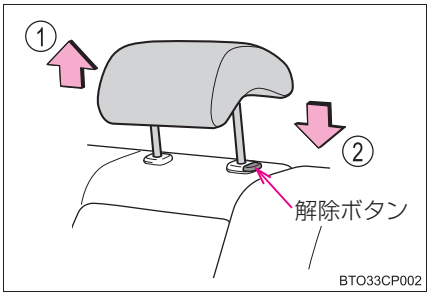


リヤシート中央席

① 上げる

② 下げる

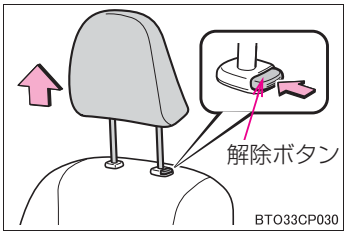
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

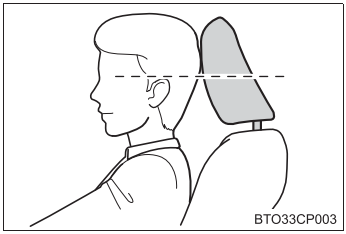
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤシート中央席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

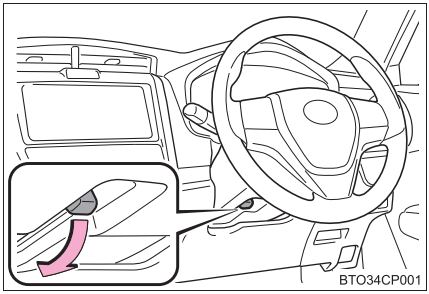
- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

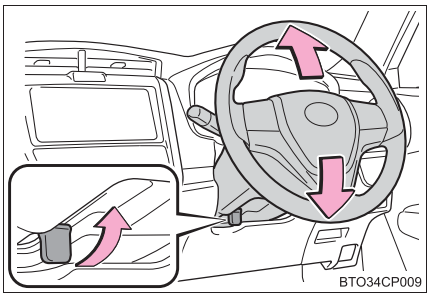
▶ チルトステアリング装着車

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



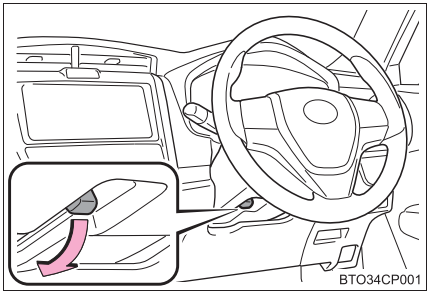
2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



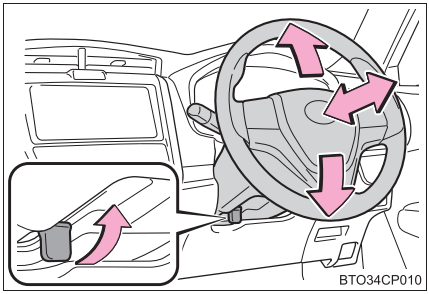
▶ チルト＆テレスコピックステアリング装着車

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



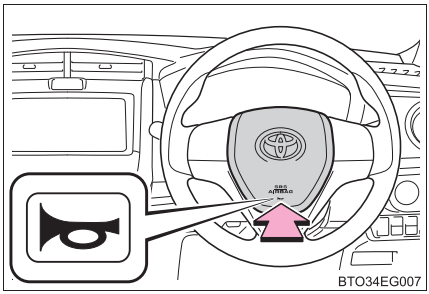
2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 109）

警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

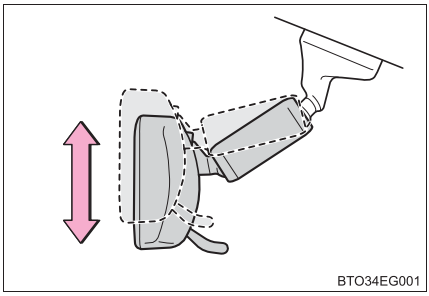
ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

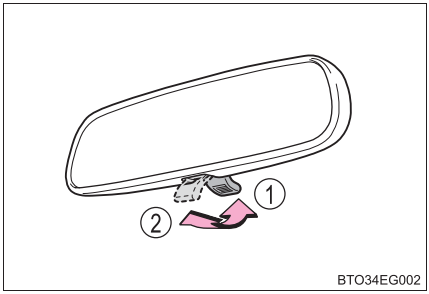


防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

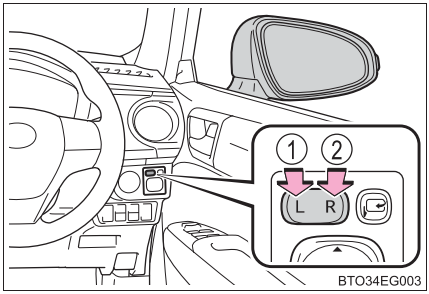
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右



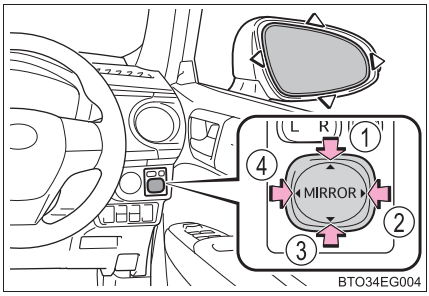
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

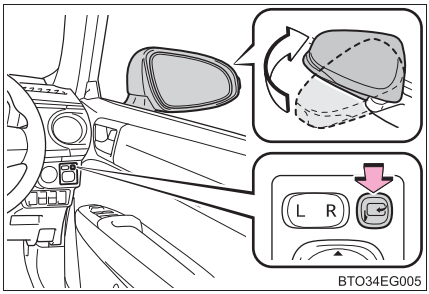
④ 左



ドアミラーを格納する

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります



オート作動★

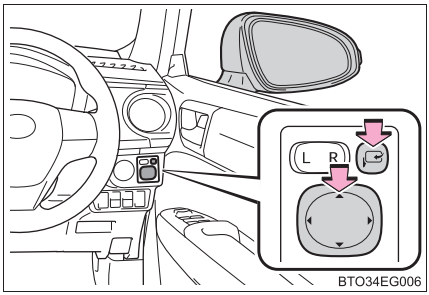
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰します。
また、エンジンスイッチ★を“ON”または、パワースイッチ★をONモードにすることにより、復帰させることができます。

次の手順でオート作動を停止できます。

1 エンジンスイッチ★を“LOCK”またはパワースイッチ★をOFFにする

2 電動格納スイッチと鏡面調整スイッチの上側を、同時に約 2 秒以上押す

もう一度同じ操作をすると、オート作動が復帰します



リバース連動機能について★

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーをRにするたびにその角度で作動します。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■補機バッテリーを脱着したときは

オート電動格納機能の ON・OFF がリセットされ、機能が ON の状態にもどります。機能を OFF にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■鏡面位置を調整するときは（リバース連動機能使用時）★

下向きの動く角度は、通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に動くため、通常時に鏡面位置を調整すると、後退時に下向きになる鏡面位置もかわります。
通常時に鏡面位置を調整したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください（→ P. 112）

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 200）

■レインクリアリングミラー★

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

- 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。
- 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→ P. 227）を行ってください。

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

注意

■レインクリアリングミラー★の取り扱いについて

親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂のついた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーター★を作動させるなどして解氷してください。
  鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

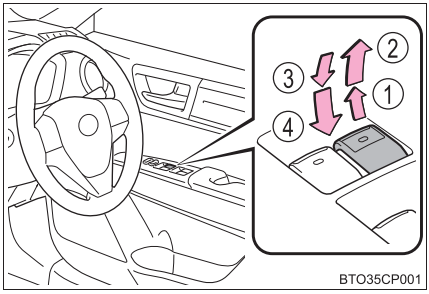
① 閉める

② 自動全閉※

③ 開ける

④ 自動全開※

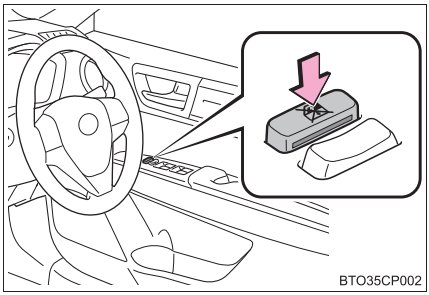
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、ドアガラスに負荷がかかると、作動が停止します。

■パワーウインドウを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチ★を“ON”またはパワースイッチ★を ON モードの状態で挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動した後 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチ★を“ON”またはパワースイッチ★を ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒以上押し続ける

5 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない。または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

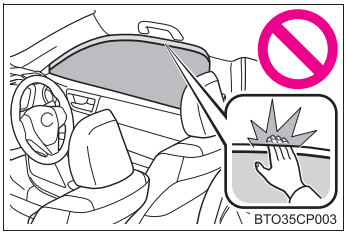
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 116）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●車から離れるときはエンジンスイッチ★を“LOCK”またはパワースイッチ★を OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 120

荷物を積むときの注意..... 130

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）..... 131

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）..... 135

EV ドライブモード..... 141

トランスミッション..... 144

方向指示レバー 146

パーキングブレーキ..... 147

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 148

フォグランプスイッチ..... 152

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 153

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 156

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 158

4-5. Toyota Safety Sense C

Toyota Safety Sense C ... 161

PCS（プリクラッシュセーフティシステム 166

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）... 174

オートマチックハイビーム ... 180

先行車発進告知機能..... 184

4-6. 運転支援装置について

運転を補助する装置..... 186

4-7. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス..... 192

寒冷時の運転..... 194

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 131, 135

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 144）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 147）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→ P. 144）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 シフトレバーを P にする（→ P. 144）

3 パーキングブレーキをかける

4 スマートエントリー & スタートシステム非装着車：

エンジンスイッチを“LOCK ”にしてハイブリッドシステムを停止する

スマートエントリー & スタートシステム装着車：

パワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止する

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。
※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→ P. 192）

■駆動力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、駆動力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 285）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、急発進事故の被害を軽減するため、駆動力を抑制する場合があります。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 285）

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 187）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 270 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 144）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNに入れると、トランスミッションとハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■**停車するとき**

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■**駐車するとき**

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■駐車するとき

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずシフトレバーをＰにしてください。Ｐにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

⚠注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 297, 308 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジンやハイブリッド用トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

ハイブリッドシステム始動のしかた

1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

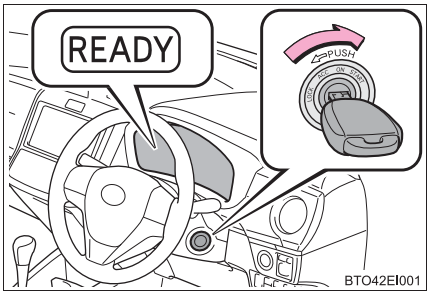
2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む

5 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



6 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

ハイブリッドシステム停止のしかた

1 車両を停止させる

2 シフトレバーを P の位置にする

3 パーキングブレーキをかける（→ P. 147）

4 エンジンスイッチを“ACC”または、“LOCK”の位置にまわす（→ P. 132）

エンジンスイッチの位置の切りかえ

① “LOCK”（OFF）
・キーを抜き挿しできます。
・ステアリングロックがかかります。

② “ACC”

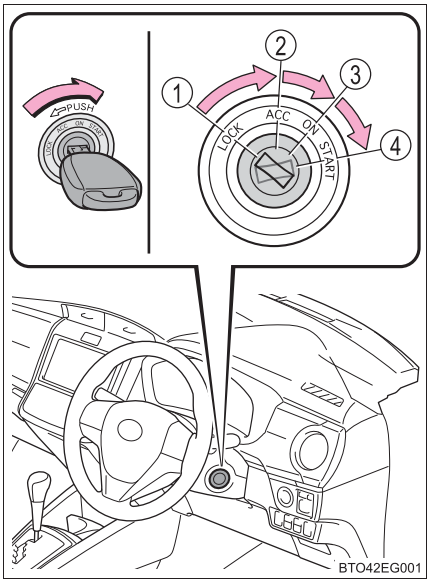
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

③ “ON”

すべての電装品が使用できます。

④ “START”

ハイブリッドシステムが始動できます。

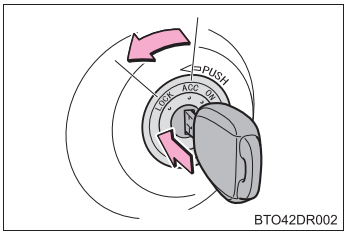


知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 58

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

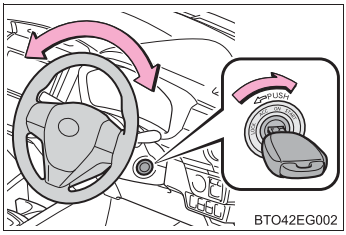
正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 283

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時は走行中にハイブリッドシステムを停止し、“ACC”にしてください。走行中にハイブリッドシステムが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあります。（→ P. 270）

注意

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステム停止中は、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■**ハイブリッドシステムを始動するとき**

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

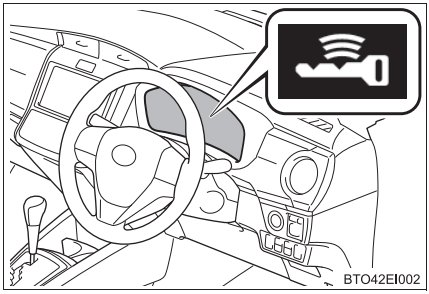
2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

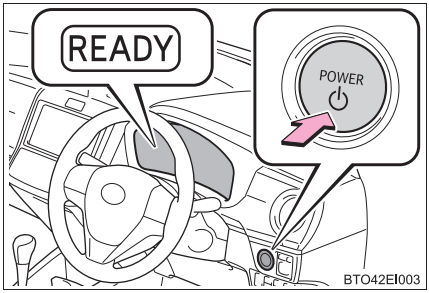


5 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



パワースイッチのどのモード（→ P. 136）からでもハイブリッドシステムを始動できます。

6 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 シフトレバーを P の位置にする

3 パーキングブレーキをかける（→ P. 147）

4 パワースイッチを押す

5 ブレーキペダルから足を離して、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していることを確認する

パワースイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

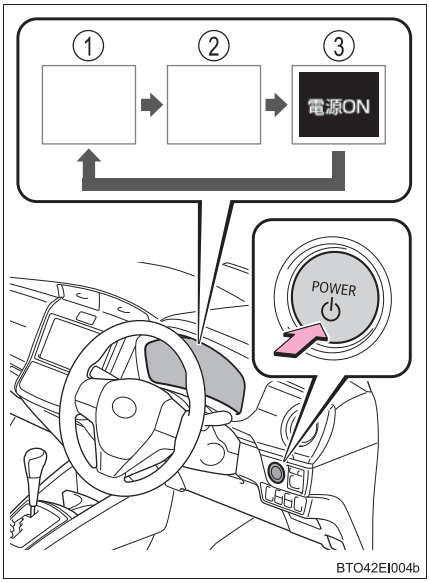
② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を OFF してください」が表示されていることを確認し、パワースイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を OFF してください」が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 58

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 88

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 102

■ご留意いただきたいこと

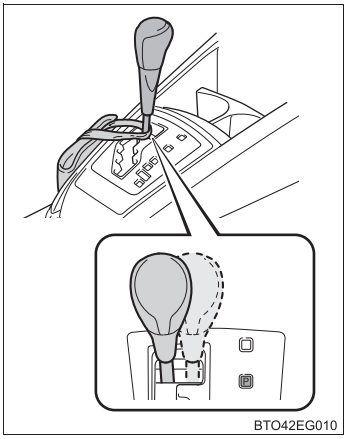
→ P. 103

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
（→ P. 64）
トヨタ販売店へご連絡ください。

●次の状況では、ステアリングロックが解除されていない可能性があります。

・シフトレバーに袋などをかけている
・パワースイッチを押す前にシフトレバーを傾けた

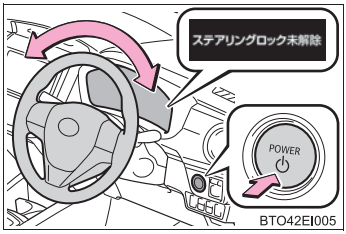


■ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

ステアリングロックが解除されていないときは、マルチインフォメーションディスプレイに「ステアリングロック未解除」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。
2 秒～ 10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステムチェック」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 283

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 245

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■販売店でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 324

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 270）ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステムが作動していないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

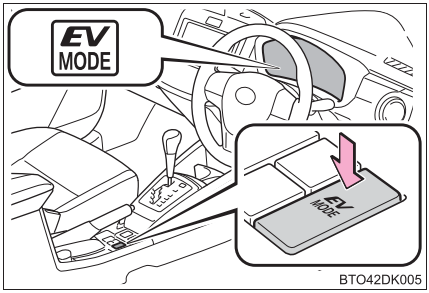
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。（→ P. 56）

EV ドライブモードの ON ／ OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



BTO42DK005

知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 76）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 76）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 2km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

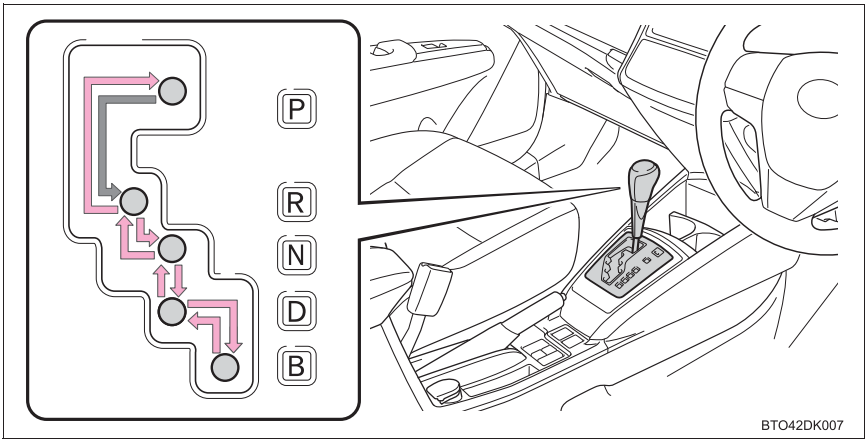
⚠ 警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチ★が“ON”またはパワースイッチ★がONモードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

Pから他ポジション、またはDからR・P、およびRからP・D・Bへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	坂道や急な下り坂など、 強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。

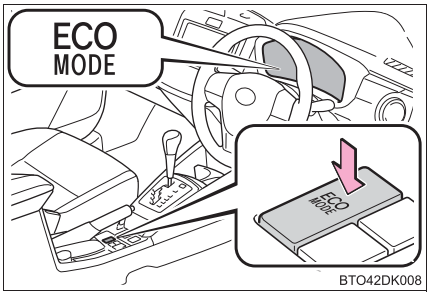
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エコドライブモードの選択

通常にくらべてアクセルペダルの踏みこみに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房・冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押して、エコドライブモードの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。
通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。



知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房・冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、設定温度や風量を調整するか、またはエコドライブモードを解除してください。

■リバース警告ブザー

シフトレバーをＲに入れるとブザーが鳴り、Ｒにあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

→ P. 323

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

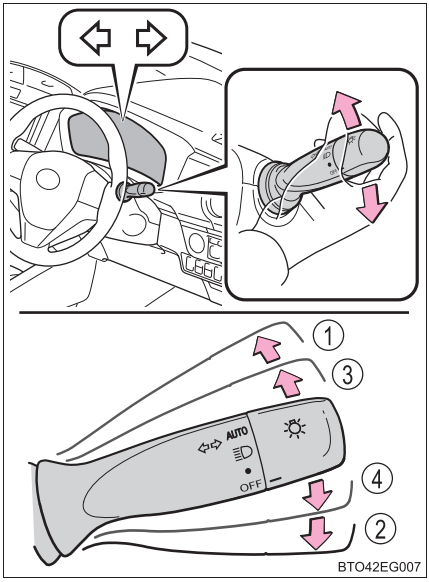
② 右折

③ 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

④ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。



知識

■ **作動条件**

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ **表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

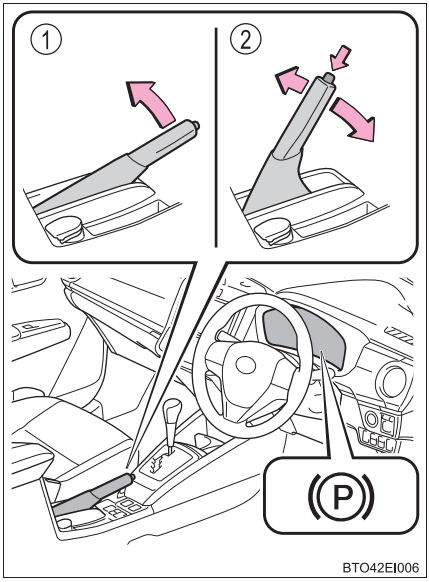
方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

① パーキングブレーキをかけるにはブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす



知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 195

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→ P. 279

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

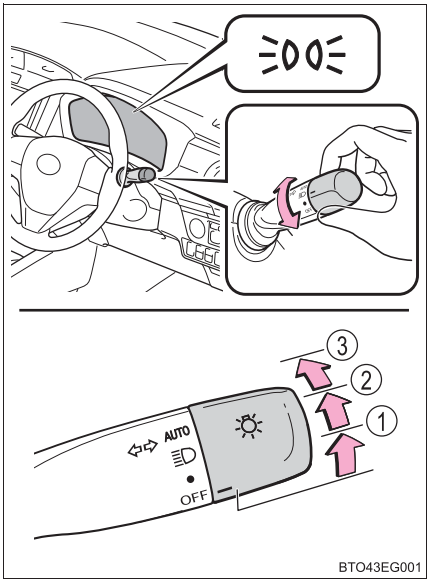
自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

① ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

② 上記ランプとヘッドランプを点灯

③ AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯★
（エンジンスイッチ★が“ON”、またはパワースイッチ★がONモードのとき）



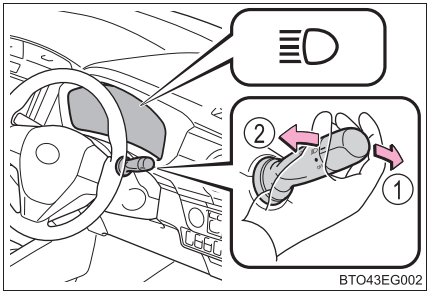
ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



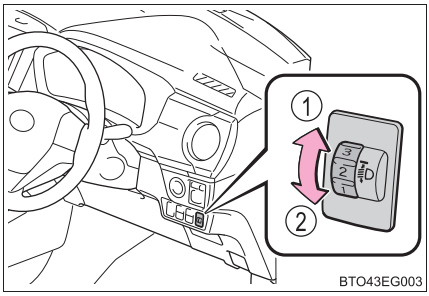
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



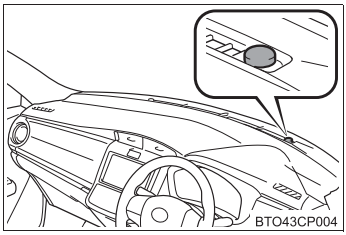
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	2
全乗員	トランクルーム満載時	2.5
運転者	トランクルーム満載時	5

知識

■ライトセンサー★

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ランプ消し忘れ防止機能（ランプ自動点灯・消灯システム装着車）

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または≣Dの位置にします。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または≣Dの位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム★

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。
次のいずれかをおこなった場合、節電機能は解除されます。

・エンジン スイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“パワー”スイッチを ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしたとき
・ランプスイッチを操作したとき
・ドアを開閉したとき

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 345）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

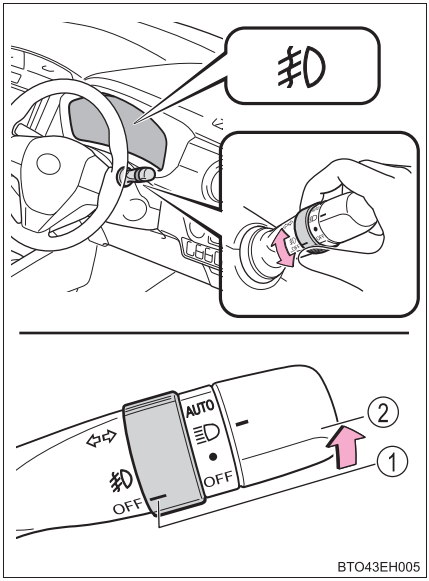
■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

① 消灯する
② 点灯する



知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

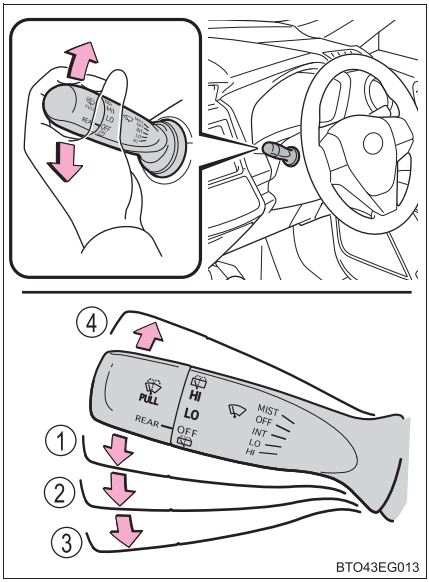
ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

▶ 間欠ワイパー

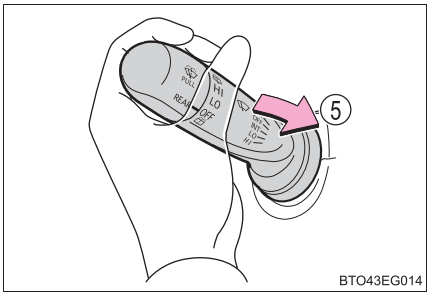
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① 間欠作動（INT）
② 低速作動（LO）
③ 高速作動（HI）
④ 一時作動（MIST）



⑤ ウォッシャー液を出す

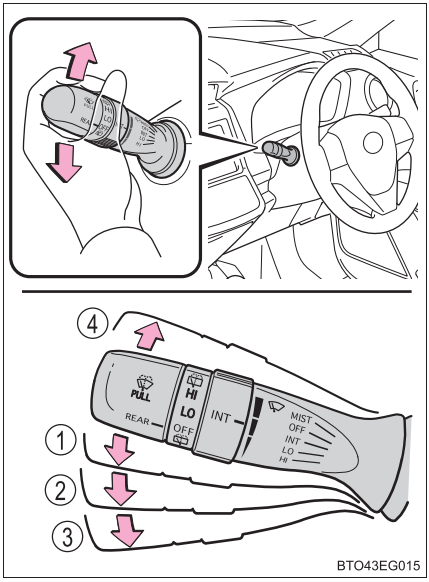
ワイパーが連動して作動します。



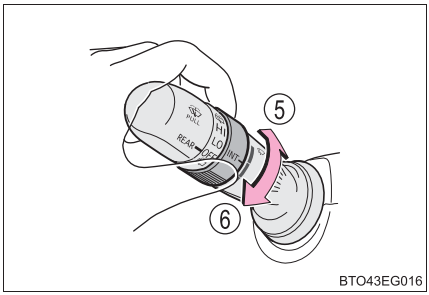
▶ 間欠時間調節式ワイパー

間欠作動を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

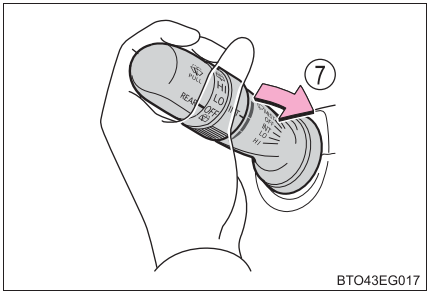
① 間欠作動（INT）
② 低速作動（LO）
③ 高速作動（HI）
④ 一時作動（MIST）



⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



⑦ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）★

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① 間欠作動（LO）

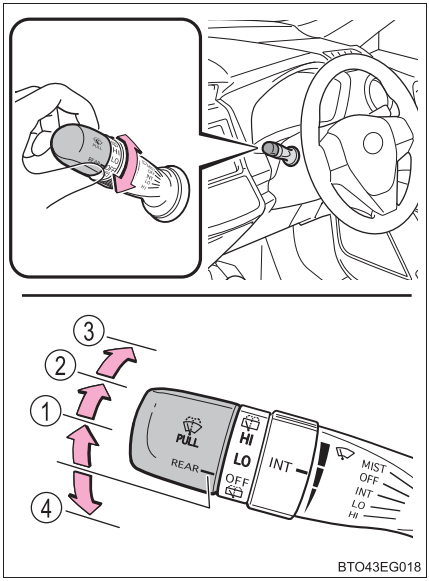
② 通常作動（HI）

③ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

④ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■ **作動条件**

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ **ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉めて、エンジンスイッチ★を“LOCK”またはパワースイッチ★を OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■給油するときは

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●ふきこぼれを防ぐため次の点に注意してください。

・給油口にノズルを確実に挿入する
・継ぎ足し給油をしない

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●ガソリンエンジンの始動性が悪くなる

●ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●ガソリンエンジンの出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

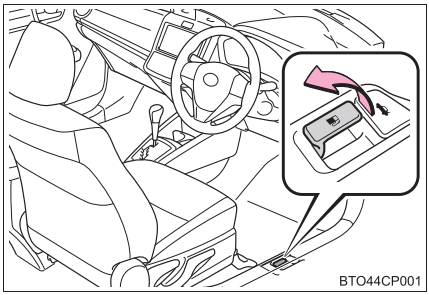
●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

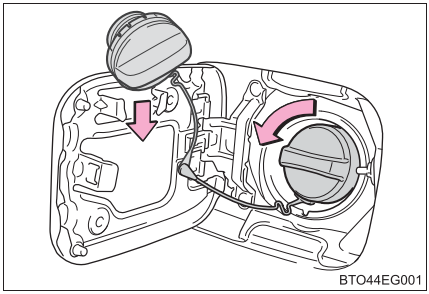
※エタノール混合率10%をこえるもの、またはETBE混合率22%をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける


BTO44CP001

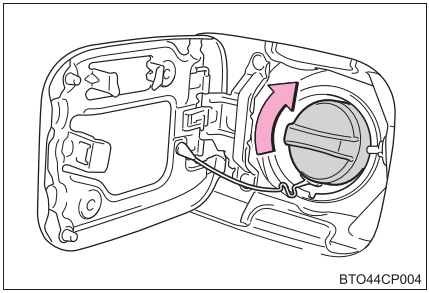
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む


BTO44EG001

給油口を閉める

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。


BTO44CP004

警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense C★

Toyota Safety Sense C は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 166

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 174

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 180

◆ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能
→ P. 184

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速
・プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
・先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報

上記に加え、プリクラッシュブレーキが作動した場合、前方センサーの画像情報も記録します。なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

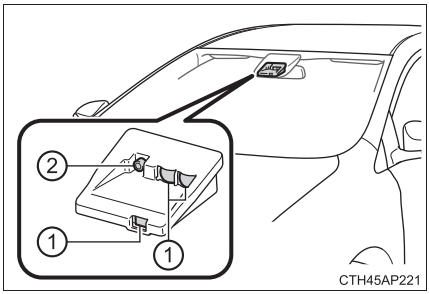
● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

① レーザーレーダー

② 単眼カメラ



警告

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目に障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞきこまないでください。

レーザー等級ラベル

INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS
(MAGNIFIERS)

レーザー説明ラベル

Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated July 26th, 2001

レーザー放射仕様

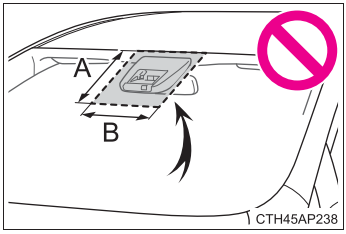
最大出力（平均）: 45 mW
パルス持続時間 : 33 ns
波長 : 905 nm
発散角（水平×垂直）: 28° × 12°

注意

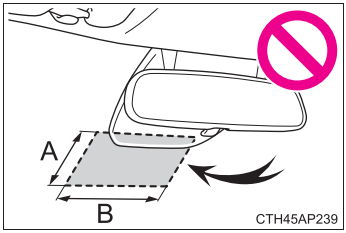
■前方センサーについて

前方センサーの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

●フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



●フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない
A:前方センサー下端から下約 10cmまで
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点滅します。その場合は、フロントデフロスターで曇りなどを取り除いてください。（→ P. 200）

注意

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしてください。また、前方センサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
  汚れていたり、油膜・水滴・雪などが付着したり、ふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。
  前方センサー取り付け部のフロントウインドウガラス内側が汚れた場合は、取り外さずトヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ワイパーブレードは早めに交換してください。前方センサー前部を適切にふき取れない場合、性能が低下することがあります。
  ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの前にアンテナを取り付けない
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  前方センサーのレンズのお手入れは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの向きは細密に調整されているため、取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- 前方センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- ダッシュボードに反射物を置かない

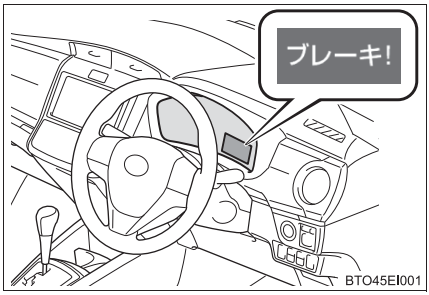
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

進路上の車両を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いと判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

必要に応じて、スイッチ操作でプリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングの変更や ON ／ OFF を切りかえることができます。（→ P. 167）

◆ 衝突警報

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

前方車両と衝突の可能性が高いと判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度を低減します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

プリクラッシュセーフティシステムの切りかえ

■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

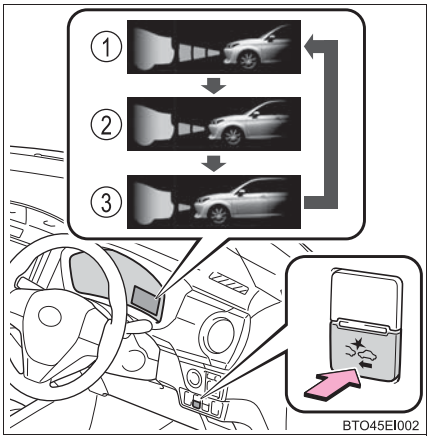
PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

① 遠い（タイミングが早くなる）

② 中間（初期設定）

③ 近い（タイミングが遅くなる）

PCS スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。



■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする

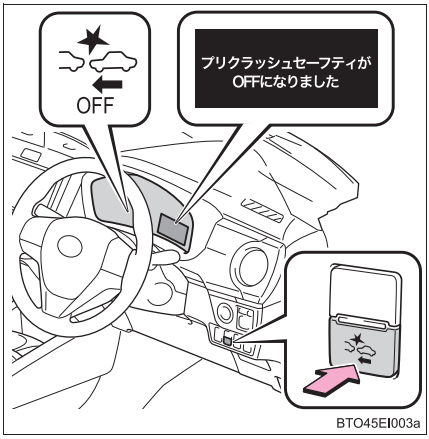
PCS スイッチを 3 秒以上押す

PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチが“ON”になるたびシステムは ON になります。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：パワースイッチが ON モードになるたびシステムは ON になります。



知識

■作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方車両（オートバイ・自転車は除く）と衝突の可能性が高いと判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

・車速約 15 ～ 140km/h
・自車から見た前方車両との相対速度約 15km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト

・車速約 30 ～ 80km/h
・自車から見た前方車両との相対速度約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ

・車速約 10 ～ 80km/h
・自車から見た前方車両との相対速度約 10km/h 以上

ブレーキペダルを踏んでいる場合は、ドライバーに回避操作の準備ができていると判断し、プリクラッシュブレーキの開始タイミングを遅らせる場合があります。

以下の操作中はドライバー操作を優先し、システムが作動しないことがあります。

●アクセルペダルを強く踏み込んでいるとき

●ハンドルを大きくきった、または素早く操作しているとき

以下の場合、システムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

●PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

●シフトポジションが R のとき

■プリクラッシュブレーキの作動解除

●プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

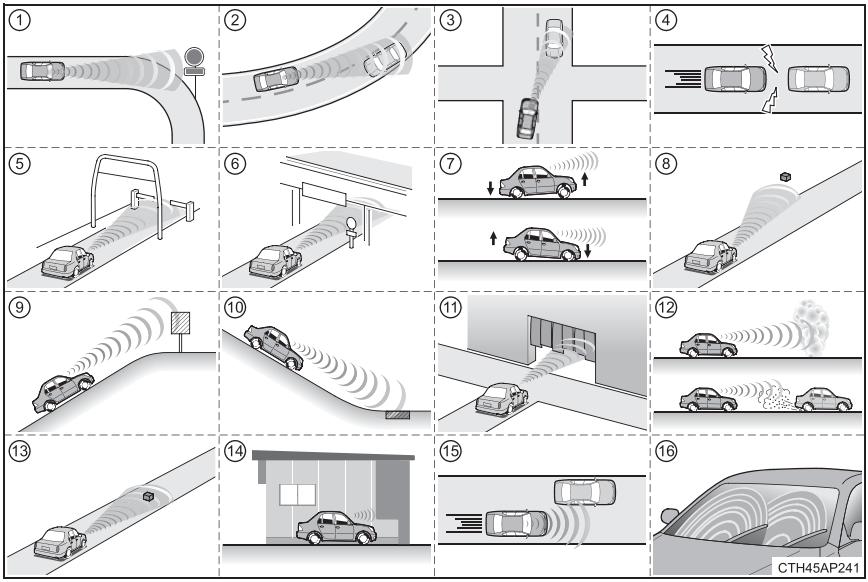
・アクセルペダルを強く踏み込んだ※
・ハンドルを大きくきった、またはすばやく操作したりした

※ 車速が約 15 km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約 2 秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。



① カーブの入り口の道路脇に障害物（道路標識・ガードレールなど）があるとき

② カーブで対向車とすれ違ったとき

③ 右左折時に対向車とすれ違ったとき

④ 先行車に急速に接近したとき

⑤ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき

⑥ 立体交差・道路標識・看板などが進行方向にあるとき

⑦ 車両姿勢が変化しているとき

⑧ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

⑨ 上り坂で進行方向の道路上方に構造物（看板・街灯など）があるとき

⑩ 下り坂で進行方向の路面に金属物（マンホール・鉄板など）があるとき

⑪ 車両に覆い被さるような障害物（垂れ幕・垂れ下がった枝など）があるとき

⑫ 濃い霧や煙などがある場所を通過するときや、先行車などから水・雪などの巻き上げがあるとき

⑬ 路面上に反射物・段差・突起物などがあるとき

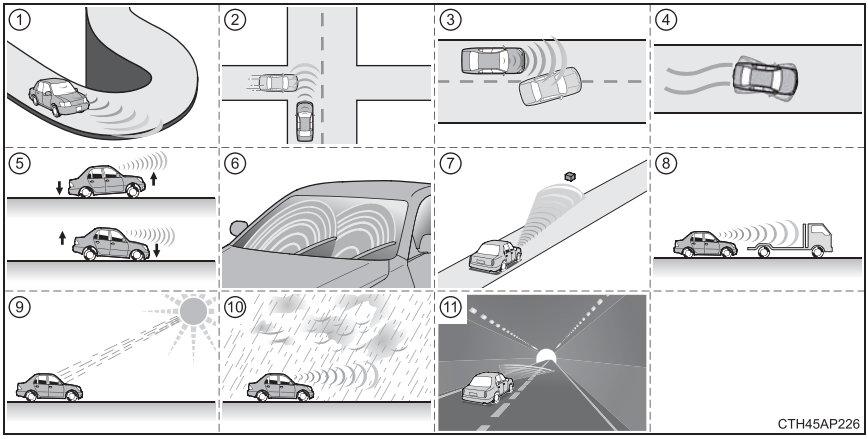
⑭ 前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき

⑮ 障害物（停止車両・ガードレールなど）の横すれすれを通過するとき

⑯ フロントウインドウガラスが汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などで覆われているとき

■システムが正常に働かないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正しく作動しない場合があります。



① きついカーブや起伏がある場所を走行するとき

② 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがあるとき

③ 自車の進行方向に急な割り込みがあるとき

④ 車が横すべりしているとき

⑤ 車両姿勢が変化しているとき

⑥ フロントウインドウガラスが汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などで覆われているとき

⑦ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

⑧ レーザー波を反射しにくい先行車（後ろ部分が極端に低い・ひどく汚れているなど）のとき

⑨ 前方からの強い光（太陽光・対向車のヘッドランプ光など）が前方センサーに直接あたっているとき

⑩ 雨・霧・雪・砂嵐など悪天候のとき

⑪ トンネル内や夜間など、周囲が暗いとき

■PCS　警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

●次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

・炎天下に駐車したあとなど、前方センサー周辺の温度が高いとき
・フロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（→ P. 200）
・ボンネットが開いているなど、前方センサーの前がさえぎられているとき

●PCS 警告灯が点滅したままのとき、および警告メッセージが表示されたままのときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■TRC と VSC を停止したとき

●TRC と VSC の作動を停止（→ P. 188）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。ただし、衝突警報は作動します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 168）によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、以下の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保して下さい。

・車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
・減速中にアクセルペダルを深く踏み込む（→ P. 168）
・プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする（→ P. 167）

●プリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。また、プリクラッシュブレーキ作動終了後は、クリープ現象により車両が前進しますので、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

警告

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方車両を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方車両の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムの制動制御は、衝突の可能性が高いと判断した段階で作動するもので、運転者の適切な操作なしに衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

注意

■システムの誤作動を防ぐために

次のときは、プリクラッシュセーフティシステムを OFF にしてください。

衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●点検でシャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき

●船舶・トラックなどに積載するとき

●車両姿勢が変化しているとき（メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているときや、サスペンションを改造しているときなど）

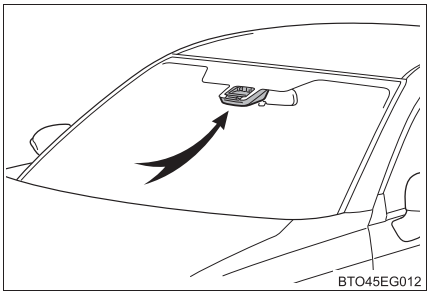
●車両けん引時

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）★

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中に、フロントウインドウガラス上部の前方センサーを利用して白（黄）線を認識し、走行中の車線から車両が逸脱したとシステムが判断した場合に、ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に警告します。

前方センサー



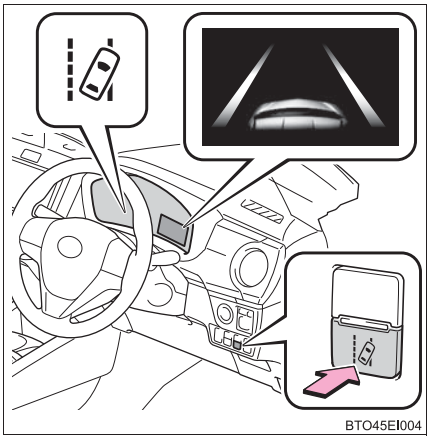
設定のしかた

LDA を使用するには LDA スイッチを押す

メーター内の LDA 表示灯が点灯します。

解除するには再度LDAスイッチを押します。

LDA の ON/OFF 状態は、エンジンスイッチ★を“LOCK”またはパワースイッチ★を OFF 後、再始動しても継続します。



作動条件

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 直線路またはゆるいカーブ（半径約 150m 以上）を走行しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

両側の白線点灯：

左右の白（黄）線が認識されていることを示しています。

車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が点滅します。

BTO45EI005

片側の白線点灯：

左右いずれか一方の白（黄）線が認識されていることを示しています。

認識されている側の白（黄）線から車両が逸脱した場合、その白線表示が点滅します。

BTO45EI006

両側の白ぬき線点灯：

白（黄）線が認識されていないまたは LDA が一時的に解除されていることを示しています。

BTO45EI007

知識

■機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

●方向指示レバーを操作したとき

●作動条件以外の車速になったとき

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

●車線逸脱警報吹鳴直後
車線逸脱警報が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。

■車線逸脱警報について

オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、警報音が聞き取りづらくなる場合があります。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動しないことがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 162）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないことがありますが、故障ではありません。

●料金所や検札所の手前や交差点などを走行するとき

●急カーブを走行するとき

●車線の幅が極端に狭いときや広いとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき

●先行車との車間距離が極端に短くなったとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線がかすれていたり、道路鋲や置き石などのとき

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行するとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき

●分岐・合流路などを走行するとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき

●悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき

●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき

●舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■タイヤを交換したとき

冬用タイヤなど、タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LDA の警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→ P. 283）
また、警告メッセージは表示されても通常の走行に支障はありません。

■車線逸脱警報ブザーの感度調整について

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 79）により、LDA 警報感度を変更することができます。

警告

■LDA をお使いになる前に

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■誤操作を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF してください。

■LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行するとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 工事によって規制された車線や仮設の車線を走行するとき

注意

■LDA の故障や誤作動を防ぐために

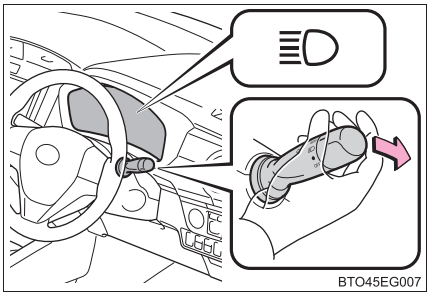
- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造したり、純正品以外の部品に交換したりしないでください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けないでください。

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

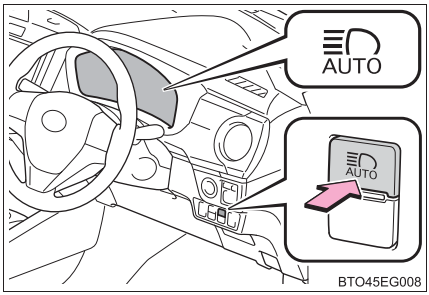
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを AUTO ★または ≡D にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。
ランプスイッチがロービームの状態でスイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。(→ P. 290)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

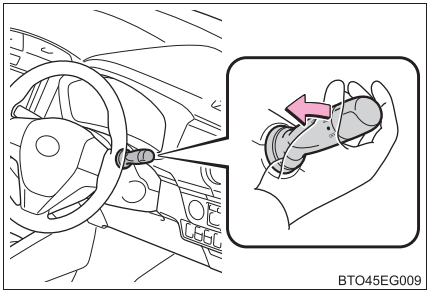
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

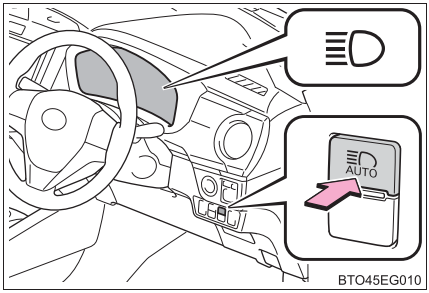

BTO45EG009

■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



BTO45EG010

知識

■作動条件

エンジンスイッチ★が“ON”またはパワースイッチ★が ON モードのとき

■オートマチックハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります

・対向車または先行車のランプの明るさ
・対向車または先行車の動きや向き
・対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
・対向車または先行車が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
・前方センサーの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

注意

■オートマチックハイビームを正しく作動させるために

●荷物を積み過ぎない

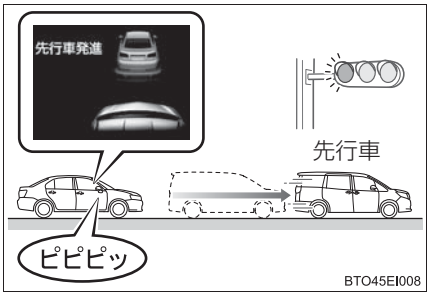
●車両を改造しない

先行車発進告知機能★

先行車の発進後、自車が停車し続けた場合、警告ブザーと表示でお知らせするシステムです。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停車しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停車し続けた場合に告知します。



知識

■作動条件

シフトレバーが D でブレーキペダルを踏んで停車している、またはシフトレバーが N で停車しているとき

■先行車が発進したのに告知されない可能性があるとき

次の状況では先行車発進告知機能による告知がされない場合があります。

- 自車と先行車の停車位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）により、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車が二輪車のとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 先行車を認識できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティシステムが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅しているとき
- ハンドルを大きくきっているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■先行車発進告知機能を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 79）により、先行車発進告知機能を ON ／ OFF できます。

■先行車発進告知機能の告知タイミングを切りかえるには

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 79）により、先行車発進告知機能の告知タイミングを変更することができます。

警告

■告知されない状況のときに告知される可能性があるとき

次の状況では告知されない状況でも告知がされるおそれがあります。
システムを過信せずに、先行車の動きを確認してから発進をしてください。

- 悪天候（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）により、先行車の発進を誤認識したとき。
- 坂道やカーブなどにより、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、間違った対象を先行車と認識しているとき
- 交差点を先頭で停車時、交差点の先の車両や正面を横切る車両などを先行車と認識したとき
- 自車と先行車のあいだに、他の車両や移動物が割り込んだり通過したとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

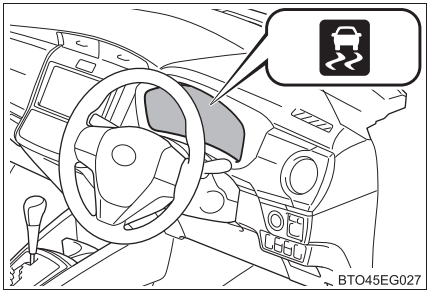
→ P. 166

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



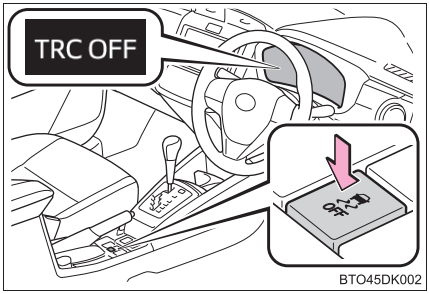
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF 押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■TRC と VSC を停止するには

TRCとVSCを停止するには、停車時に [OFF] を押し3秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示されます。

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 286）

■ [OFF] を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示されたとき

TRC およびヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときは作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチ★を“LOCK”、またはパワースイッチ★を OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。１０分程度で、もとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**スリップ表示灯が点滅しているときは**

VSC・TRC・ABS が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■**TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤまたはホイールを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 342）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 145）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

マルチインフォメーションディスプレイ内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 83）

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときはシフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 237）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前２輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン 198

シートヒーター
（フロントシート）..... 206

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 208

・パーソナルランプ 209

・ルームランプ 209

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....211

・グローブボックス.....212

・助手席アッパーボックス..212

・コンソールボックス.....213

・カップホルダー／
ボトルホルダー.....214

・コインホルダー.....216

トランク内装備.....217

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....218

・サンバイザー 218

・バニティミラー.....218

・アクセサリーソケット.....219

・アシストグリップ.....220

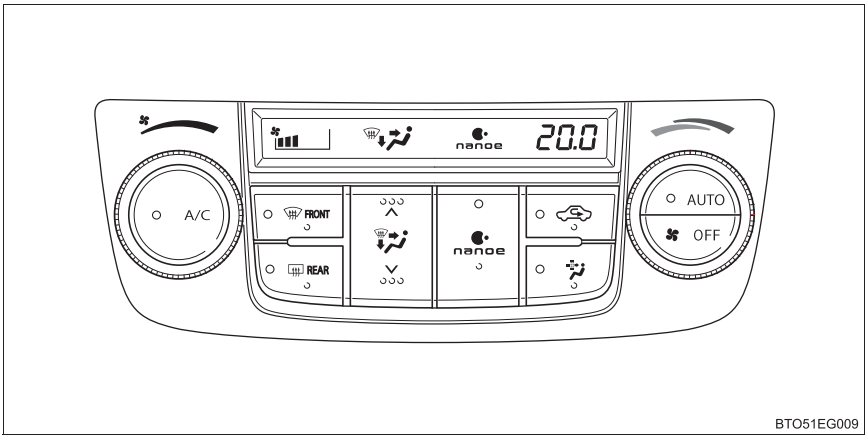
・時計.....221

・リヤアームレスト.....222

・ステアリングスイッチ.....223

オートエアコン

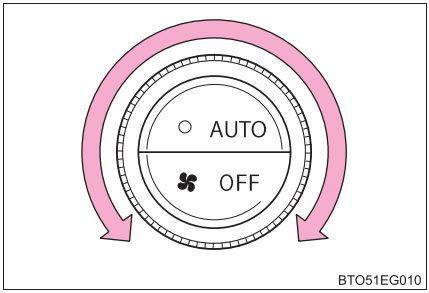
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右に、下げるときは左にまわす

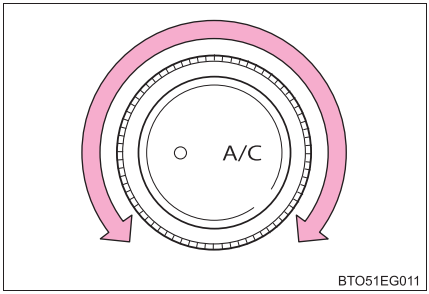
が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。



■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調節ダイヤルを右に、減らすときは左にまわす

を押すと、送風が止まります。



■ 吹き出し口を切りかえる

の∧または∨を押す

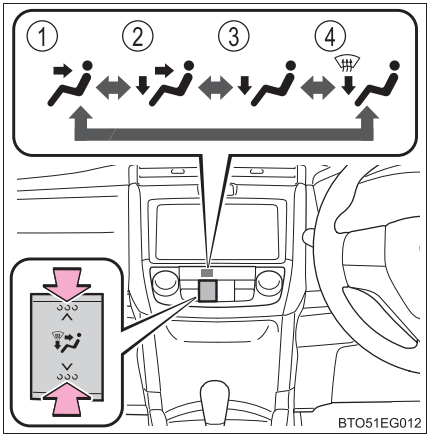
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

1

を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

2 温度を設定する

3 送風を止めたいときは、

を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは の表示灯が点灯します。

■ 花粉除去機能を使うには

を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約 3 分後に を押す前のモードにもどります。

途中で止めるときは、再度 を押すと前のモードにもどります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

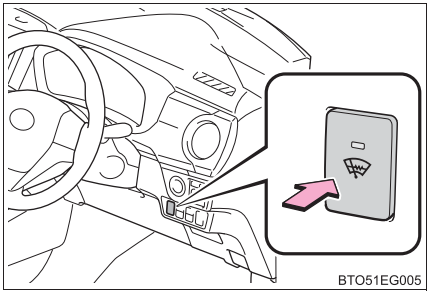
・ 押すごとに作動が切りかわり、作動中は表示灯が点灯します。
・ リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的にオフになります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

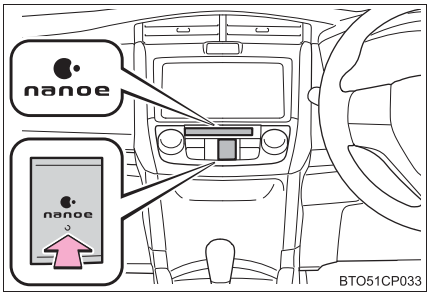


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

「ナノイー」を作動させるには

ON・OFF

表示部に「nanoe」が表示されます。
風量がOFFになっているときは作動しません。
（「ナノイー」について：→P. 203）

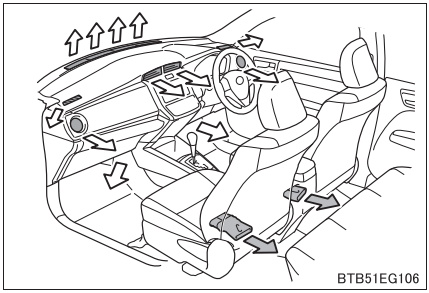


吹き出し口について

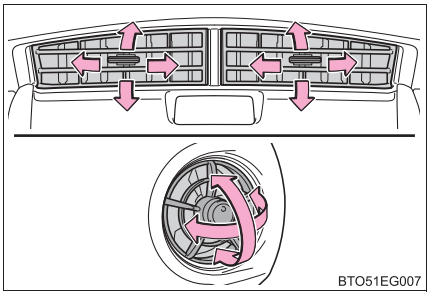
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

⇦：寒冷地仕様車のみ



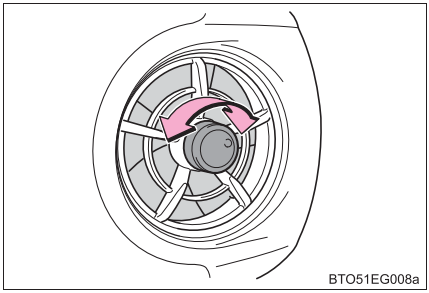
■ 風向きの調整



■ 吹き出し口の開閉

ダイヤルをまわすことにより、風量を調整することができます。

吹き出し口を閉めるときは、いちばん右までまわします。



知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■花粉除去モードについて

●外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために次のような作動をする場合があります。

・内気循環に切りかわらない
・除湿機能が作動する
・約 1 分後に作動が停止する

●雨天時はガラスが曇るため、A/C を押してください

●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

●花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー」※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席外側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内をさわやかな空気環境に導きます※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が、または のとき
・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

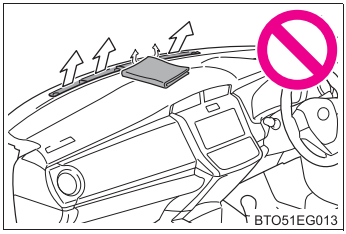
→ P. 243

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

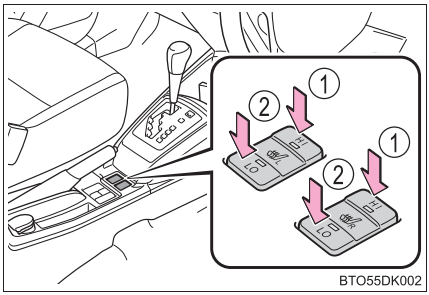
シートヒーター（フロントシート）★

シートを温めることができます。

① HI（強）

② LO（弱）

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”★またはパワースイッチが ON モード★のとき

■シートヒーターについて

●HI（強）にすると、シートの背部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。

●LO（弱）にすると、シートの背部分と背もたれ中央部のみを暖めます。

警告

■やけどについて

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。

・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

●シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常加熱の原因になります。

●シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

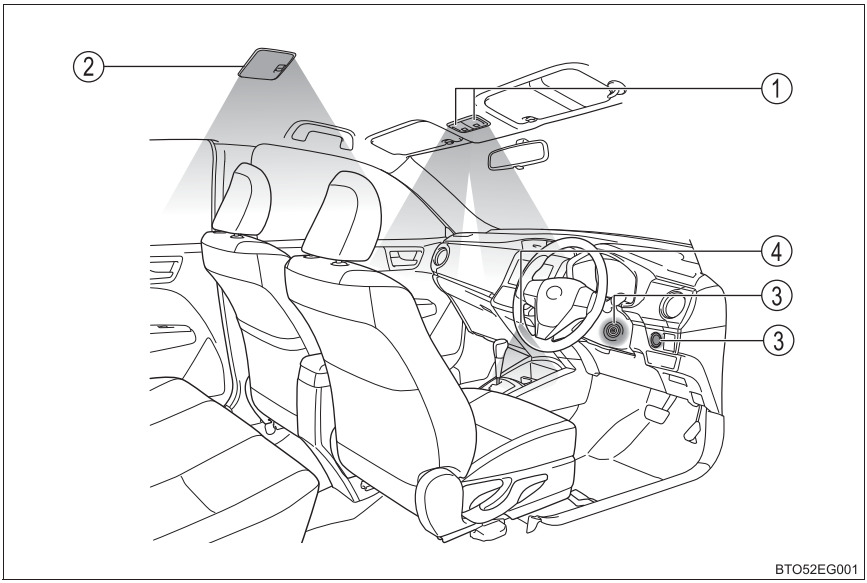
■**シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■**補機バッテリーあがりを防ぐために**

ハイブリッドシステムが停止しているときは、シートヒーターを使用しないでください。

室内灯一覧



① パーソナルランプ （→ P. 209）

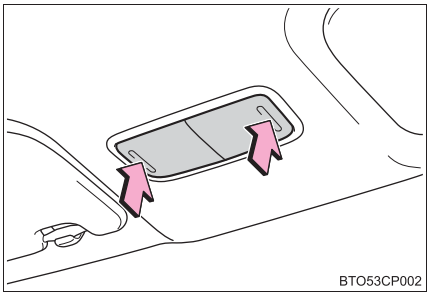
② ルームランプ （→ P. 209）

③ エンジンスイッチ照明
（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）
パワースイッチ照明
（スマートエントリー ＆ スタートシステム装着車）

④ カップホルダー照明

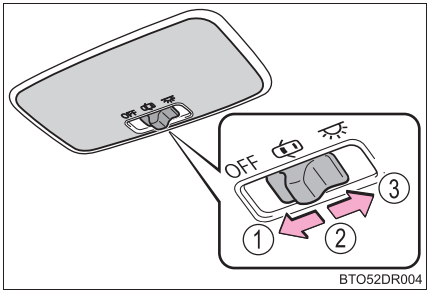
パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する



ルームランプ

① ランプを消灯する
② ドアポジション（ドア連動）
③ ランプを点灯する



知識

- ランプスイッチがドアポジションのとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）／エンジンスイッチの位置（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）により各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- エンジンスイッチ★が“LOCK”またはパワースイッチ★がOFFで室内灯が点灯したままの場合、約20分後に自動消灯します。
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 346）

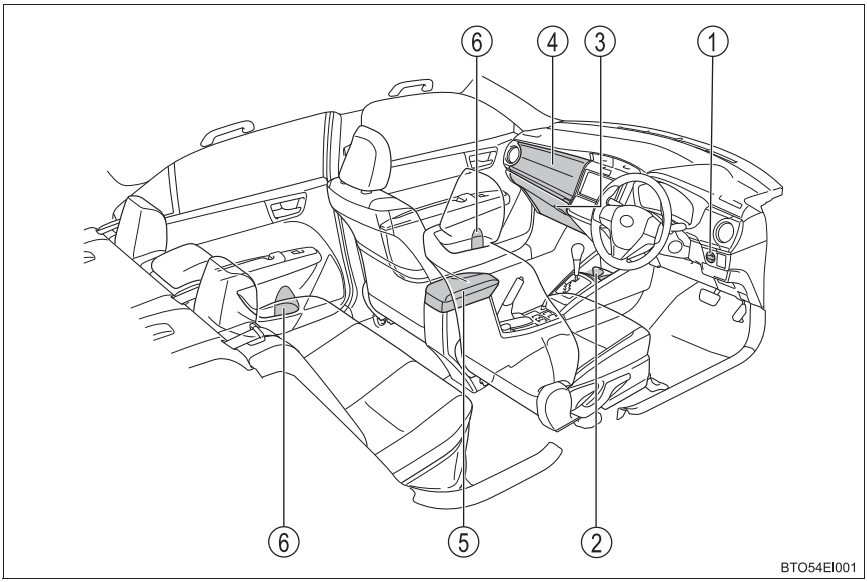
注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



① コインホルダー★（→ P. 216）
② カップホルダー　（→ P. 214）
③ グローブボックス（→ P. 212）
④ 助手席アッパーボックス（→ P. 212）
⑤ コンソールボックス（→ P. 213）
⑥ ボトルホルダー　（→ P. 214）

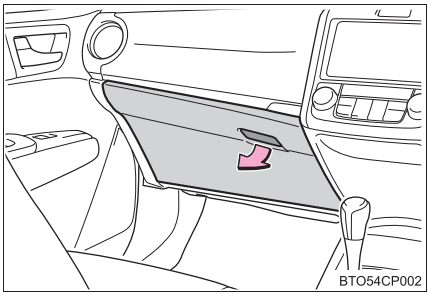
警告

- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

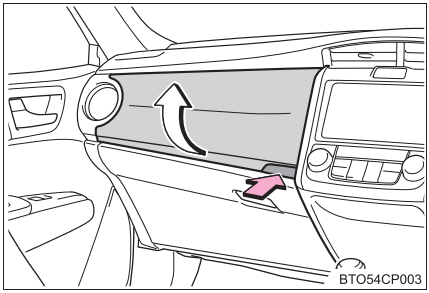
グローブボックス

レバーを引いて開ける



助手席アッパーボックス

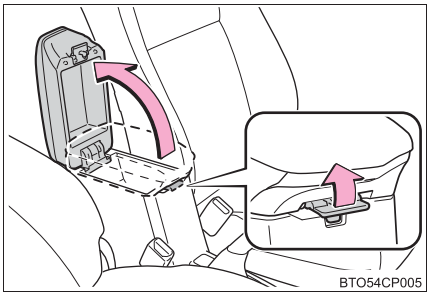
ボタンを押して開ける



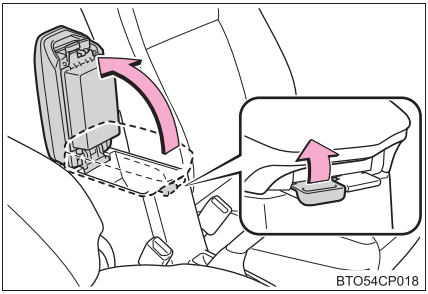
コンソールボックス

▶ コンソールボックス（スライド機能非装着車）

レバーを引いてフタを持ち上げる

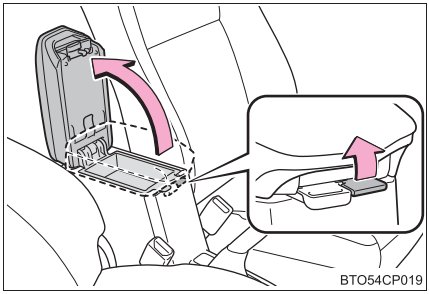


▶ コンソールボックス
（スライド機能装着車）



運転席側のレバーを引いてフタを持ち上げる

▶ 上段ボックス
（スライド機能装着車）

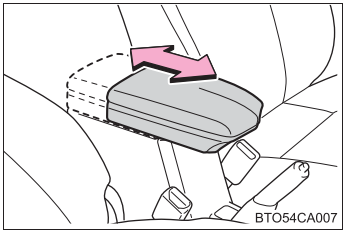


助手席側のレバーを引いてフタを持ち上げる

知識

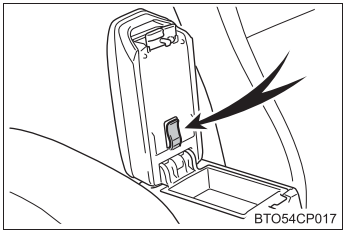
■ **コンソールボックスのフタについて（スライド機能装着車）**

フタを前後にスライドさせることができます。



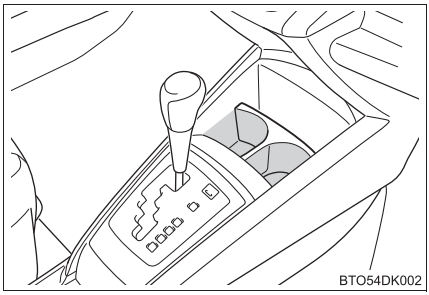
■カードホルダーについて（スライド機能装着車）

上段ボックスのフタにカードホルダーがあります。

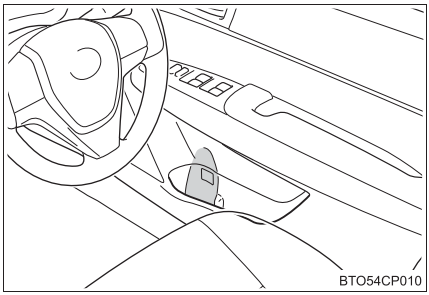


カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー



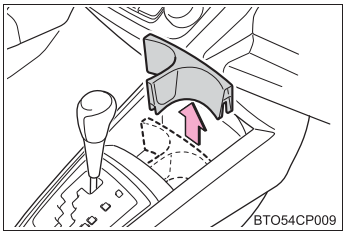
■ ボトルホルダー



知識

■カップホルダーの仕切りについて

カップホルダー内を清掃するために、仕切りを取りはずすことができます。



■ボトルホルダーとして使用するときは

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

●カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

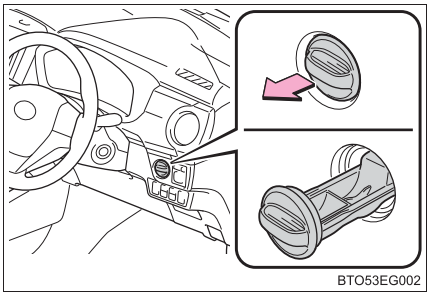
●やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。

注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

コインホルダー★

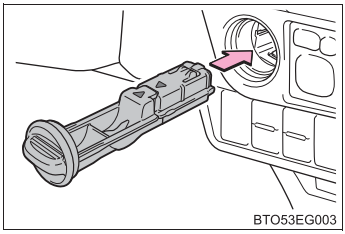
ツマミを引いて開ける



知識

■コインホルダーについて

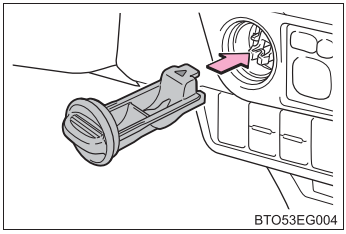
強く引くと取りはずすことができます。清掃などで取りはずし、もとにもどすときは、マークを上にして入れてください。



注意

■コインホルダーについて

コインホルダーを引き出した状態で、上下左右に強い力を加えないでください。強い力が加わると分離してはずれるようになっています。
はずれてしまったときは、マークを上にして“カチッ”と音がするまで強く押し込んでください。



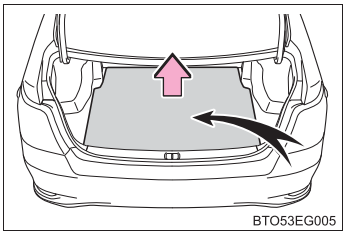
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トランク内装備

知識

■停止表示板収納について

ラゲージマット下の工具入れに、停止表示板を収納することができます。
ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

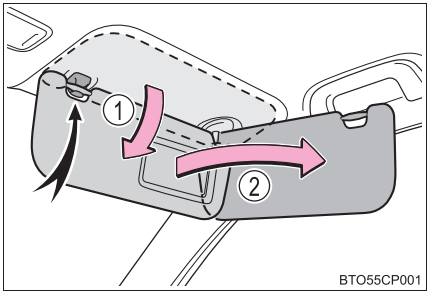

BTO53EG005

その他の室内装備

サンバイザー

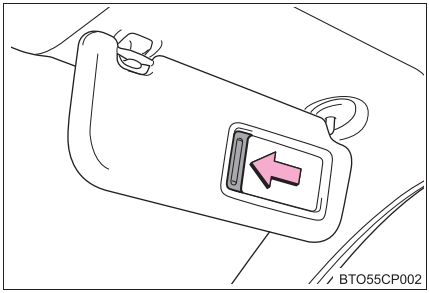
① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー★

カバーをスライドして開ける

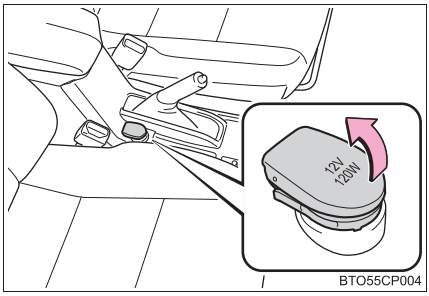


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクセサリーソケット

ＤＣ12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチがアクセサリーモード、または ON モードのとき

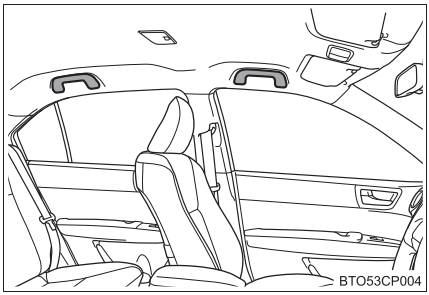
注意

●異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

●補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

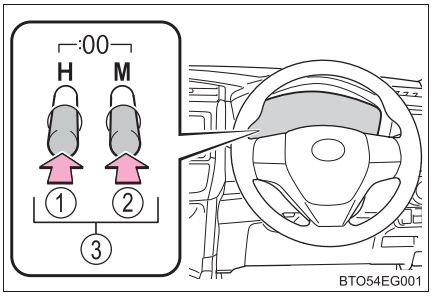
① “時”を調整する（H）

② “分”を調整する（M）

③ “分”を 00 にする※

クロックボタンを同時に 1 秒以上押します。

※（例）1：00 ～ 1：29 → 1：00
1：30 ～ 1：59 → 2：00



知識

■時刻が表示されるとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

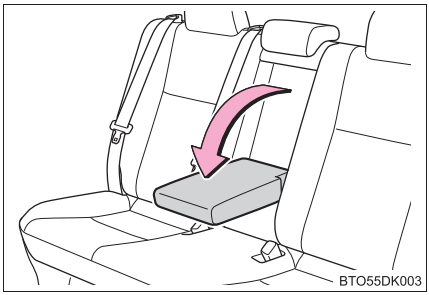
パワースイッチが ON モードのとき

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは

補機バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

リヤアームレスト★

手前に倒して使用します。



注意

破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

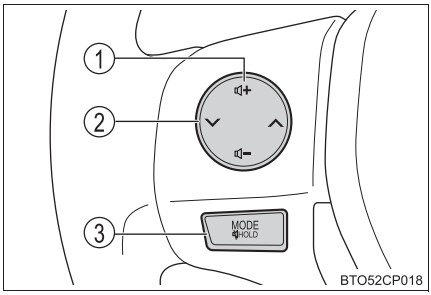
ステアリングスイッチ★

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の各説明書をご覧ください。

① 音量を調整する

② CD・ラジオなどの操作

③ 電源を入れる・モードの切りかえ



■ 電源を入れる

MODE HOLD を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

■ モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき、MODE HOLD を押す

押すごとにモード（CD・ラジオなど）が切りかわります。

■ 音量を調整する

音量を大きくするには ＋ の＋側を、小さくするには－側を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

⚠ 警告

事故を防ぐために、運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....226
内装の手入れ.....229
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 232
ガレージジャッキ.....235
ウォッシャー液の補充.....236
タイヤについて.....237
タイヤ空気圧について 241
エアコンフィルターの交換 ...243
キーの電池交換.....245
ヒューズの点検・交換.....248
電球（バルブ）の交換.....251

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納した状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（電子キーの盗難に注意してください）。

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ドアガラスの撥水コーティング★について

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■レインクリアリングミラー★の親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 114）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす
3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す
4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る
5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

●駆動系部品

●ステアリング部品

●サスペンション部品

●ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■**車両への水の浸入**

●床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 30)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**シート周辺の注意**

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

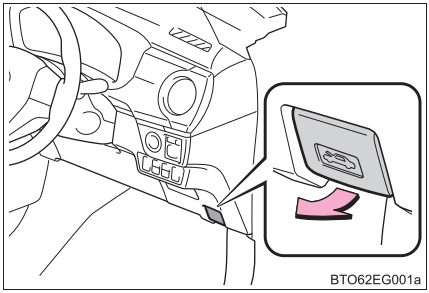
●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

ボンネット

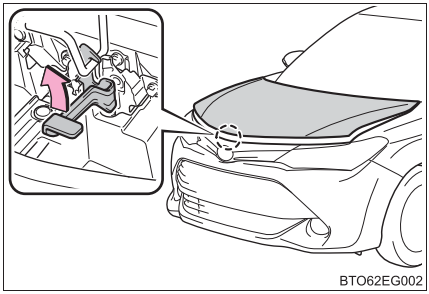
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

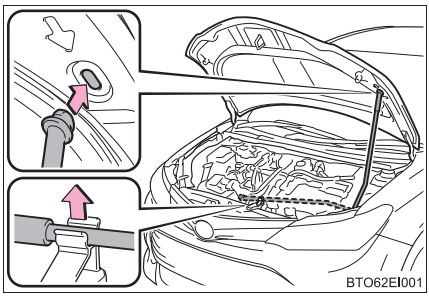
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

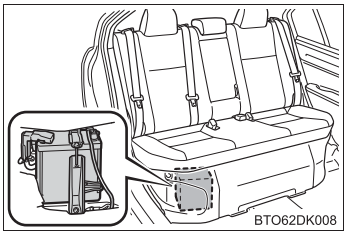


3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



知識

■補機バッテリーについて



- この車両の補機バッテリーはリヤシート下（右側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量などの点検は不要です）
- 補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 326）

■補機バッテリー端子をはずしたときは

- 補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 必ず－端子を先にはずしてください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

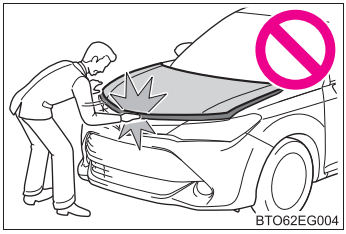
■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■補機バッテリー端子を脱着するときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの交換について

交換する際はカローラアクシオ専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

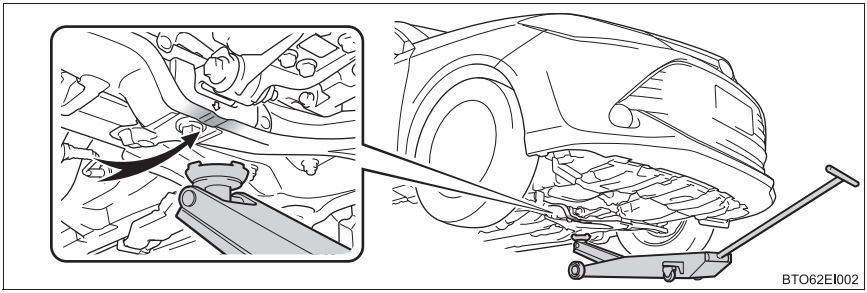
■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

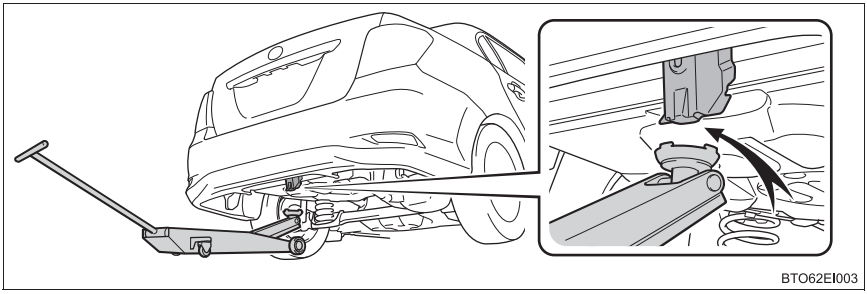
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



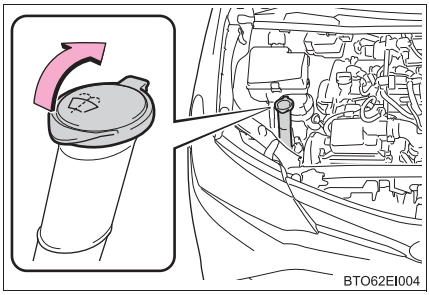
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

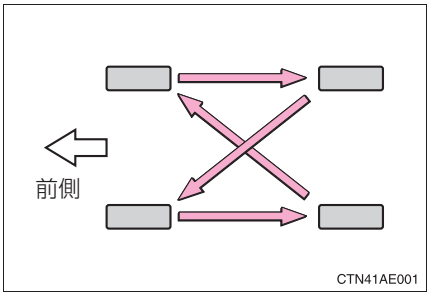
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。



知識

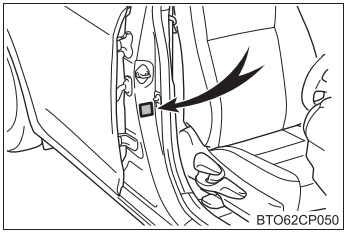
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
175/65R15 84H	230（2.3）	
185/55R16 83V	230（2.3）	

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（16 インチタイヤ装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（16 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

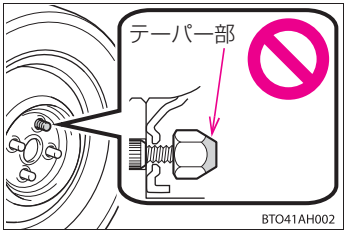
異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■低偏平タイヤについて（16 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

●適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。（→ P. 342）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正がどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

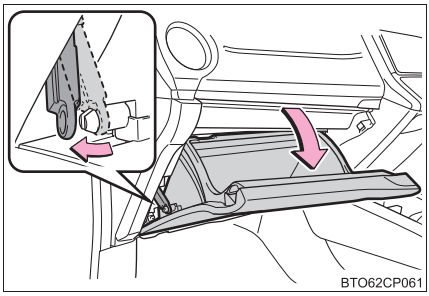
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

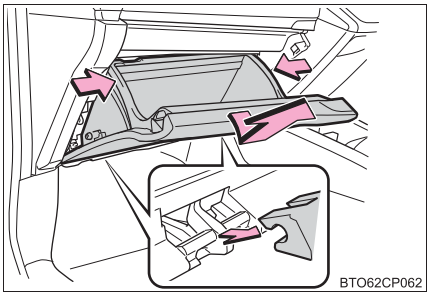
交換のしかた

1 エンジンスイッチ★を“LOCK”またはパワースイッチ★を OFF にする

2 グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす



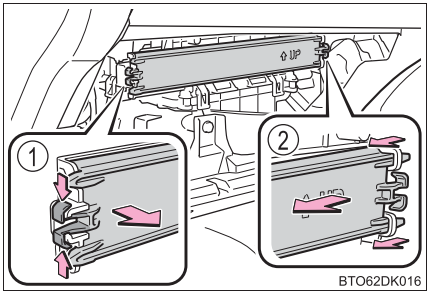
3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



4 フィルターカバーを取りはずす

① フィルターカバーの固定を解除する

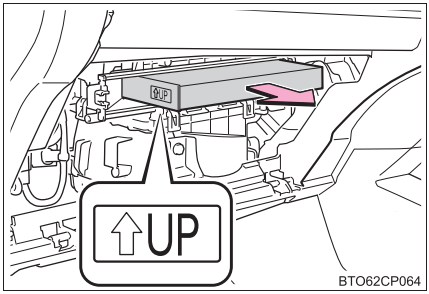
② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

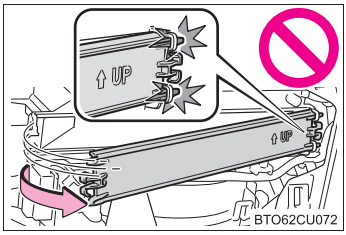
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
  - ・CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）
  - ・CR1632（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

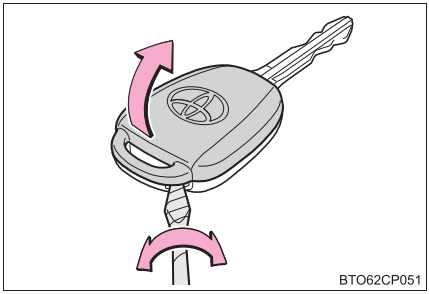
電池交換のしかた

■ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

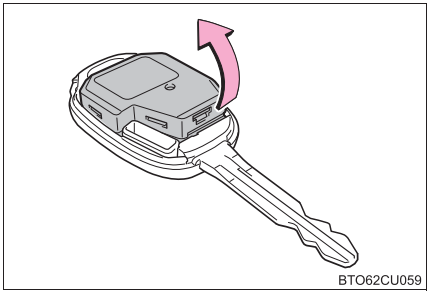
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

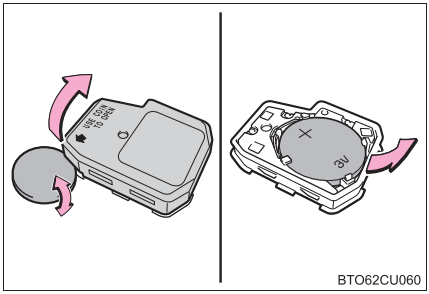

BTO62CP051

2 モジュールを取りはずす


BTO62CU059

3 コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

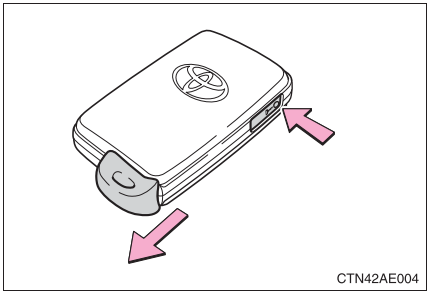
新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

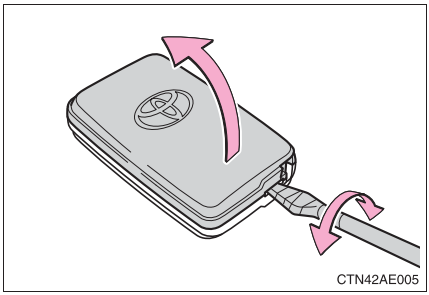
■ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

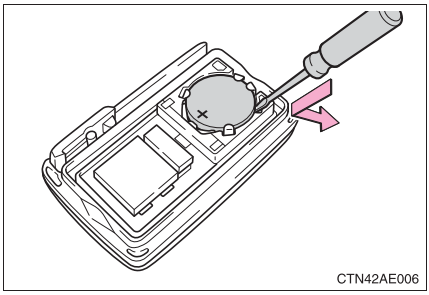
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：CR2016

●スマートエントリー＆スタートシステム装着車：CR1632

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

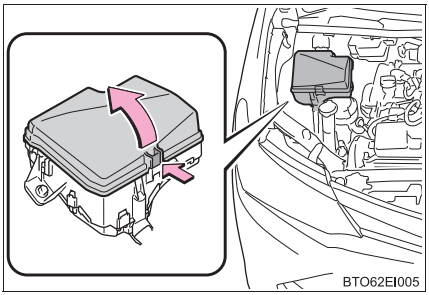
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチ★を“LOCK”またはパワースイッチ★を OFF にする

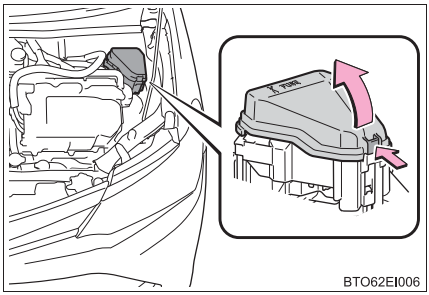
2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（1）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ エンジンルーム（2）

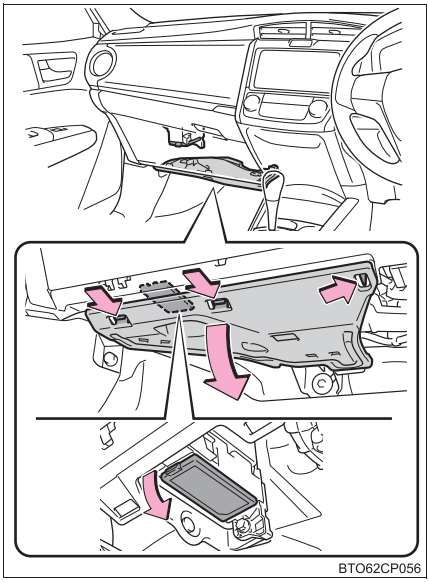


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

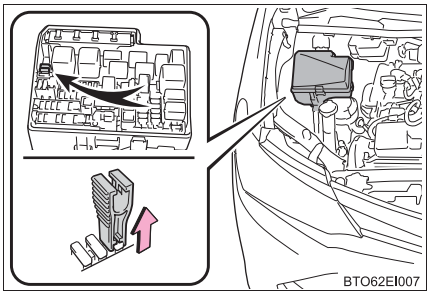
▶ 助手席足元

インパネアンダーカバー★を取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

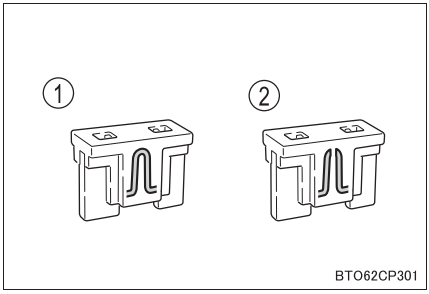


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 251）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

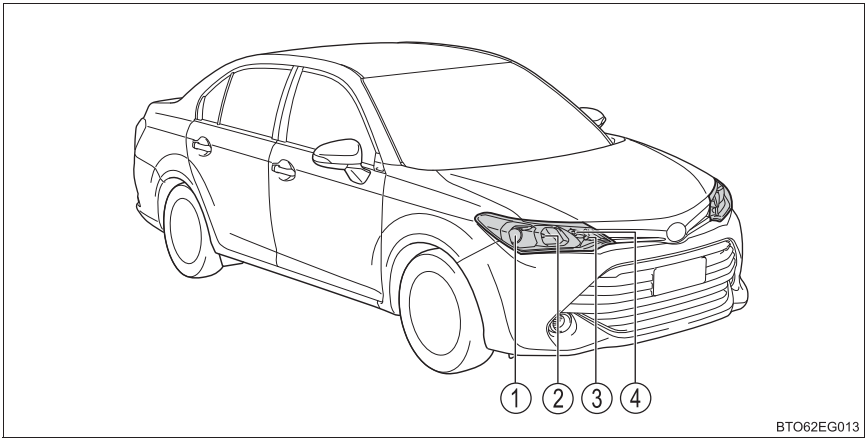
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 343）

バルブ位置

■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



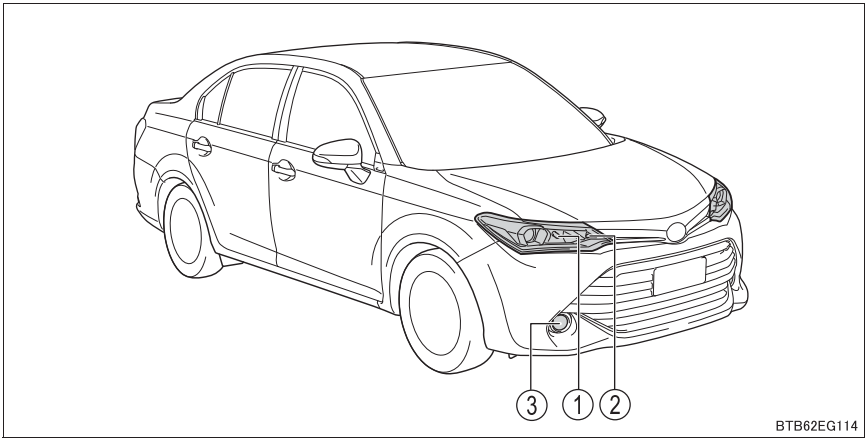
① ヘッドランプロービーム

② ヘッドランプハイビーム

③ フロント方向指示灯／非常点滅灯

④ 車幅灯

▶ LED ヘッドランプ装着車

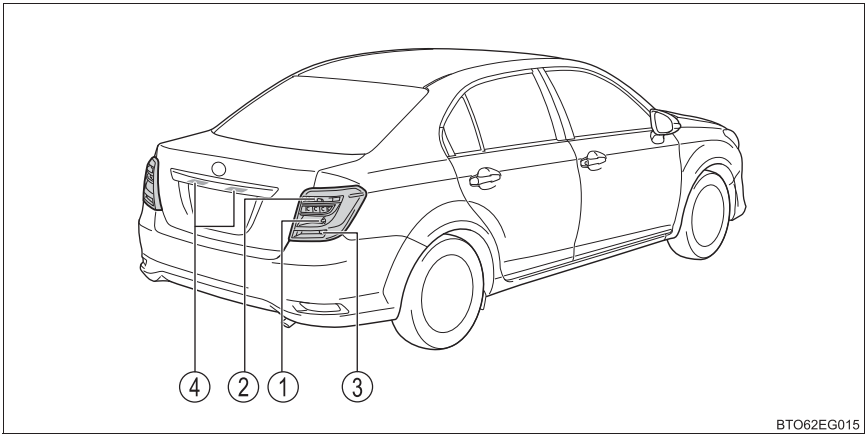


① フロント方向指示灯／非常点滅灯

② 車幅灯★

③ フロントフォグランプ★

■ リヤ



① 尾灯

② 後退灯

③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

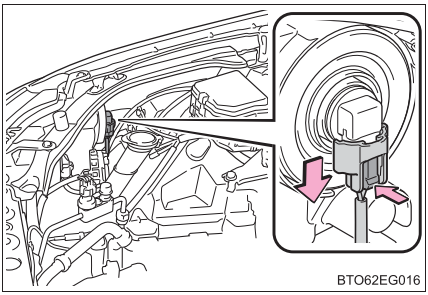
④ 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

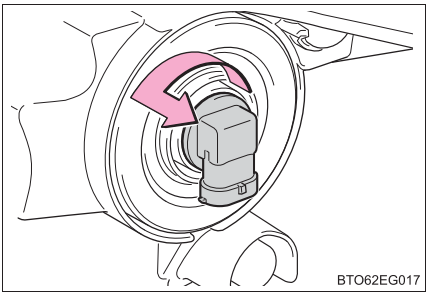
電球交換のしかた

■ ヘッドランプロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ツメを押し、コネクターを取りはずす



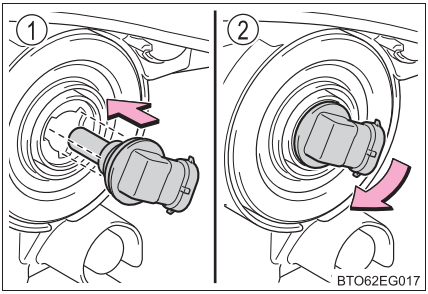
2 電球を取りはずす



3 新しい電球を取り付ける

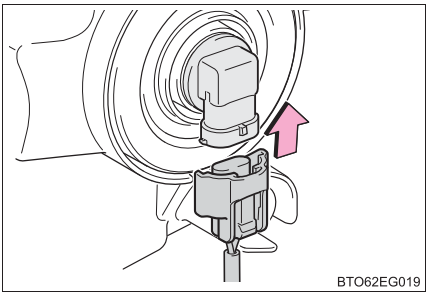
① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約45°傾けながら挿し込みます。

② 電球を右にまわして固定します。



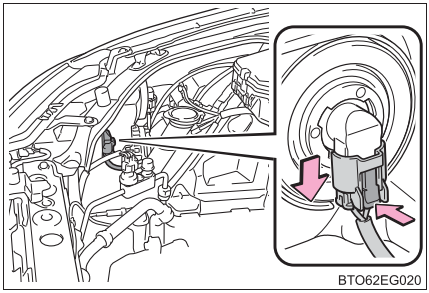
4 コネクターを取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、いったんヘッドランプロービームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

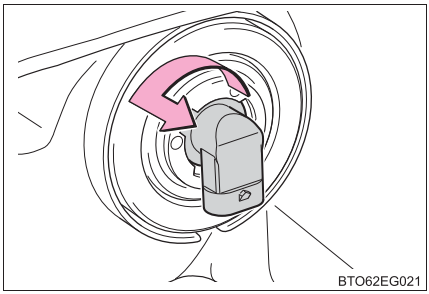


■ ヘッドランプハイビーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ツメを押し、コネクターを取りはずす


BTO62EG020

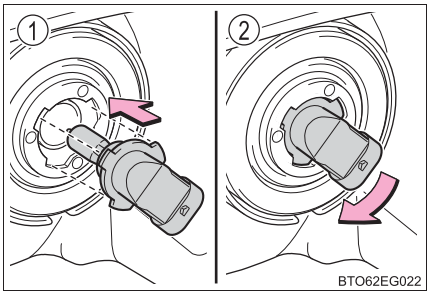
2 電球を取りはずす


BTO62EG021

3 新しい電球を取り付ける

① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約45°傾けながら挿し込みます。

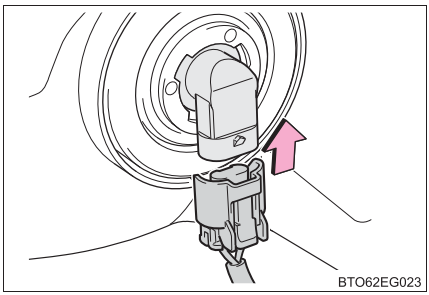
② 電球を右にまわして固定します。



BTO62EG022

4 コネクターを取り付ける

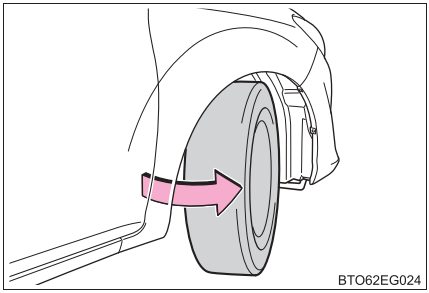
ソケットを取り付けたあとは、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。


BTO62EG023

■ フロントフォグランプ★

1 交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

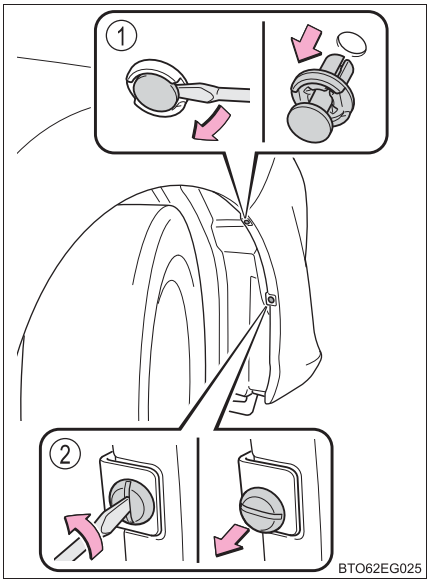
手が十分入る程度にハンドルをまわしてください。



2 クリップを取りはずす

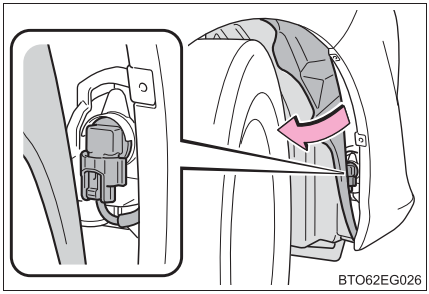
① マイナスドライバーで中央部を引き出し、クリップを引き抜きます

② マイナスドライバーで90度まわし、クリップを浮かし引き抜きます

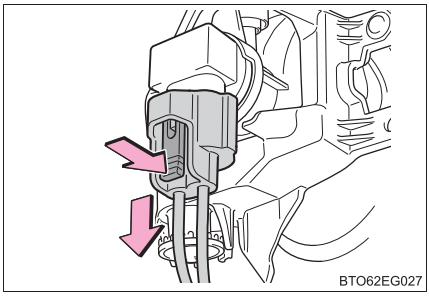


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

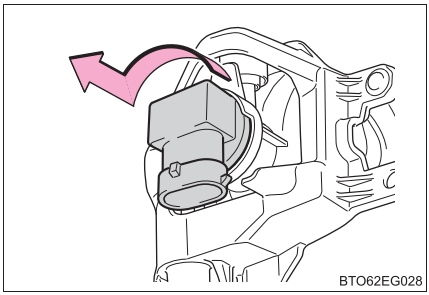
3 コネクターが見える位置までフェンダーライナーをめくる



4 ツメを押し、コネクターを取りはずす



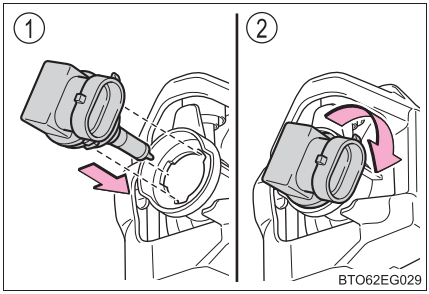
5 電球をまわして取りはずす



6 新しい電球を取り付ける

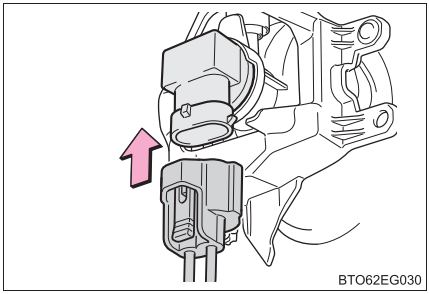
① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約45°傾けながら挿し込みます。

② 電球を右にまわして固定します。



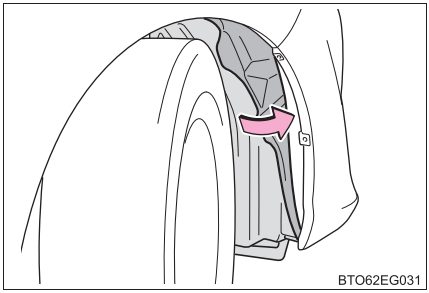
7 コネクターを取り付ける

コネクターを取り付けたあとは、いったんフロントフォグランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



8 フェンダーライナーを取り付ける

フェンダーライナーをバンパーの内側に取り付けます。

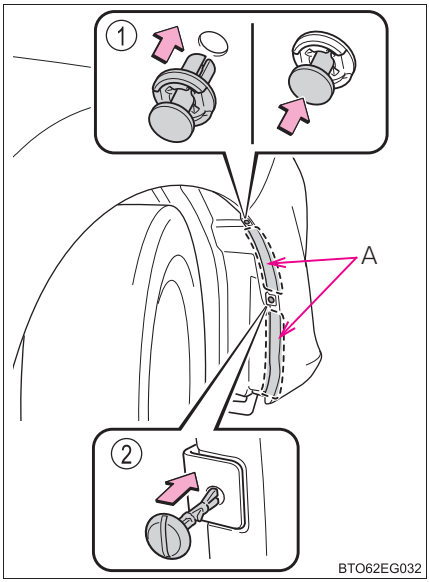


9 クリップを取り付ける

フェンダーライナー（A 部）がバンパーの内側になっていることを確認してから取り付けてください。

① 挿し込んでから中央部を押します

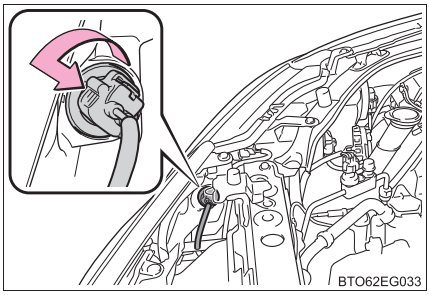
② クリップの溝を縦にして挿し込みます



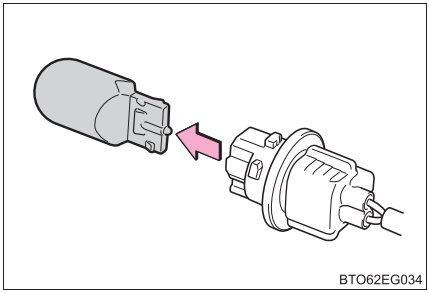
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

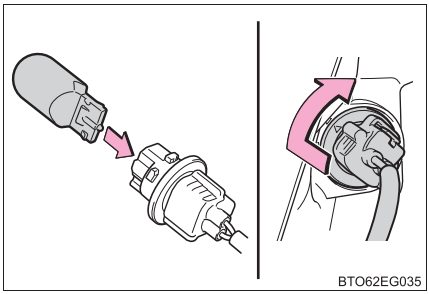
1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



2 電球を取りはずす

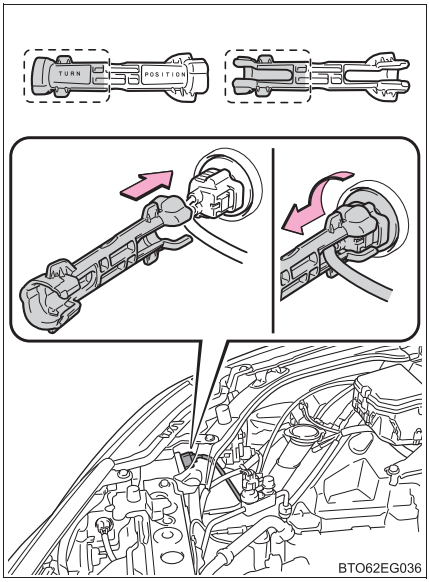


3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

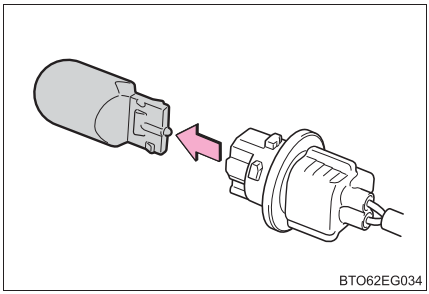


▶ LED ヘッドランプ装着車

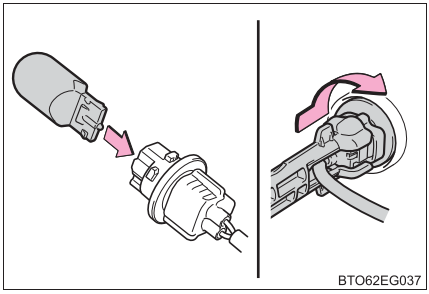
1 トランク内に収納されているバルブ交換ツール（→ P. 298, 309）の“TURN”側を、フロント方向指示灯／非常点滅灯のソケットにはめ込み、まわして取りはずす



2 ソケットを取りはずしたあと、電球を取りはずす



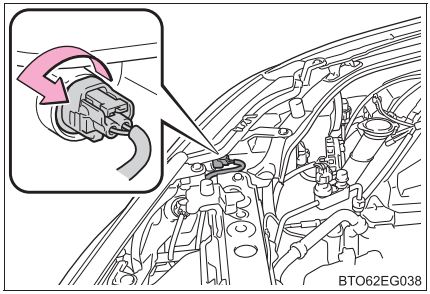
3 新しい電球を取り付け、バルブ交換ツールにソケットをはめ込み、バルブ交換ツールをまわして取り付ける



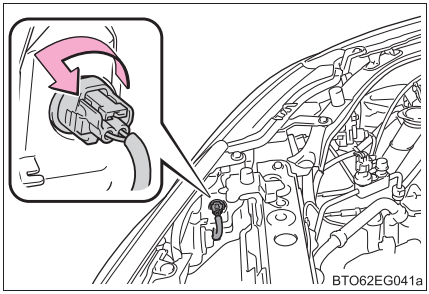
■ 車幅灯

1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす

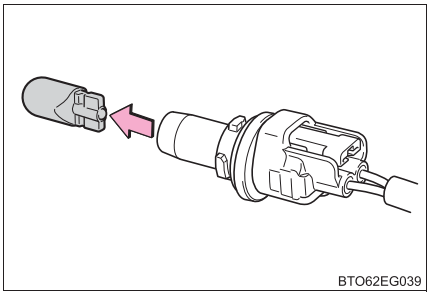
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



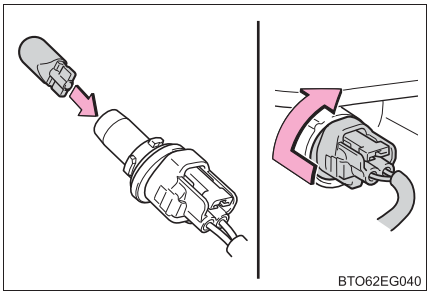
▶ LED ヘッドランプ装着車



2 電球を取りはずす

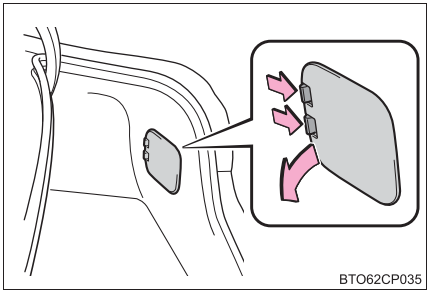


3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける



■ 尾灯、リヤ方向指示灯／非常点滅灯、後退灯

1 トランクを開けて、カバーを取りはずす

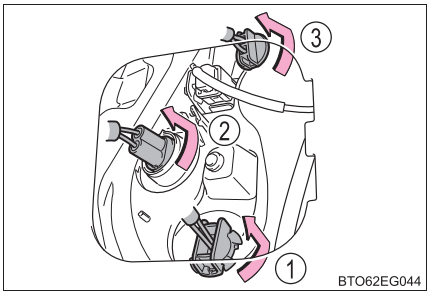


2 ソケットをまわして取りはずす

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 尾灯

③ 後退灯

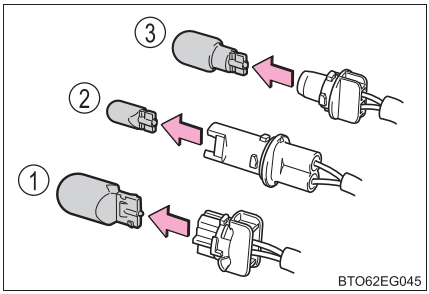


3 電球を取りはずす

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 尾灯

③ 後退灯

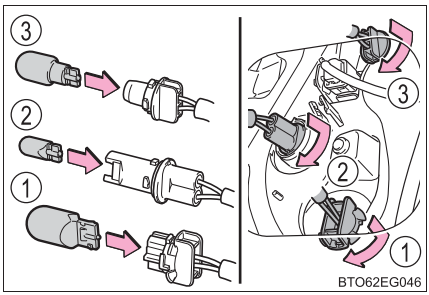


4 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 尾灯

③ 後退灯



5 カバーを取り付ける

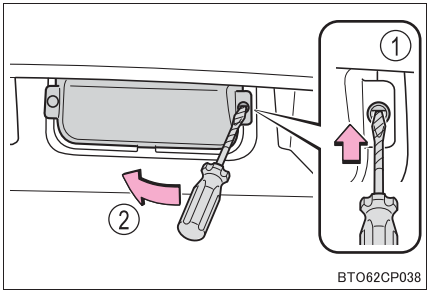
■ 番号灯

1 レンズを取りはずす

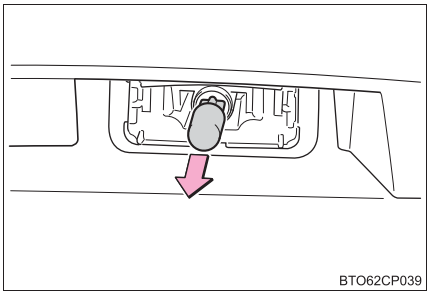
① 小さいドライバーなどをレンズ横の穴に挿し込みます

② 図のように取りはずします

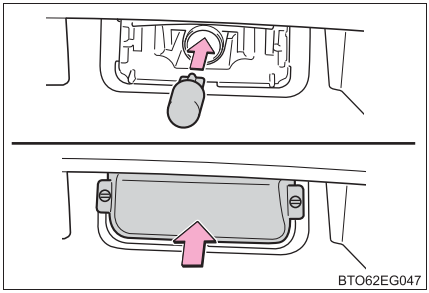
傷が付くのを防ぐために、マイナスドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。



2 電球を取りはずす



3 新しい電球を取り付け、レンズを取り付ける



■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- LED ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■LED ランプについて

LED ヘッドランプ★・制動灯・ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 250

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**電球を交換するとき**

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....266

非常点滅灯
（ハザードランプ）.....267

発炎筒.....268

車両を緊急停止するには.....270

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....272

警告灯がついたときは.....279

警告メッセージが
表示されたときは.....283

パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....297

パンクしたときは
（タイヤパンク応急
修理キット装着車）.....308

ハイブリッドシステムが
始動しないときは.....321

シフトレバーが
シフトできないときは.....323

電子キーが正常に働かない
ときは（スマート
エントリー＆スタート
システム装着車）.....324

補機バッテリーが
あがったときは.....326

オーバーヒートしたときは...331

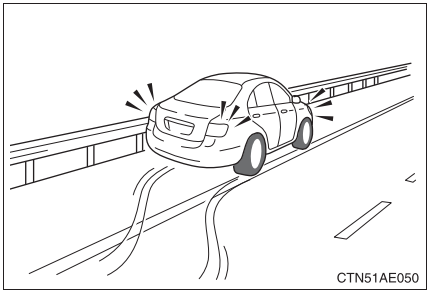
スタックしたときは.....335

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

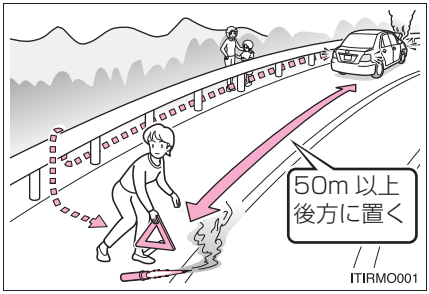
非常点滅灯（→ P. 267）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

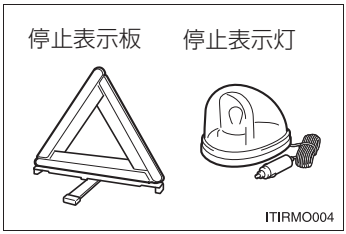
- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 268）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

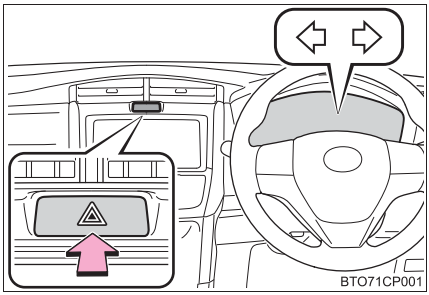


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

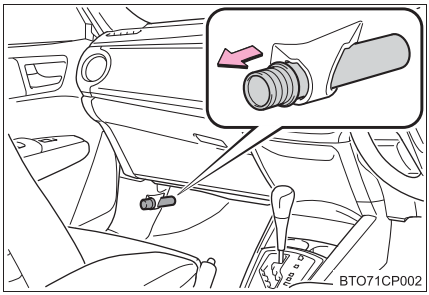
■非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

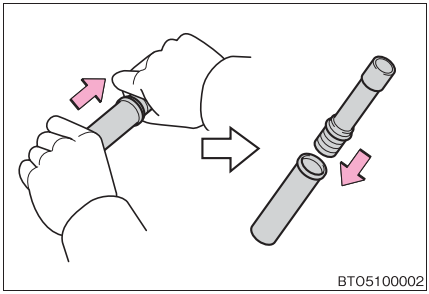
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

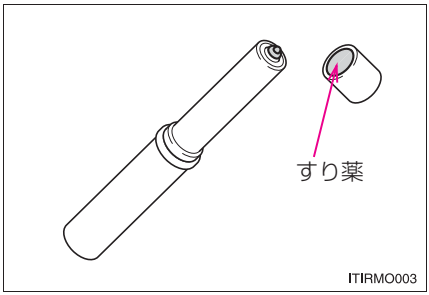


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

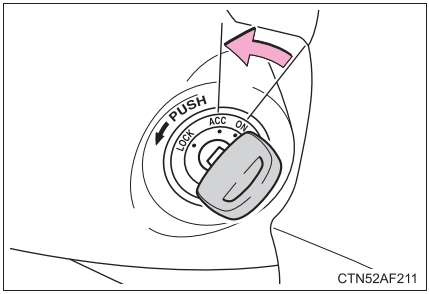
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

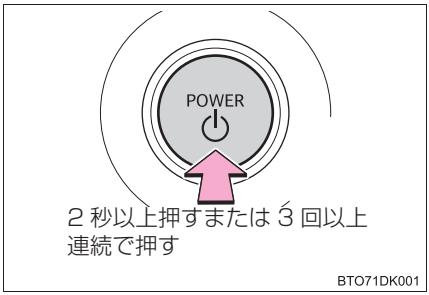
▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、ハイブリッドシステムを停止する



スマートエントリー＆スタートシステム装着車：パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき**

●ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

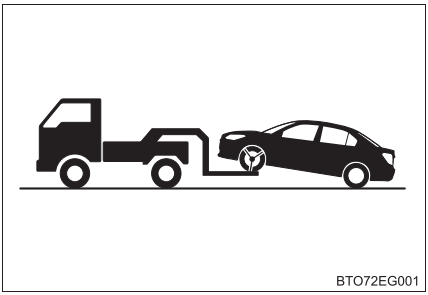
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され車が動かない
- 異常な音がする

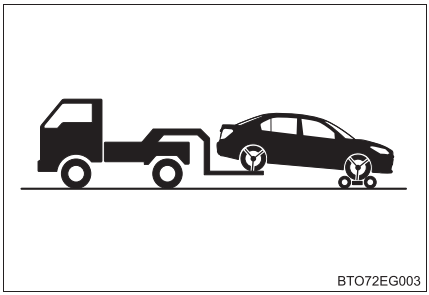
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

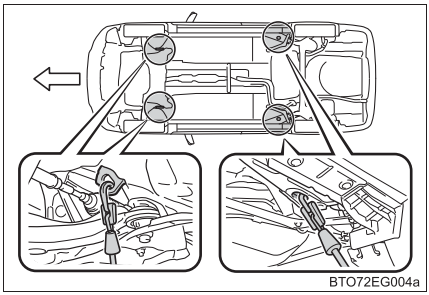
▶ うしろ向きにけん引するときは



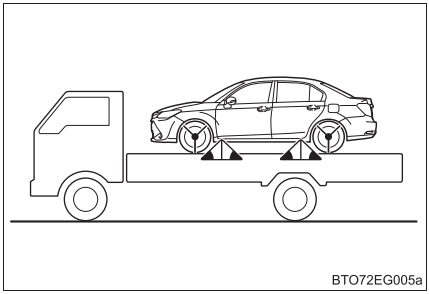
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する


BTO72EG004a

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する


BTO72EG005a

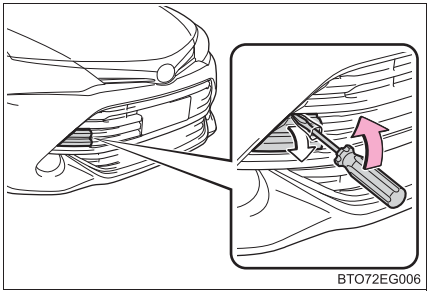
他車にけん引してもらうとき

1 けん引フックを取り出す（→ P. 298, 309）

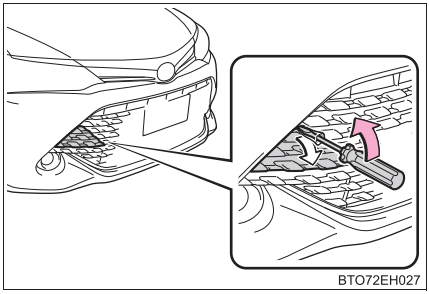
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。
また、バンパー側にも保護テープなどを貼って、傷が付くのを防いでください。

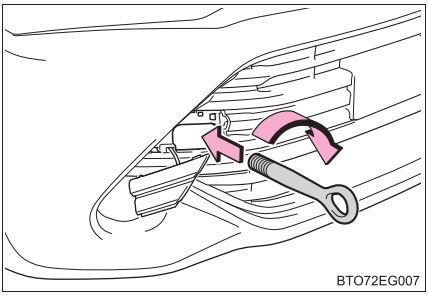
▶ フロントバンパー A



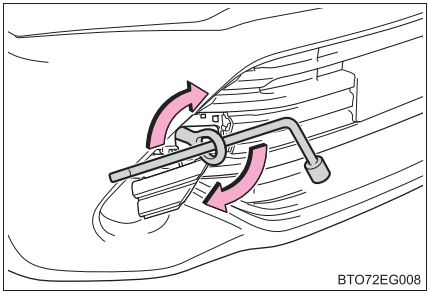
▶ フロントバンパー B



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

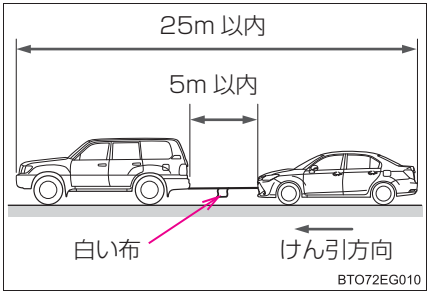


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上



7 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 323

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

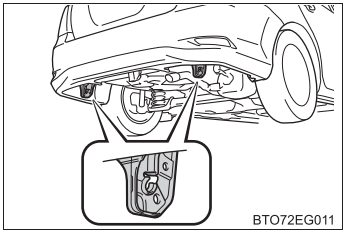
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トランク内に搭載されています。（→ P. 298, 309）

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張りだしてもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

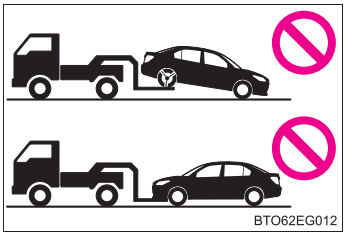


警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



警告

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを “LOCK” ★またはパワースイッチを OFF ★にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります

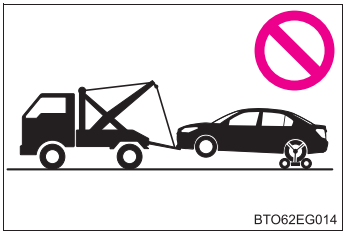
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■駆動系部品の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 5 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	パーキングブレーキ未解除警告灯（警告ブザー※2） パーキングブレーキがかかっているとき **→パーキングブレーキを解除する**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC・ABS システムの作動時は点滅します。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 5L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※ 3） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
OFF	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★** 警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点滅した場合（ブザーなし）： 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一時停止している可能性があります。 ・前方センサー周辺のフロントウインドウガラスに汚れ（くもり、結露、凍結などを含む）や付着物がある **→汚れや付着物を取り除いてください。（→ P. 164）** ・前方センサー温度が作動範囲外 **→センサーの周辺温度が下がるまでしばらくお待ちください。** 警告灯が点灯した場合： VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムまたはプリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF になっています。 **→VSC システムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。（→ P. 167, 188）**
	LED ヘッドランプ警告灯★ LED ヘッドランプの異常 異常時は LED ヘッドランプは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	マスターウォーニング システムの異常時に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P. 283

※1 ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※2 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーがなることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき**

この場合、ABS、ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあります。
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

■**パワーステアリング警告灯が点灯したとき**

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

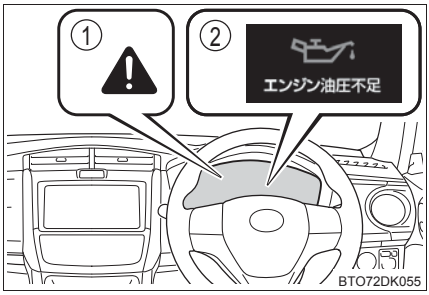
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ・警告ブザー一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキ!	**衝突の可能性が高い** **プリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム）★** 警告ブザーが鳴ります。 → **周囲の安全を確認して、必要に応じて回避行動をとってください。**
	（LDA ★制御中）車線逸脱警報 車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の表示が黄色で点滅します。 警告ブザーが連続して鳴ります。 → **周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキ システムチェック （黄色）	**回生ブレーキシステムの異常** **電子制御ブレーキシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
ハイブリッドシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書を確認	**ハイブリッドシステムの異常** 警告メッセージの表示に合わせて警告ブザーがなります。 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
プリクラッシュセーフティ故障 販売店で 点検してください OFF （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
LDA故障 販売店で 点検してください	**LDA ★の異常** **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
LDA　約50km/h以下で 使用できません	**車速が約 50km/h 以下のため、LDA ★が使用できない** **→50km/h 以上の車速で走行する**
LDA現在の車速では 使用できません	**車速が LDA ★の作動可能範囲を超えたため、使用できない** **→車速を落として走行する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
アクセルを 戻してください （点滅）	**アクセルペダルを踏みながらシフトレバーを動かし、ドライブスタートコントロールが作動した** 警告ブザーが鳴ります。 → **一度アクセルペダルから足を離す**
ドライブスタート コントロール故障 販売店で点検してください	**ドライブスタートコントロールの異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
プリクラッシュセーフティ 現在使用できません OFF（点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が現在機能していない** →**ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ブレーキオーバーライド システム故障 販売店で 点検してください	**ブレーキオーバーライドシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
アクセルとブレーキが 両方踏まれています （点滅）	**アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれ、ブレーキオーバーライドシステム（→P. 122）が作動した** →**アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離す**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
VSCがOFFのため プリクラッシュブレーキも 停止します OFF OFF	**VSC（ビークルスタビリティコントロール）が OFF になり、プリクラッシュブレーキ★の作動が停止した** **→VSC を ON にする（→P. 188）**
TRC OFF	**TRC（トラクションコントロール）が OFF になっている** **→TRC を ON にする（→P. 187）**
エンジン冷却水高温	**エンジン冷却水高温異常** 警告ブザーが鳴ります。 →P. 331
ハイブリッドシステム高温 出力制限中です	**ハイブリッドシステムの過熱** 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ 車両を停車して点検する（→ P. 331）**
エンジン油圧不足	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと、警告ブザーと共に表示されます。 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
パワーステアリング システムチェック ただちに販売店で 点検を受けてください	**パワーステアリングシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
充電システム故障	**充電系統の異常** **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
ヘッドランプシステム故障 販売店で 点検してください	**・AHB（オートマチックハイビーム）★の異常** **・LED ヘッドランプ★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ヘッドライトレベリング システムチェック	**ヘッドランプオートレベリングシステム★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
スマートエントリー& スタートシステムチェック （点滅）	**・スマートエントリー＆スタートシステムの異常** **・ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	各ドア、トランクが確実に閉まっていない 開いているドア、トランクが表示されます。 各ドア、トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえたときには ⚠ が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 → **開いているドアを閉める**
パーキングブレーキを 解除してください Ⓟ	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h をこえたときには ⚠ が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 → **パーキングブレーキを解除する**
ライトが点灯しています ⚠（点滅）	**ヘッドランプ、尾灯が点灯している状態で、運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 → **ヘッドランプ、尾灯を消灯する**
ハイブリッド 充電量低下 Nレンジ以外にすると 充電されます ⚠（点滅）	**駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが鳴ります。 → **シフトレバーが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーを P に入れる**
ハイブリッド充電量低下のため システム停止 Pレンジにして再始動 ⚠（点滅）	**長時間シフトレバーがNになっているため駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが鳴ります。 → **車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動する**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
Nレンジです アクセルを緩めて希望レンジに 切りかえてください （点滅）	**シフトレバーが N のとき、アクセルペダルを踏んだ** 警告ブザーが鳴ります。 → **アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D、B または R に入れる**
駐車時はPレンジに 入れてください （点滅）	**シフトレバーが N・D・B で、運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 → **シフトレバーを P にする**
ガソリン残量が 少なくなりました – km	**燃料の残量が約 5L 以下になった** → **燃料を補給する**
EVモードに現在 切りかえできません EVモードに 現在切替えできません 暖気中 EVモードに 現在切替えできません 電池充電不足 EVモードに 現在切替えできません EV速度域超過 EVモードに 現在切替えできません アクセル踏み過ぎ	**EV ドライブモードに切りかえできない状況※** EV ドライブモードを使用できない理由（暖気中／電池充電中／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります（→P. 141） → **EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する** ※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 142 を参照してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
EVモードが 解除されました EVモードが解除されました 電池充電不足 EVモードが解除されました EV速度域超過 EVモードが解除されました アクセル踏み過ぎ EV MODE（点滅）	**EV ドライブモードが自動解除された※** EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります （→P. 143） **→ しばらく走行する** ※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 142 を参照してください。
補機バッテリ（始動用） 充電不足 取扱書を 確認してください	**補機バッテリーが充電不足** **→ 数秒後※に表示が消えたときは** **約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。** **→ 表示が消えないときは** **「補機バッテリーをがあがったときは」（→ P. 326）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。** ※約 6 秒間表示されます。
停車時はブレーキを 踏んでください （点滅）	**上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持している** 警告ブザーが鳴ります。 そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む**
AHB起動のためには ハイビーム操作が 必要です	**ヘッドランプがロービームの状態でオートマチックハイビームスイッチ★を押した** **→ ヘッドランプをハイビームに切りかえてから、オートマチックハイビームスイッチを押す**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
前方カメラシステム 一時利用不可 少々お待ちください OFF（点滅）	**前方センサーシステムの一時停止** **（カメラセンサーの作動温度範囲外）** 次のシステムが一時的に使用できなくなります。 ・PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★ ・LDA（レーンディパーチャーアラート）★ ・AHB（オートマチックハイビーム）★ ・先行車発進告知機能★ **→メッセージが表示されなくなるなるまでしばらく待つ**
前方カメラシステム 利用不可 フロントガラス汚れを 取ってください OFF（点滅）	**前方センサーシステムの一時停止** **（フロントウインドウガラスの汚れ、氷などの付着）** 次のシステムが一時的に使用できなくなります。 ・PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★ ・LDA（レーンディパーチャーアラート）★ ・AHB（オートマチックハイビーム）★ ・先行車発進告知機能★ **→ フロントウインドウガラスの汚れ、氷などを取り除く（→ P. 164）**

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■LDA の車線逸脱警報について★

次のような場合は、車線を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●作動条件以外の車速で走行しているとき

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります。（→ P. 177）

注意

■「補機バッテリ（始動用）充電不足 取扱書を 確認してください」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他に表示されるメッセージ

次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従って処置することで消灯させることができます。

表示メッセージ	表示内容・対処方法
駆動用電池の 冷却部品の メンテナンスを販売店で 受けてください	**駆動用電池の冷却部品のメンテナンス時期** フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えれられます。 → **トヨタ販売店で駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを受ける**

ただちに処置してください。★

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	なし	キーが見つかりません （点滅）	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした → **電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する**
1回	3回	キーが見つかりません （点滅）	パワースイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した → **電子キーを車内にもどす**
			シフトレバーがPの状態でパワースイッチをOFFにせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → **パワースイッチをOFFにするまたは電子キーを車内にもどす**
1回	連続音（5秒間）	キーが見つかりません 電源をOFFしてください （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがPの状態でパワースイッチをOFFにせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした → **パワースイッチをOFFにしたあと、再度施錠する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
9回	なし	キーが見つかりません （点滅）	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた → **車室内に電子キーがあるか確認する**
連続音	なし	Pレンジに入れてください （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態で、パワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた → **シフトレバーを P にする**
連続音	連続音	Pレンジに入れてください キーが見つかりません （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがＰ以外の状態でパワースイッチをOFFにせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → **・シフトレバーを P にする** **・電子キーを車内に入れる**
1回	連続音（約5秒間）	車室内にキーがあります （点滅）	・車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした ・車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした → **車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	ブレーキを踏みながら キーでパワースイッチに 触れてください （点滅）	・メカニカルキーで解錠してパワースイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・パワースイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた → **ブレーキを踏みながら電子キーでパワースイッチにふれる**
1 回	なし	始動時は Pレンジに 入れてください （点滅）	ハイブリッドシステム始動不可能なシフトレバー位置でハイブリッドシステムを始動しようとしている → **シフトレバーをPにしてからハイブリッドシステムを始動させる**
なし	なし	バッテリー保護の為 自動電源OFFしました	自動電源 OFF 機能が作動した → **次回ハイブリッドシステム始動時に約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電する。**
1 回	なし	キーバッテリー残りわずか	電子キーの電池残量が少ない → **新しい電池と交換する** （→ P. 245）

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	始動時はブレーキを踏みながらパワースイッチを押してください （点滅）	パワースイッチがOFFの状態で運転席のドアを開閉してからハイブリッドシステムを始動せずにパワースイッチをアクセサリーモードに 2 回した → **ブレーキを踏んでパワースイッチを押す**
			電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法で（→P. 324）パワースイッチに電子キーをふれた → **ブザーが鳴ってから 10 秒以内にパワースイッチを押す**
1 回	なし	ステアリングロック未解除 （点滅）	パワースイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった → **ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを押す**
1 回	なし	Pレンジに入れてください （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態でパワースイッチを OFF にした → **シフトレバーを P にする**
1 回	なし	電源をOFFしてください （点滅）	シフトレバーが P 以外でパワースイッチをOFFにしたあとシフトレバーを P にした → **パワースイッチを OFF にする**

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 237 を参照してください）

警告

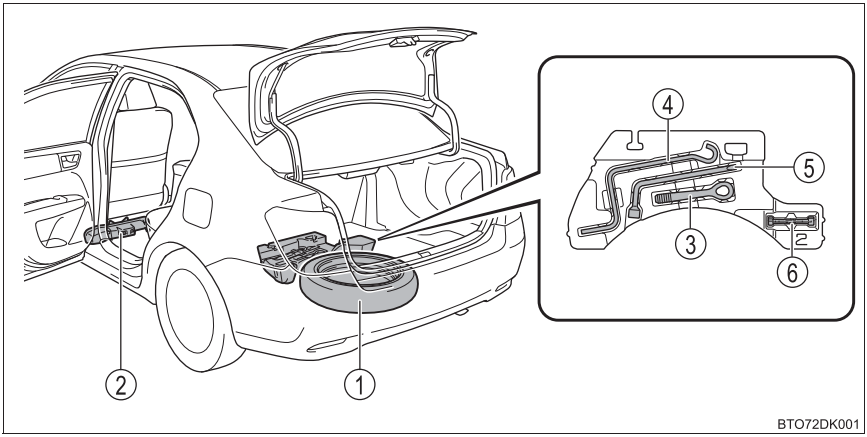
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



① 応急用タイヤ
② ジャッキ
③ けん引フック
④ ジャッキハンドル
⑤ ホイールナットレンチ
⑥ バルブ交換ツール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

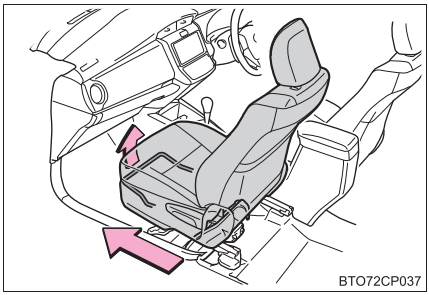
■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

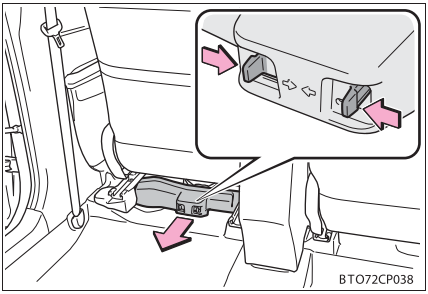
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

1 助手席シートをいちばん前に移動する



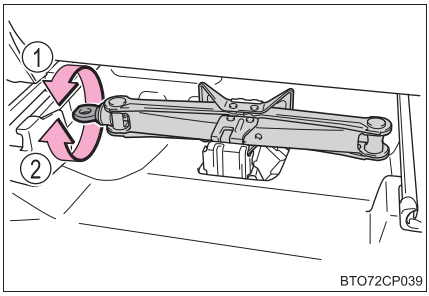
2 ノブを内側につまみ、手前に引いて、カバーを取りはずす



3 ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

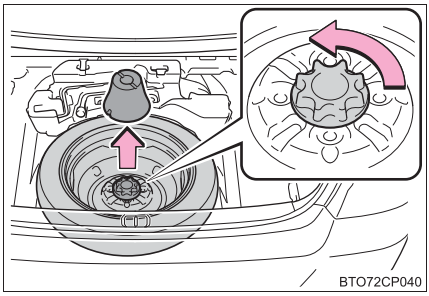
② ゆるむ



応急用タイヤの取り出し方

1 ラゲージマットを取りはずす

2 留め具をはずし、応急用タイヤを取りはずす



警告

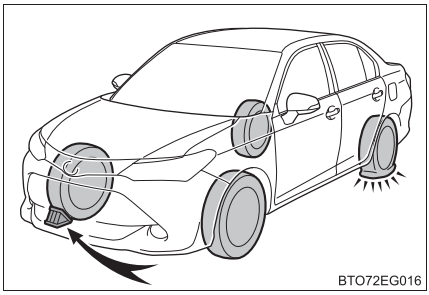
■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

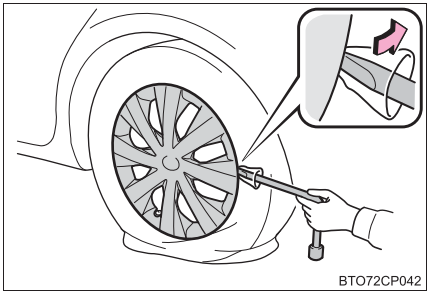


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

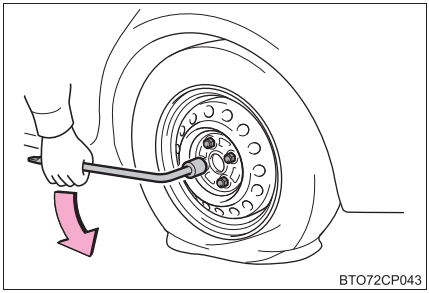
2 ホイールキャップをはずす*

*：スチールホイールのみ

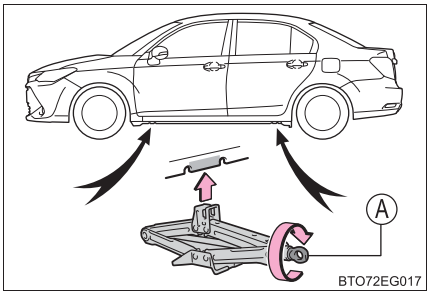
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO72CP042

3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

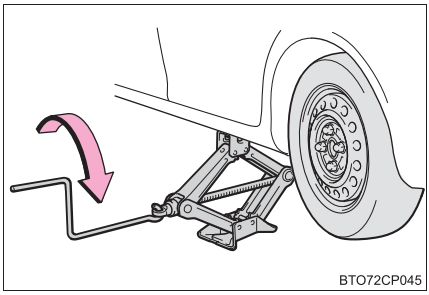

BTO72CP043

4 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



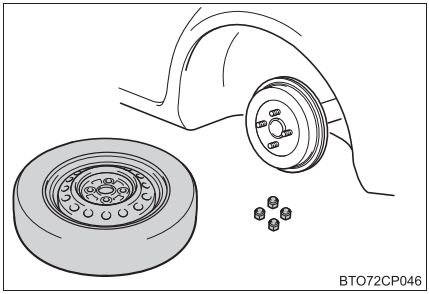
BTO72EG017

5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる


BTO72CP045

6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



警告

■**タイヤ交換について**

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

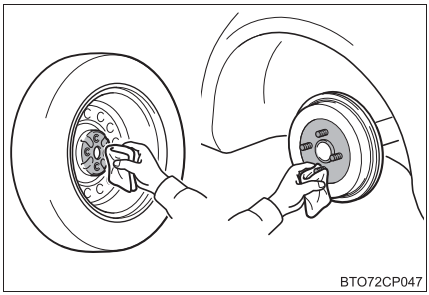
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→P. 240）

タイヤの取り付け

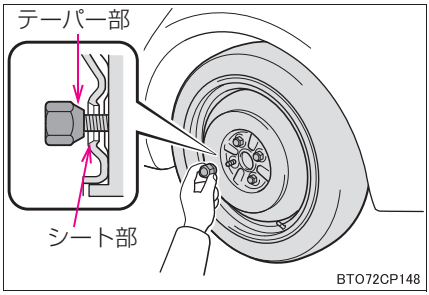
1 ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

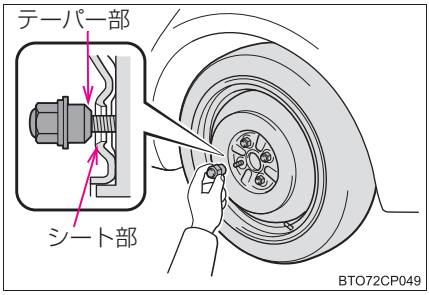


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

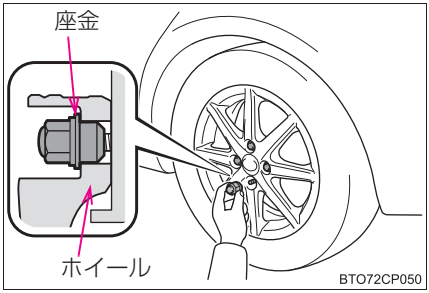
スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



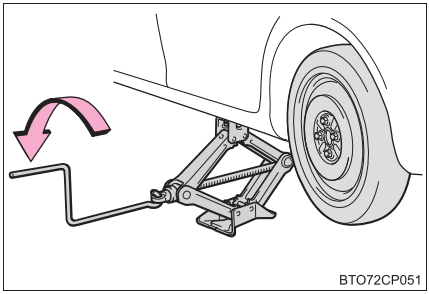
アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



アルミホイールからアルミホイールにかえるとき：
ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

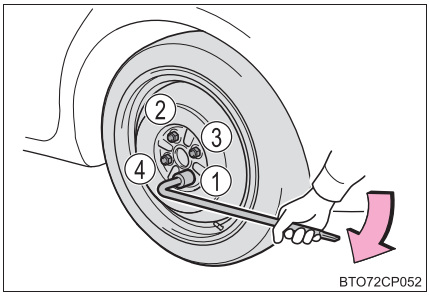


3 車体を下げる


BTO72CP051

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）

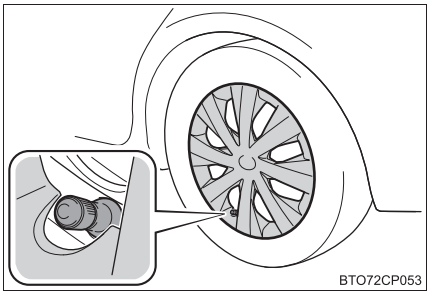


BTO72CP052

5 ホイールキャップを取り付ける*

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付ける。

*：スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません）


BTO72CP053

6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 342）

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1. 後輪を応急用タイヤに交換する
2. パンクした前輪をはずした後輪に交換する
3. タイヤチェーンを前輪に装着する

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときはご注意ください。

警告

■応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- EPS
- AHB（オートマチックハイビーム）★
- TRC
- LDA（レーンディパーチャーアラート）★
- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

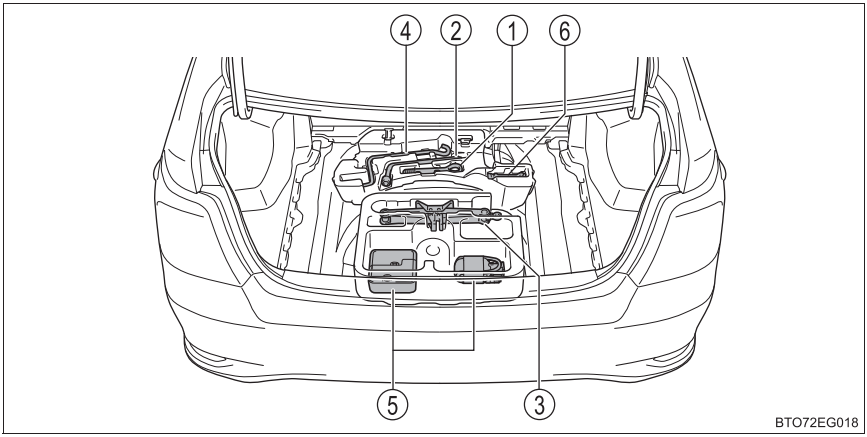
■**タイヤがパンクしたときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

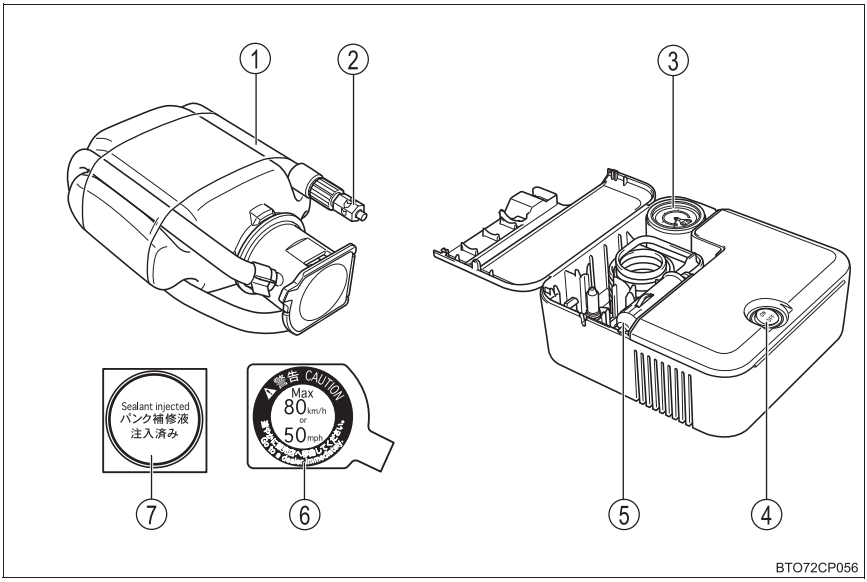
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



① けん引フック
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキ
※ジャッキの使い方（→ P. 302）
④ ジャッキハンドル
⑤ タイヤパンク応急修理キット
⑥ バルブ交換ツール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

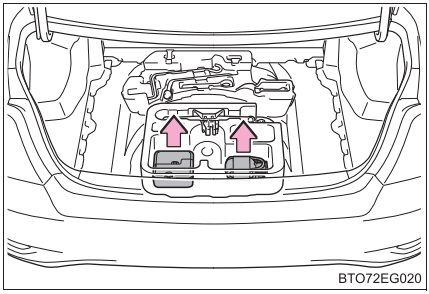
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ 空気圧計
④ スイッチ
⑤ 電源プラグ
⑥ 速度制限ラベル
⑦ パンク補修液注入済ラベル

応急修理キットの取り出し方

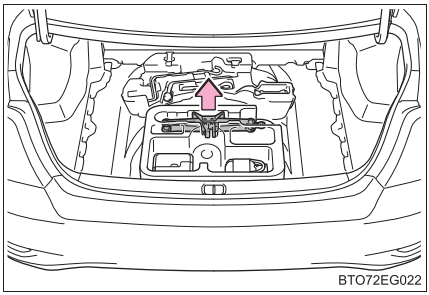
1 ラゲージマットを取りはずす
2 応急修理キットを取り出す



ジャッキの取り出し方

1 ラゲージマットを取りはずす

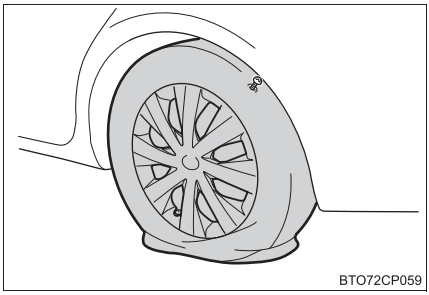
2 ジャッキを取り出す



応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。



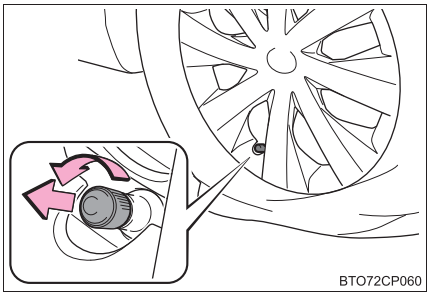
・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

応急修理するとき

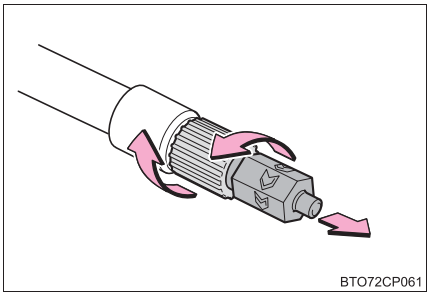
1 応急修理キットを取り出す

2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす


BTO72CP060

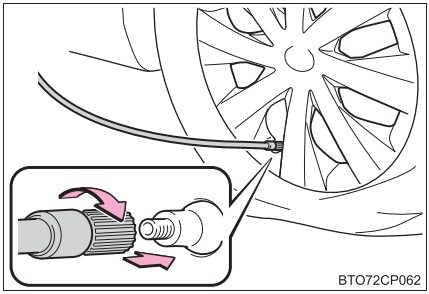
3 ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液注入済みラベルは指定の位置へ貼り付けます。（9へ）空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

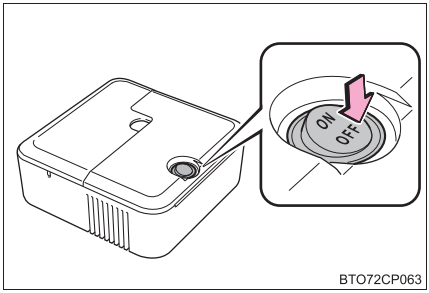

BTO72CP061

4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。

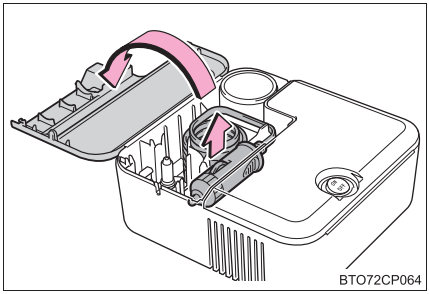

BTO72CP062

5 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認する

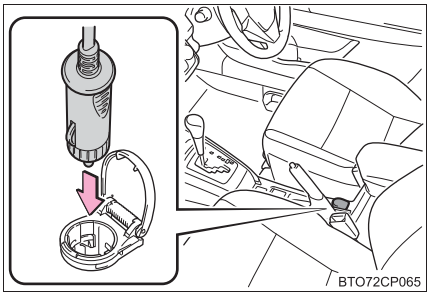


BTO72CP063

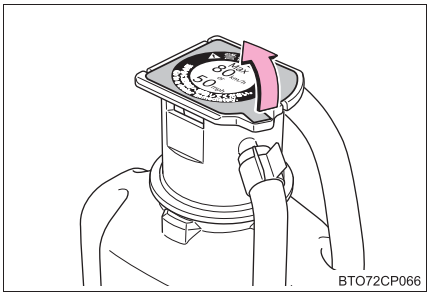
6 コンプレッサーの電源プラグをはずす



7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P. 219）

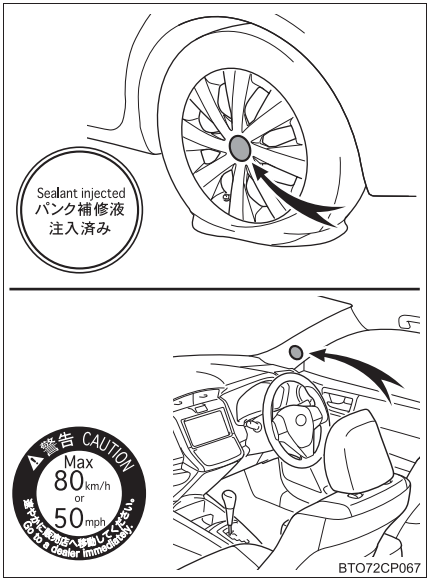


8 速度制限ラベルをはがす



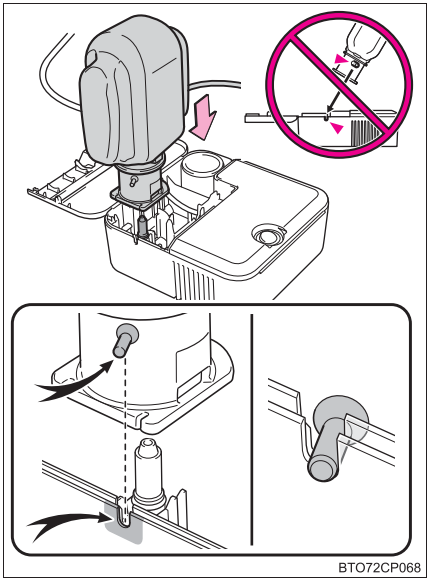
9 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



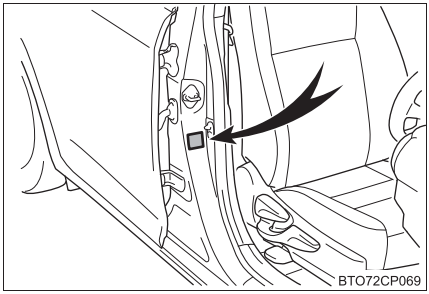
10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。



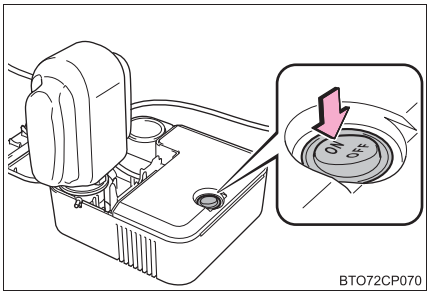
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 238）



12 ハイブリッドシステムを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

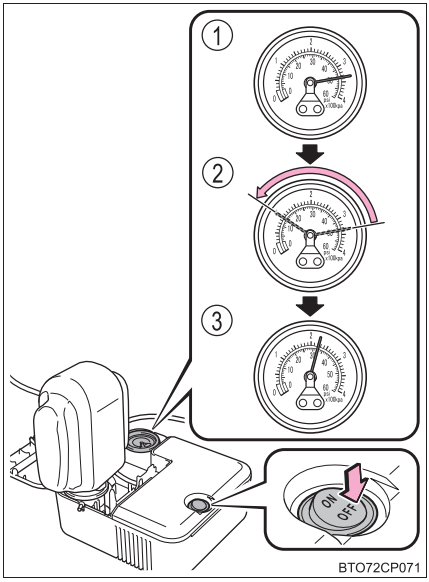
① スイッチ“ON”直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを“OFF”にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。



空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 318）

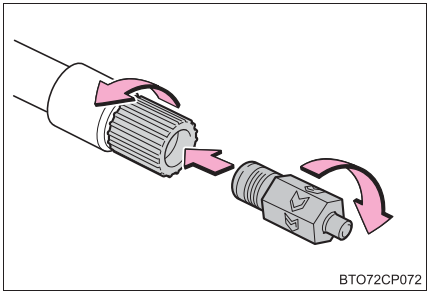
15 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

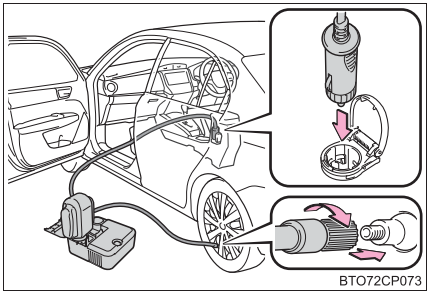
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。


BTO72CP072

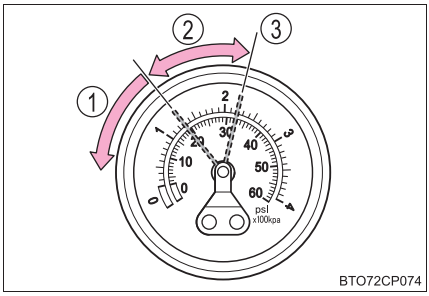
18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランク内に収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、安全に走行する（速度 80km/h 以下）

20 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する


BTO72CP073

21 コンプレッサーのスイッチを約5秒間“ON”にし、“OFF”にして空気圧を確認する



BTO72CP074

① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

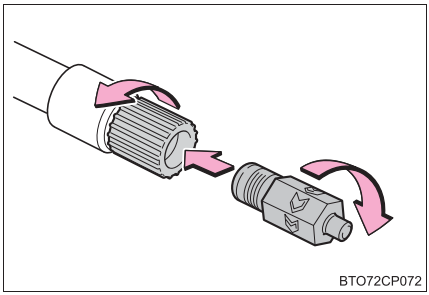
② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：22 へ

③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 342）の場合：23 へ

22 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行あとにあらためて 20 から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランク内に収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

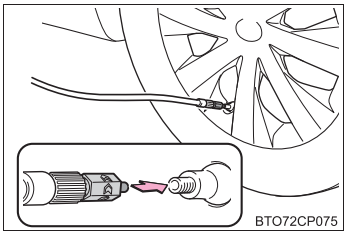
●コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして数秒間経過後、スイッチを“OFF”にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを“OFF”にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

警告

- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・空気圧を確認してください。130kPa　未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことを確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 131、135）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キー★が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 324）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステム★に異常がある可能性があります。
  （→ P. 64）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 326）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。（→ P. 233）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーン鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 326）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。（→ P. 233）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーがＰの位置にあることを確認する
3. パワースイッチをアクセサリーモードにする
4. パワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

1 パーキングブレーキをかける

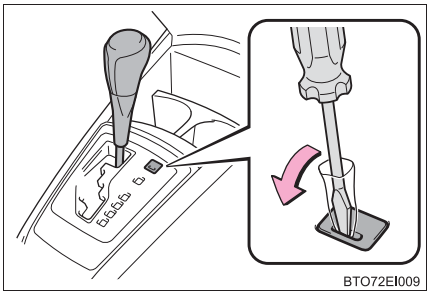
2 エンジンスイッチ★を “ACC” またはパワースイッチ★をアクセサリーモードにする

3 ブレーキペダルを踏む

4 カバーをはずす

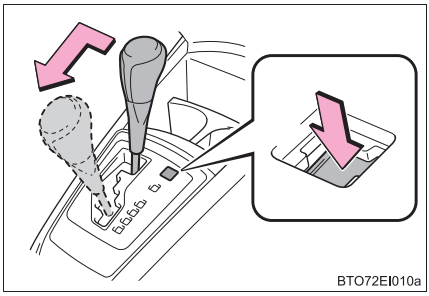
マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずします。

傷が付くのを防ぐために、ドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。


BTO72EI009

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。


BTO72EI010a

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

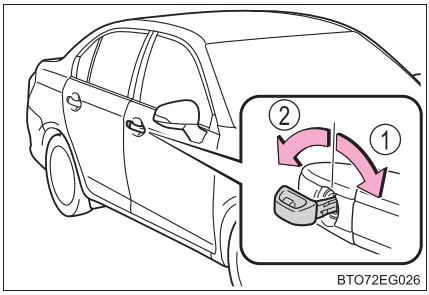
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 102）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの解錠・施錠

メカニカルキー（→P. 87）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② 全ドア解錠

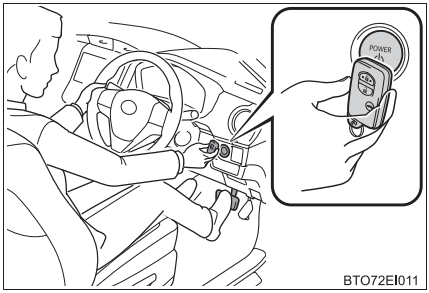


ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーがPの状態でブレーキペダルをしっかり踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONモードへ切りかわります。
カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する。

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 245）

■モードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 136）

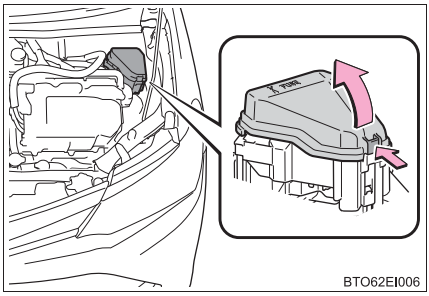
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

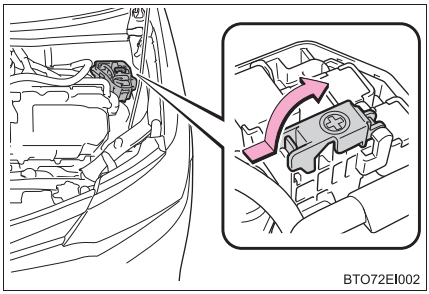
1 ボンネットを開け、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、カバーを持ち上げます。

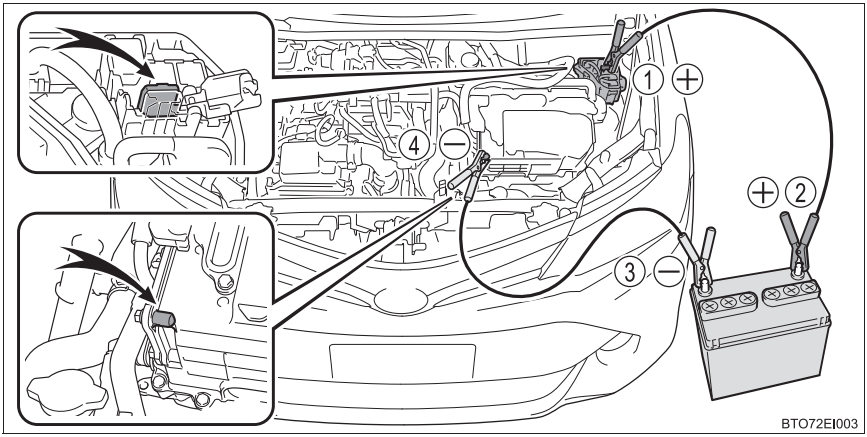


2 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを押しながら、カバーを持ち上げます。



3 ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

5 スマートエントリー＆スタートシステム装着車は、パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチ★をいったん“ON”、またはパワースイッチ★を ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ヒューズボックスのカバーは奥にあるツメ（2ヶ所）を先に引っかけてから取り付けてください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

- 補機バッテリーがあがった直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。
- 補機バッテリーがあがったあとの、最初のハイブリッドシステム始動は始動できないことがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、車両は補機バッテリーがあがる前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
  補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

警告

■**補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**補機バッテリーあがりの処置をしたあとは**

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■**補機バッテリーの交換について**

→ P. 234

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■**救援用端子について**

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。
この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」が表示されたり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

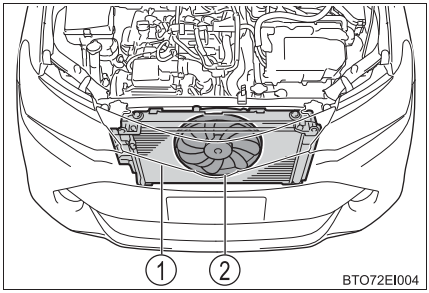
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

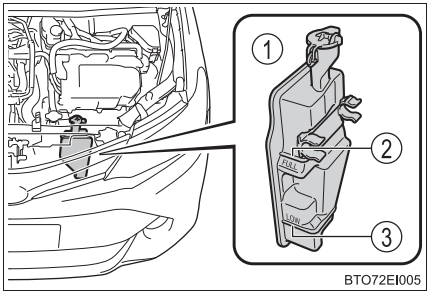


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバータンク

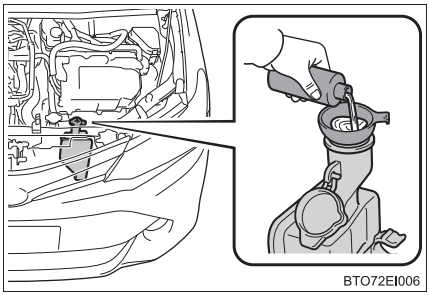
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 341）

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

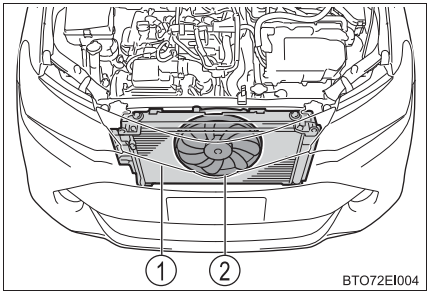
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

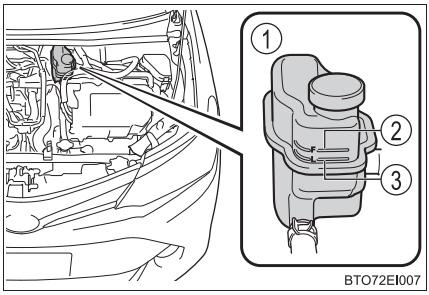


3 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバータンク

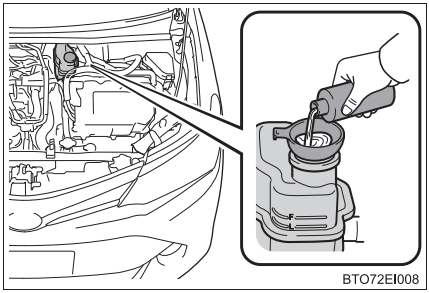
② “F”（上限）

③ “L”（下限）



4 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 341）

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



5 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■**エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ベルトやファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■**冷却水を入れるときの注意**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

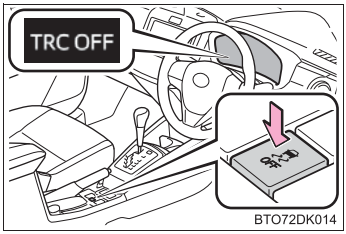
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを停止する
2. タイヤ前後の土や雪などを取り除く
3. タイヤの下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....338
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....344

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	36

※エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正 キヤッスル モーターオイル 0W-16 ※2 —SAE 0W-16 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 0W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	3.4	3.7

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

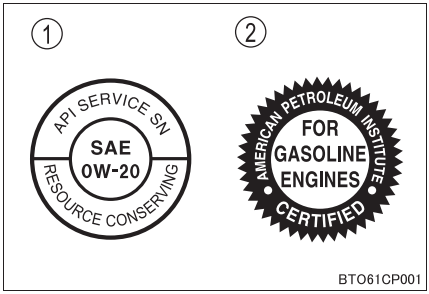
※2 0W-16 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

トヨタキヤッスルモーターオイルまたは、API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

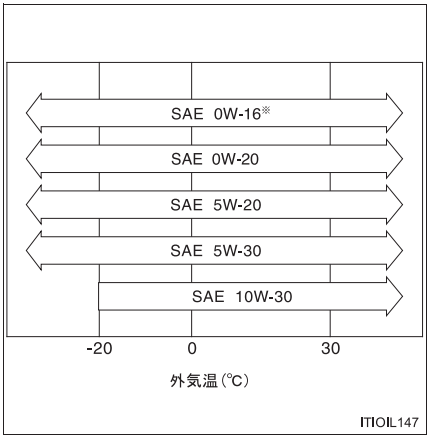
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-16 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

・0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）		
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	ガソリンエンジン	寒冷地仕様車	5.3
		寒冷地仕様車を除く	4.5
	インバーター		1.6

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	3.3

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	73 以上

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で 294N（30kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200N（20.4kgf）のときのノッチ※数	8 ～ 11

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”）という音のことです

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.3

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	175/65R15 84H	15 × 5J	230（2.3）	
	185/55R16 83V	16 × 5 1/2J	230（2.3）	
応急用タイヤ★	T125/70D16 96M	16 × 4T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車） ロービーム（バルブタイプ：H11） ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	 55 60
	車幅灯★	5
	フロントフォグランプ★（バルブタイプ：H16）	19
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	尾灯	5
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	パーソナルランプ	8
	ルームランプ	8
	トランクランプ	3.8

※ 表に記載の無いランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
カローラ アクシオ	NKE165	1NZ-FXE （1.5L ガソリン）	1LM	FF （前輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ スマートエントリー&スタートシステム★（→ P. 100）

機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステムの作動	あり	なし
作動の合図（ブザー）	あり	なし
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
半ドア警告ブザー	あり	なし
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 90）（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレス機能	あり	なし
作動の合図（ブザー）	あり	なし
作動の合図（ブザー音量調整）	7 ※1	レベル 0 ～ 7
	5 ※2	
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
半ドア警告ブザー	あり	なし
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し
		2 回押し
		1 回押し続ける（長）
		禁止

※1 LED ヘッドランプ非装着車

※2 LED ヘッドランプ装着車

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 90）（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレス機能	あり	なし
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒

■ ランプ自動点灯・消灯システム★（→ P. 148）

機能の内容	初期設定	変更後
ライトセンサーの感度	標準	レベル -2 ～ +2
暗さを検知してからランプを点灯するまでの時間	標準	長め

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→ P. 208）

機能の内容	初期設定	変更後
消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
		30 秒
解錠後の作動	あり	なし
エンジンスイッチ“LOCK”後の作動（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）	あり	なし
パワースイッチ OFF 後の作動（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	あり	なし
検知エリア接近時の作動（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	あり	なし

■ 車両接近通報装置（→ P. 56）

機能の内容	初期設定	変更後
音量調整	レベル 1	レベル 2
		レベル 3

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....348
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....352
アルファベット順さくいん.....354
五十音順さくいん.....355

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 87）
- キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 89）

解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 245）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときはパワースイッチを OFF にしてください（→ P. 136）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 94, 102）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください（→ P. 94）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動しない（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 131）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 133）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 326）

ハイブリッドシステムが始動しない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 135）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 138）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 100）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 138）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 324）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 326）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
  エンジンスイッチの位置が“ON”になっていますか？

  エンジンスイッチの位置が“ON”でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 323）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  パワースイッチは ON モードになっていますか？

  パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 323）

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
  盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます（→ P. 132）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 138）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 116）

パワースイッチが自動的に OFF になった（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 137）

警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 352）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 279、283 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車

  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 297）
- タイヤパンク応急修理キット装着車

  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 308）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 335）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 101
	エンジンスイッチにキー★が挿してある	P. 133
	シフトポジションが P 以外になっている（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 296
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 150
トランクを閉めたとき	電子キー★をトランク内に置き忘れている	P. 97
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キー★の電池残量が少なくなっている	P. 295
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 101
	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 101

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランクが確実に閉まっていない	P. 288
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 281
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 280
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 126
前方の障害物と衝突しそうになった	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 166
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用している	P. 174
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能★が作動した	P. 184

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....198
ABS
（アンチロックブレーキシステム）.....186
ACC
（アクセサリー）.....132
AHB
（オートマチックハイビーム）.....180
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）.....186
EDR
（イベントデータレコーダー）..... 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....186
EV
（エレクトリックビークル）.....141
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）.....343
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....340
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）..... 40, 48
LDA
（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）.....174
PCS
（プリクラッシュセーフティシステム）.....166
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）..... 30
TRC
（トラクションコントロール）.....186
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....186

五十音順さくいん

あ

アースポイント（補機バッテリーあがりの処置）..... 326
アームレスト 222
アウターミラー（ドアミラー）... 112
　操作 112
アクセサリーソケット..... 219
アクセサリーモード..... 136
アシストグリップ..... 220
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 186
アンテナ（スマートエントリー&スタートシステム）..... 100

い

EV ドライブモード..... 141
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 131, 135
位置交換（タイヤローテーション）..... 237
イベントデータレコーダー（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 64
イルミネーテッドエントリーシステム 210
インジケーター（表示灯）..... 68
インテリアランプ（室内灯）..... 208
　操作 209
　ワット数..... 343
インナーミラー..... 111

う

ウインカー（方向指示灯）..... 146
　電球（バルブ）の交換 258, 261, 263
　方向指示レバー..... 146
　ワット数 343
ウインドウ..... 116
　ウォッシャー 153, 156
　パワーウインドウ..... 116
　リヤウインドウデフォッガー.....200
ウインドウロックスイッチ..... 116
ウインドシールドデアイサー.....200
ウォーニングランプ（警告灯）.....279
ウォッシャー.....153, 156
　液の補充 236
　スイッチ 153, 156
　タンク容量 342
　冬の前の準備・点検.....194
動けなくなったときは（スタック）.....335
運転 120
　運転を補助する装置.....186
　寒冷時の運転 194
　正しい運転姿勢.....24
　手順.....120

え

エアコン 198
オートエアコン 198
フィルターの交換 243
エアバッグ 30
SRS エアバッグ警告灯..... 279
作動条件..... 35
配置 30
エネルギーモニター..... 76
LDA
（レーンディパーチャー
アラート)..... 174
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）..... 186
機能 186
パワーステアリング
警告灯..... 279
パワーステアリング警告
ブザー..... 279
エンジン
エンジン警告灯 279
エンジンスイッチ 131, 135
オーバーヒート 331
ボンネット..... 232
ハイブリッドシステムの
始動方法..... 131, 135
エンジンオイル..... 339
警告メッセージ 286
冬の前の準備・点検 194
メンテナンスデータ 339
油圧警告表示..... 286
エンジンスイッチ..... 131, 135
エンジンフード（ボンネット）... 232
開け方..... 232
エンジンルーム
エンジンルームから
蒸気が出ている 331

お

オイル（エンジンオイル）.....339
応急用タイヤ.....297
空気圧 342
交換方法 297
オートエアコン 198
オートマチックハイビーム.....180
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）.....150
オーバーヒート.....331
オープナー
給油口 160
ボンネット 232
お子さまを乗せるとき.....39
ウインドウロックスイッチ 116
お子さまの安全のために 39
子供専用シート.....40
シートベルトの着用.....27
チャイルドシートの取り付け ...48
チャイルドプロテクター 94
オドメーター.....70
機能.....70
表示切りかえボタン 71

か

カーテンシールドエアバッグ 30
カーペット 229
　洗浄 229
　フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示 70
回生ブレーキ 56
外装の電球（バルブ）..... 251
　交換要領 251
　ワット数 343
カスタマイズ機能 344
型式 343
カップホルダー 214
ガラスの曇り止め
（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 200
ガレージジャッキ 235
冠水路走行 129
寒冷時の運転 194

き

キー 86
　キーナンバープレート 86
　キーの構成 86
　キーレスエントリー 90, 100
　キーをなくした 87, 89
　正常に働かない 324
　解錠・施錠ができない 324
　電子キー 86
　電池が切れた 245, 324
　ハイブリッドシステムが
　始動できない 321
　メカニカルキー 87
　ワイヤレスリモコン 90
キーレスエントリー 90, 100
　スマートエントリー＆
　スタートシステム 100
　ワイヤレスドアロック 90
救援用端子 326
給油 158
　給油のしかた 158
緊急時シートベルト固定機構 27
緊急時の対処
　オーバーヒートした 331
　キーの電池が切れた 245, 324
　警告灯がついた 279
　警告メッセージが
　表示された 283
　けん引 272
　故障したときは 266
　シフトレバーが
　シフトできない 323
　車両を緊急停止する 270
　スタックした 335
　電子キーが正常に働かない 324
　発炎筒 268
　ハイブリッドシステムが
　始動できない 321
　バッテリーがあがった 326
　パンクした 297, 308

く

空気圧（タイヤ）..... 342
　メンテナンスデータ 342
区間距離計
（トリップメーター）..... 70
　機能 70
　表示切りかえボタン 71
曇り取り
　フロントウインドウ
　　ガラス..... 200
　ミラーヒーター 200
　リヤウインドウ
　　デフォッガー 200
クラクション（ホーン）..... 110
クリアランスランプ（車幅灯）... 148
　スイッチ..... 148
　電球（バルブ）の交換..... 260
　ワット数..... 343
クリップ
　フロアマット..... 22
グローブボックス..... 212

け

警音器（ホーン）.....110
計器類（メーター）.....70
　外気温表示 70
　クロックセットボタン 71
　照度調整 71
　スピードメーター.....70
　タコメーター 70
　時計表示 70
　トリップインフォメーション ...70
　燃料計 70
　マルチインフォメーション
　　ディスプレイ.....73
警告灯.....67
　ABS ＆ブレーキアシスト 279
　SRS エアバッグ.....279
　LED ヘッドランプ 280
　エンジン 279
　シートベルト非着用.....280
　スリップ表示灯.....280
　電子制御ブレーキ.....279
　燃料残量 280
　パーキングブレーキ未解除 279
　パワーステアリング.....279
　PCS.....280
　プリテンショナー.....279
　ブレーキ 279
　マスターウォーニング.....281

警告ブザー
シートベルト非着用 280
パーキングブレーキ
未解除走行時 279
パワーステアリング 279
半ドア 92, 101
半ドア走行時 288
ブレーキ 279
油圧 286
ランプ消し忘れ 150
リバース 145
警告メッセージ 283
化粧ミラー（バニティミラー）... 218
けん引 272
けん引のしかた 272
フック 274

こ

コインホルダー 216
交換
エアコンフィルター 243
キーの電池 245
タイヤ 297
電球（バルブ）..... 251
ヒューズ 248
工具（ツール）..... 298, 309
光軸調整ダイヤル 149
航続可能距離 75
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 261
ワット数 343
子供専用シート 40
選択方法 40
取り付け方 48
コンソールボックス 213
コンライト
（自動点灯・消灯装置）..... 148

さ

サイドエアバッグ.....30
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....263
方向指示レバー.....146
ワット数.....343
サイドミラー（ドアミラー）.....112
操作.....112
サービスプラグ.....62
サンバイザー.....218

し

シート.....106
子供専用シート.....40
正しい運転姿勢.....24
調整.....106
手入れ.....229
フロントシート.....106
ヘッドレスト.....107
シートヒーター.....206
シートベルト.....26
お子さまの着用.....27
緊急時シートベルト固定機構...26
シートベルト非着用
警告灯.....280
正しく着用するには.....26
着け方・はずし方.....26
手入れ.....229
妊娠中の方の着用.....28
シートベルトプリテンショナー.....26
機能.....26
プリテンショナー警告灯.....279
室内灯
（インテリアランプ）.....209
操作.....209
ワット数.....343
始動のしかた.....131, 135
シフトポジション.....144

シフトレバー 144
シフトレンジの切りかえ..... 144
シフトロックシステム
（解除ボタン）..... 323
操作 144
リバース警告ブザー 145
シフトレバーがシフト
できないときは..... 323
締め付けトルク（ホイール）..... 305
ジャッキ
ガレージジャッキ 235
車載ジャッキ..... 298, 309
ジャッキハンドル..... 298, 309
車幅灯
スイッチ..... 148
電球（バルブ）の交換..... 260
ワット数..... 343
車両型式 343
車両仕様（スペック）..... 338
車両データの記録..... 7, 162
車両を緊急停止するには 270
手動光軸調整ダイヤル 149
ジュニアシート..... 41
瞬間燃費 78
助手席アッパーボックス 212
仕様（車両仕様）..... 338

す

スイッチ
EV ドライブモード..... 141
イグニッション..... 131, 135
ウインドウロック..... 116
ウインドシールド
デアイサー..... 200
ウォッシャー 153, 156
LDA 174
エンジンスイッチ..... 131, 135
オートマチックハイビーム 180
シートヒーター..... 206
車両接近通報装置..... 56
ドアミラー 112
ドアロック 92
パワーウインドウ..... 116
PCS OFF..... 167
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 267
VSC OFF..... 188
フォグランプ 152
ランプ..... 148
リヤウインドウ
デフォッガー..... 200
ワイパー 153, 156
スタック..... 335
ステアリングホイール
（ハンドル）..... 109
位置調整 109
スイッチ 223
ステアリングロック 133, 138
解除できないとき..... 133, 138
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 194
スピードメーター 70

スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧 342
交換方法 297
スペック（車両仕様） 338
スマートエントリー&
スタートシステム 100
アンテナの位置 100
カスタマイズ設定 344
警告ブザー 101
警告メッセージ 293
作動範囲 100
正常に働かないとき 324
節電機能 101
電波がおよぼす影響
について 105
ドアの解錠・施錠 90
トランクの解錠 96
ハイブリッドシステムの
始動 135
スモールランプ（車幅灯） 148
スイッチ 148
電球（バルブ）の交換 260
ワット数 343

せ

清掃 226, 229
アルミホイール 227
外装 226
シートベルト 229
内装 229
積算距離計（オドメーター） 70
機能 70
表示切りかえボタン 71
セキュリティインジケーター 64
センサー
ライトセンサー 149
前方センサー 162
洗車 226
前照灯（ヘッドランプ） 148
スイッチ 148
電球（バルブ）
の交換 254, 263
ライトセンサー 149
ランプ消し忘れ警告ブザー 150
ランプ消し忘れ防止機能 150
ワット数 343
先行車発進告知機能 184

そ

速度計（スピードメーター） 70

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 146
電球（バルブ）
の交換.....258, 261, 263
方向指示レバー 146
ワット数..... 343
タイヤ 237
応急用タイヤ 297
空気圧..... 342
交換 297
締め付けトルク 305
点検 237
パンクしたときは 297, 308
ホイールサイズ 342
ローテーション
（位置交換）..... 237
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 335
タイヤチェーン..... 195

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 195
チャイルドシート..... 40
ISOFIX バーでの取り付け..... 50
シートベルトでの固定..... 49
選択方法..... 40
チャイルドプロテクター 94
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 147
操作 147
パーキングブレーキ
未解除警告灯 279
未解除走行時
警告ブザー 279
メンテナンスデータ 341

つ

ツール（工具）.....298, 309

て

ディスプレイ
エネルギーモニター 76
警告メッセージ.....283
トリップ
インフォメーション 70
手入れ.....226, 229
アルミホイール.....227
外装 226
シートベルト 229
内装 229
テールランプ（尾灯）.....148
スイッチ 148
電球（バルブ）の交換.....261
ワット数 343
デフォッガー
（リヤウインドウ
デフォッガー）.....200
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....251
ワット数 343
点検基準値
（メンテナンスデータ）.....338
電子キー.....86
作動範囲 100
正常に働かないとき 324
節電機能 101
電池が切れた 245, 324
電池交換 245
電池交換（キー）.....245

と

ドア 90
スマートエントリー＆スタートシステム 100
チャイルドプロテクター 94
ドアガラス 116
ドアロックスイッチ 92
半ドア走行時警告ブザー 288
ロックレバー 93
ワイヤレスリモコン 90
ドアミラー 112
操作 112
盗難防止装置
イモビライザーシステム 64
時計 221
トップテザーアンカー 48
Toyota Safety Sence C 161
トラクションコントロール（TRC） 186
トランク 96
オープナー 96
キー閉じ込み防止機能 97
警告メッセージ 288
トランスミッション 144
操作 144
メンテナンスデータ 341
トリップインフォメーション 70
トリップメーター 70
機能 70
表示切りかえボタン 71

な

内装
収納装備 211
手入れ 229
「ナノイー」 203

に

荷物
積むときの注意 130
トランク 96

ぬ

ぬかるみにはまった（スタックした） 335

ね

燃費
瞬間燃費 78
平均燃費 75
燃料 338
給油 158
種類 338
燃料残量警告灯 280
容量 338
燃料計 70

は

パーキングブレーキ..... 147
操作 147
パーキングブレーキ
未解除警告灯 279
未解除走行時
警告ブザー 279
メンテナンスデータ 341
パーソナルランプ..... 209
操作 209
ワット数..... 343
排気ガス 54
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 148
オートマチックハイビーム.... 180
スイッチ..... 180
電球（バルブ）の交換..... 254
ワット数..... 343
ハイブリッドシステム
インジケーター 83
オーバーヒート 331
始動できないときは 321
始動方法..... 131, 135
ハイブリッド
システムの注意 59
ハイブリッド
システムの特徴 55
ハイブリッド車運転の
アドバイス 192
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 263
ハザードランプ（非常点滅灯）....267
スイッチ 267
電球（バルブ）
の交換 258, 261, 263
ワット数 343
挟み込み防止機能
パワーウインドウ.....117
発炎筒.....268
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換.....261
ワット数 343
バッテリーがあがった.....326
バニティ（化粧用）ミラー.....218
バルブ（電球）
交換要領（外装バルブ）.....251
ワット数 343
パワーウインドウ 116
ウインドウロックスイッチ 116
閉めることができない
ときは 117
操作 116
挟み込み防止機能.....117
巻き込み防止機能.....117
パワーステアリング 186
機能 186
警告灯 279
パンクした
応急用タイヤ装着車.....297
タイヤパンク応急修理キット
装着車 308

番号灯
（ライセンスプレートランプ）... 148
スイッチ ... 148
電球（バルブ）の交換 ... 262
ワット数 ... 343
ハンドル
（ステアリングホイール） ... 109
位置調整 ... 109
スイッチ ... 223

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC） ... 186
ヒーター
オートエアコン ... 198
シートヒーター ... 206
非常点滅灯
（ハザードランプ） ... 267
スイッチ ... 267
電球（バルブ）
の交換 ... 258, 261, 263
ワット数 ... 343
尾灯（テールランプ） ... 148
スイッチ ... 148
電球（バルブ）の交換 ... 261
ワット数 ... 343
ヒューズ ... 248
表示灯 ... 68
日よけ（サンバイザー） ... 218
ヒルスタートアシスト
コントロール ... 186

ふ

ブースターケーブル
のつなぎ方 ... 326
フォグランプ ... 148
スイッチ ... 148
電球（バルブ）の交換 ... 255
ワット数 ... 343
ブザー
シートベルト非着用 ... 280
スマートエントリー&
スタートシステム ... 293
パーキングブレーキ
未解除走行時 ... 279
パワーステアリング ... 279
半ドア ... 92, 101
半ドア走行時 ... 288
ブレーキ ... 279
油圧 ... 286
ランプ消し忘れ ... 150
リバース ... 145
フック
けん引フック ... 274
フロアマット固定フック ... 22
フューエルメーター（燃料計） ... 70
フューエルリッド（給油口） ... 158
冬の前の準備（寒冷時の運転） ... 194
冬用タイヤ ... 194
プリクラッシュセーフティ
システム (PCS) ... 166
機能 ... 166
PCS OFF スイッチ ... 167
PCS 警告灯 ... 280

ブレーキ
回生ブレーキ 56
緊急ブレーキシグナル 187
警告ブザー 279
パーキングブレーキ 147
ブレーキ警告灯 279
メンテナンスデータ 341
ブレーキアシスト 186
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯 279
機能 186
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる 126
ブレーキフルード 341
フロアマット 22
フロントシート 106
正しい運転姿勢 24
調整 106
手入れ 229
ヘッドレスト 107
フロントパーソナルランプ 209
操作 209
ワット数 343
フロントフォグランプ 148
スイッチ 148
電球（バルブ）の交換 255
ワット数 343
フロント方向指示灯 146
電球（バルブ）の交換 258
方向指示レバー 146
ワット数 343

へ

平均燃費 75
ヘッドランプ 148
警告メッセージ 283
スイッチ 148
手動光軸調整ダイヤル 149
電球（バルブ）
の交換 254, 263
ライトセンサー 149
ランプ消し忘れ警告ブザー 150
ランプ消し忘れ防止機能 150
ワット数 343
ヘッドランプオートレベリング
システム 150
警告メッセージ 287
ヘッドレスト 107
ベビーシート 41

ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 297
メンテナンスデータ 342
方向指示灯 146
電球（バルブ）
の交換..... 258, 261, 263
方向指示レバー 146
ワット数..... 343
補機バッテリー
補機バッテリーが
あがったときは 326
補機バッテリーについて..... 233
ホーン（警音器）..... 110
保証..... 9
ボトルホルダー..... 214
ボンネット 232
開け方..... 232

ま

マスターウォーニング.....283
マルチインフォメーション
ディスプレイ 73
警告メッセージ.....283
トリップインフォメーション ...70

み

ミラー
インナーミラー.....111
ドアミラー 112
バニティミラー.....218

め

メーター（計器類）.....70
警告灯 67
表示灯 68
照度調整 80
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....73
メーター 70
メカニカルキー 87
メンテナンスデータ 338

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....344
雪道ですべって動けない
（スタックした）.....335
油脂類.....338

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 148
スイッチ..... 148
電球（バルブ）の交換..... 262
ワット数..... 343
ラゲージルーム（トランク）..... 96
ラジエーター
オーバーヒート..... 331
メンテナンスデータ 341
ランプ
インテリアランプ 209
室内灯..... 208
電球（バルブ）の交換..... 251
パーソナルランプ 209
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 267
フロントフォグランプ..... 152
ヘッドランプ（前照灯）..... 148
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 146
ライトセンサー 149
ランプ消し忘れ警告ブザー.... 150
ランプ消し忘れ防止機能..... 150
ワット数..... 343
ランプ消し忘れ警告ブザー 150
ランプ消し忘れ防止機能 150

り

リヤアームレスト 222
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ 200
リヤ方向指示灯 146
電球（バルブ）の交換.....261
方向指示レバー.....146
ワット数 343
リヤワイパー 156

る

ルームミラー
（インナーミラー）.....111
ルームランプ（室内灯）.....208
操作.....209
ワット数 343

れ

レーンディパーチャー
アラート (LDA) 174
冷却水 341
警告メッセージ 286
冬の前の準備 194
メンテナンスデータ 341
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 331
メンテナンスデータ 341
レバー
給油口 160
シフト 144
ハンドル位置調整レバー 109
方向指示 146
ボンネット解除 232
ロック（レバー） 93

ろ

ロック
ウインドウロック 116
シフトロック 323
スマートエントリー＆
スタートシステム 100
チャイルドプロテクター 94
ドア 90
ワイヤレスリモコン 86

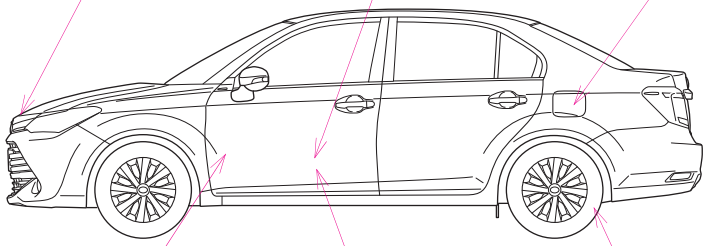
わ

ワイパー＆
ウォッシャー..... 153, 156
ワイパーブレード（寒冷地用）... 195
ワイヤレスリモコン..... 86
作動の合図..... 91
操作 90
電池の交換..... 245
半ドア警告ブザー 92
ワックス 226
ワット数 343

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	トランクオープナー	給油口
P. 232	P. 96	P. 160



ボンネット解除レバー	給油口オープナー	タイヤ空気圧
P. 232	P. 160	P. 342

燃料の容量（参考値）	36L
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン P. 338 ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 342
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 3.4L オイルとフィルター交換時 3.7L
エンジンオイルの種類	P. 339

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

キ-14

M 12K76
01999ー12K76
NAI-2017年６月28日
2016年５月10日 初版
2017年７月５日 ２版
カローラ アクシオ(ハイブリッド車)